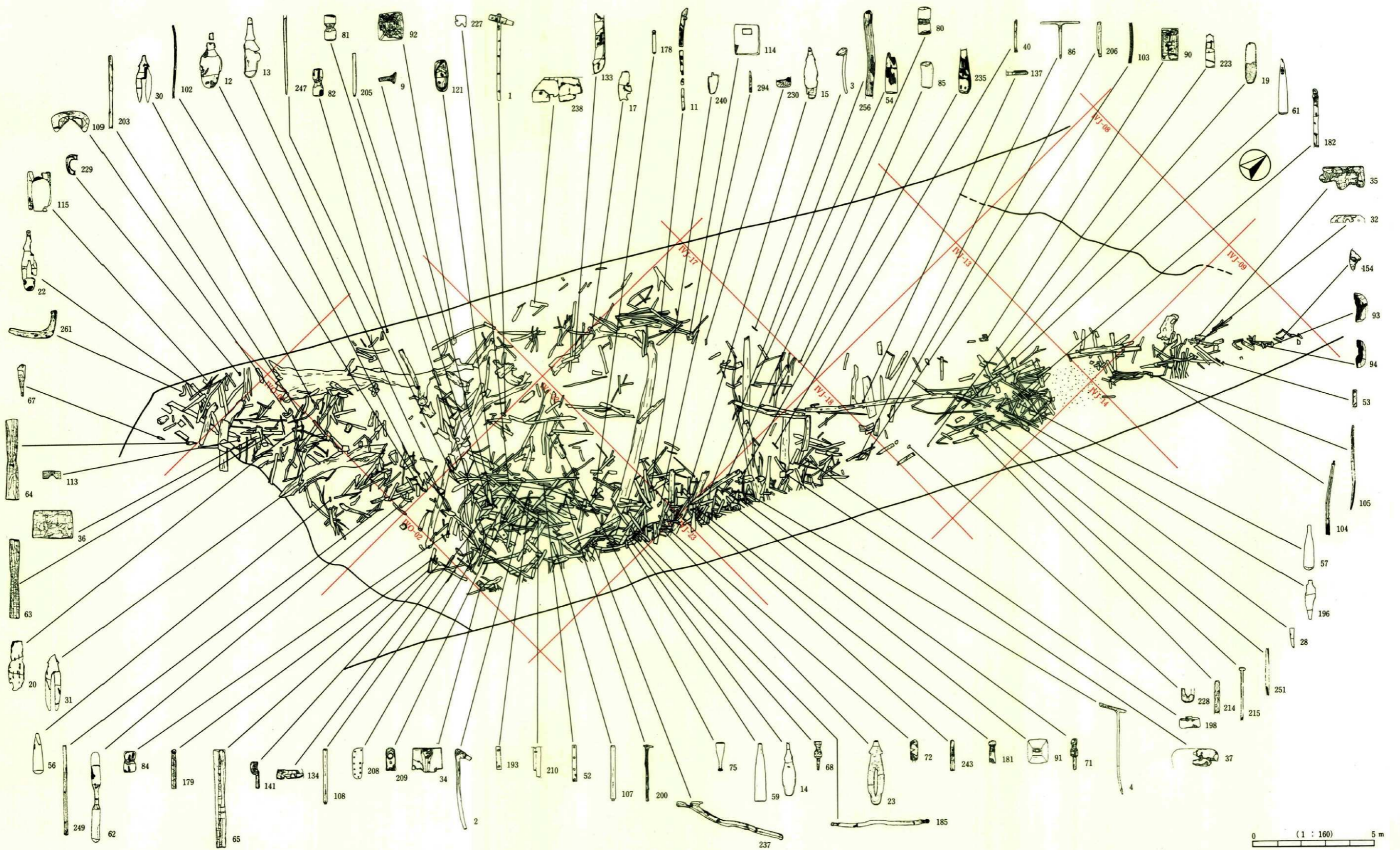
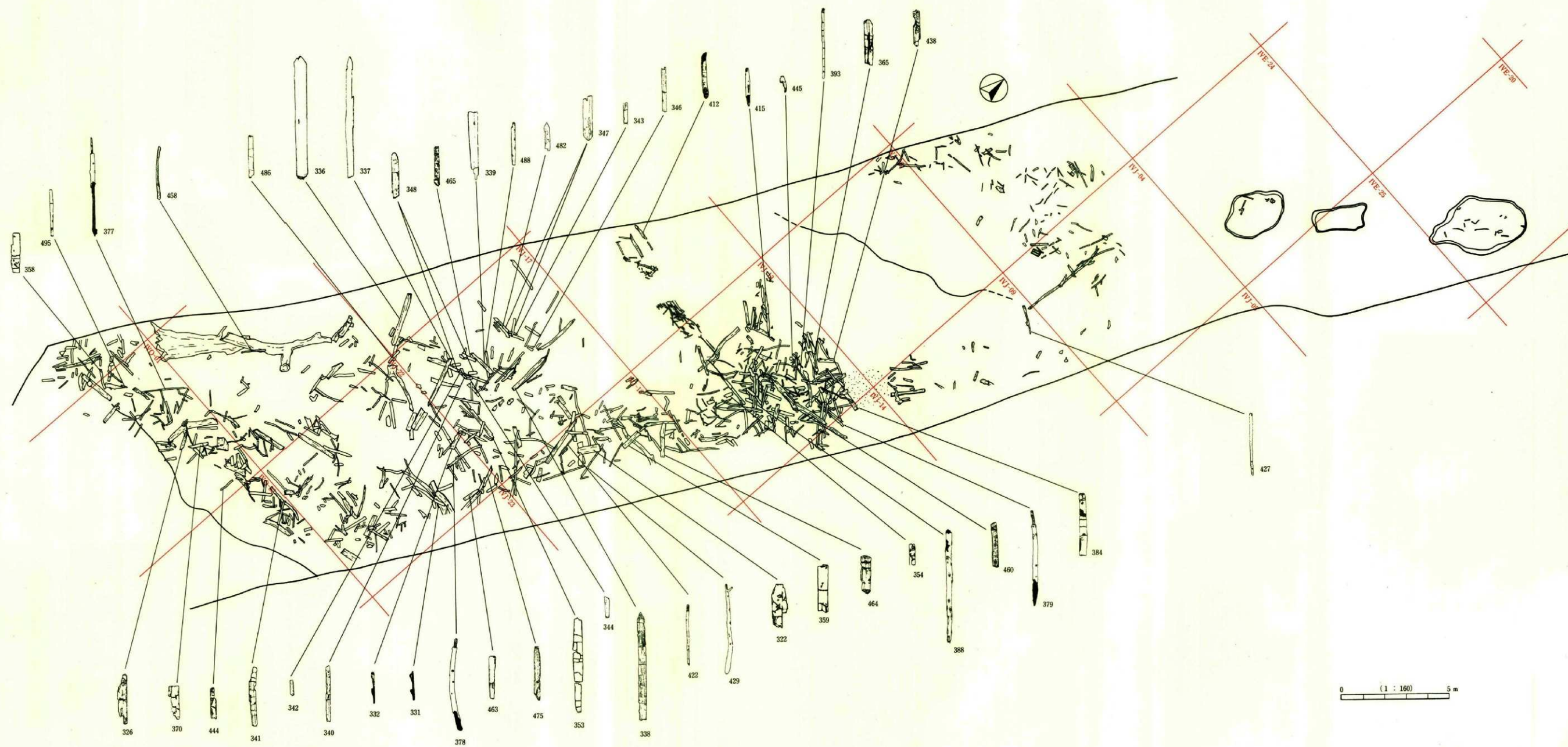


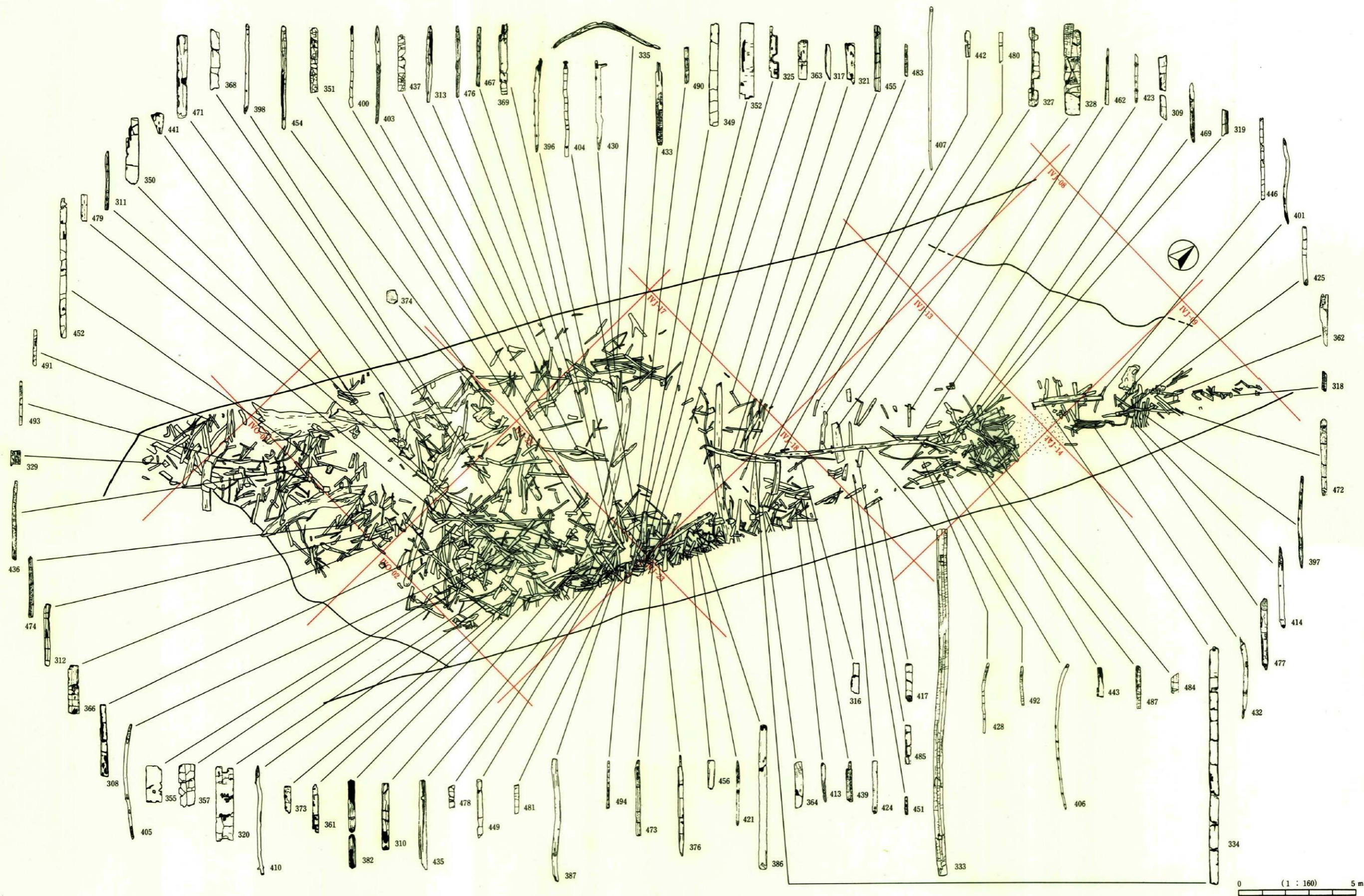
第97図 SG3 IV層木製品出土状況



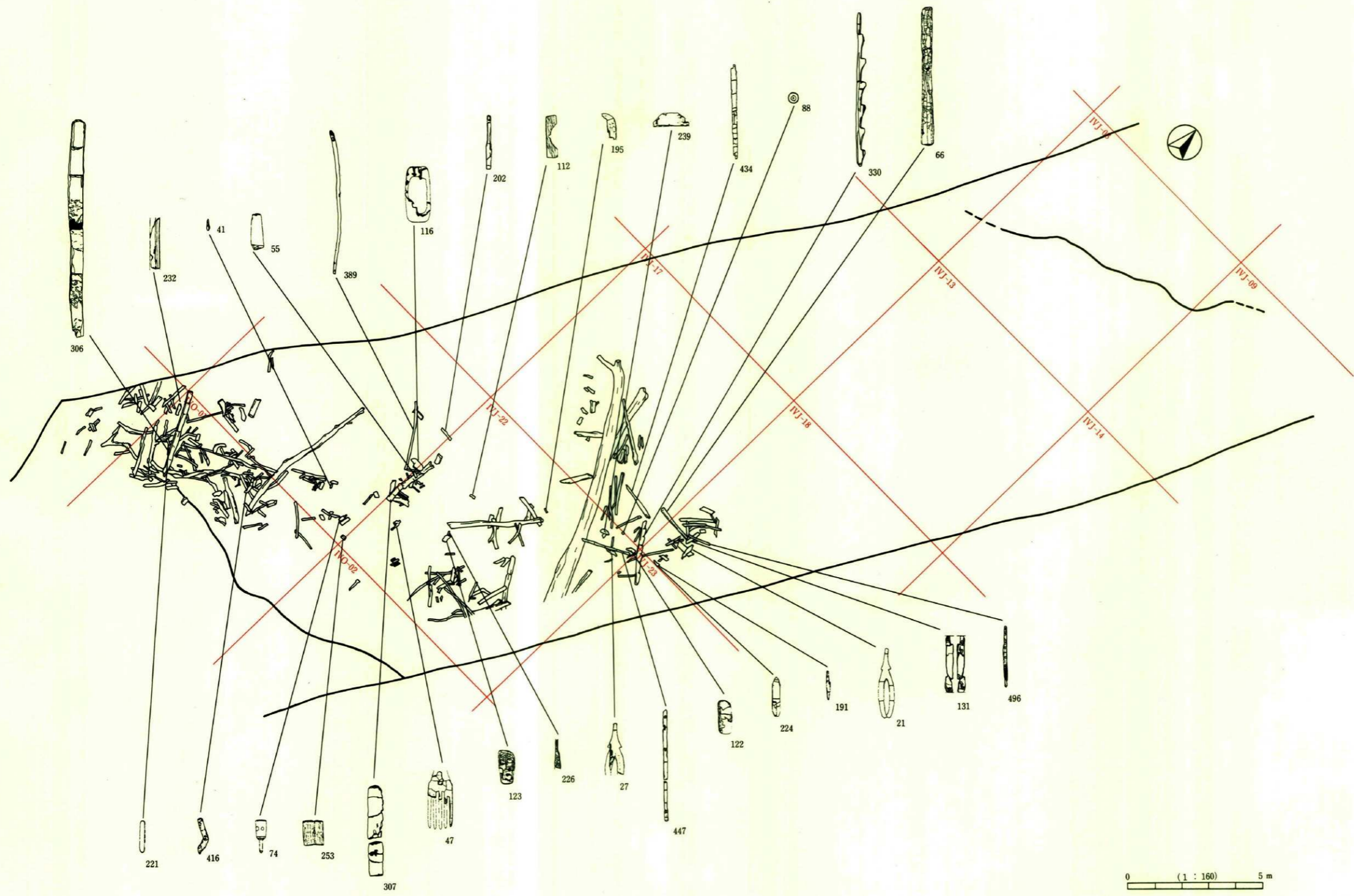
第98図 SG3 VI層木製品出土状況



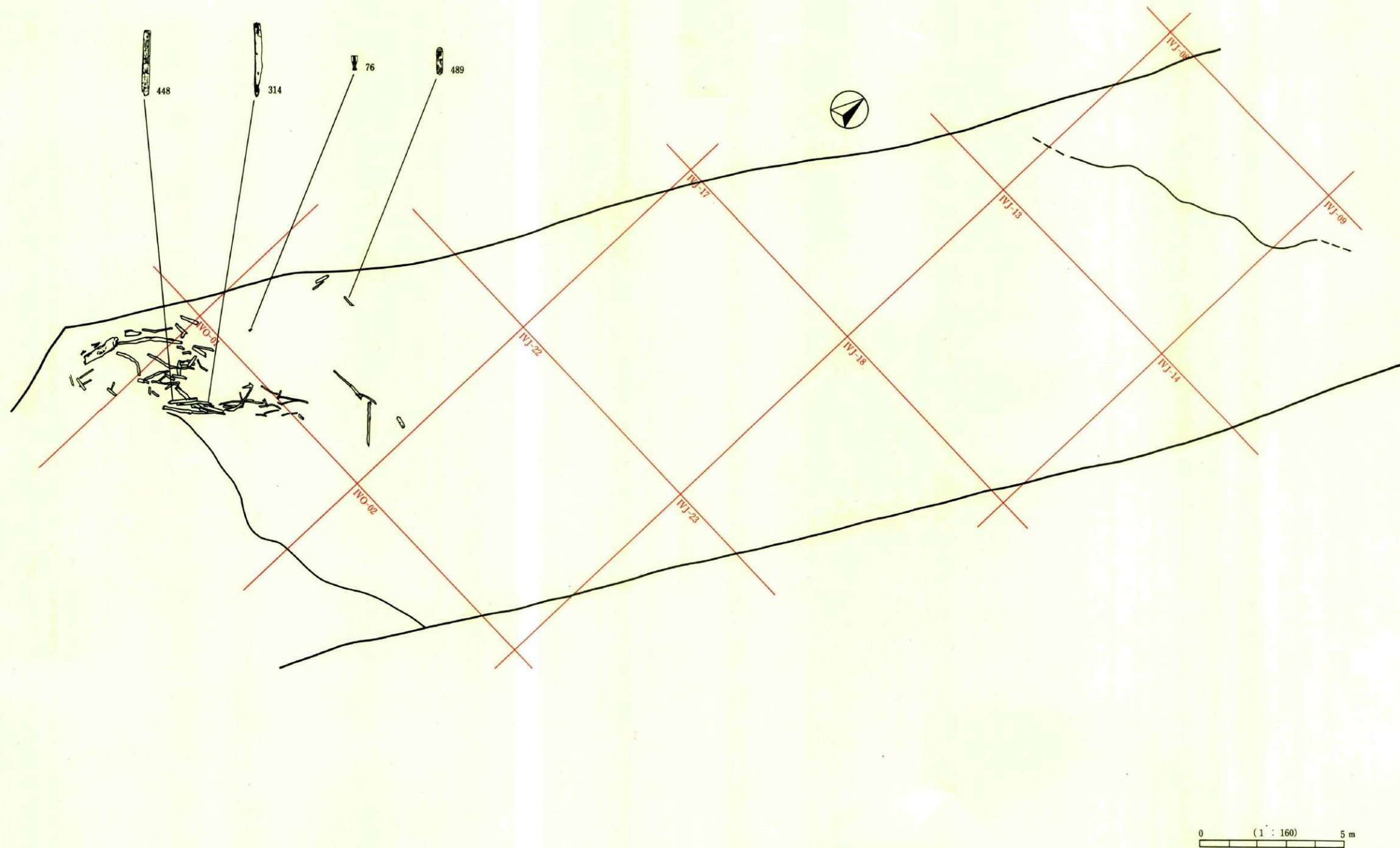
第100図 SG3 IV層建築部材出土状況



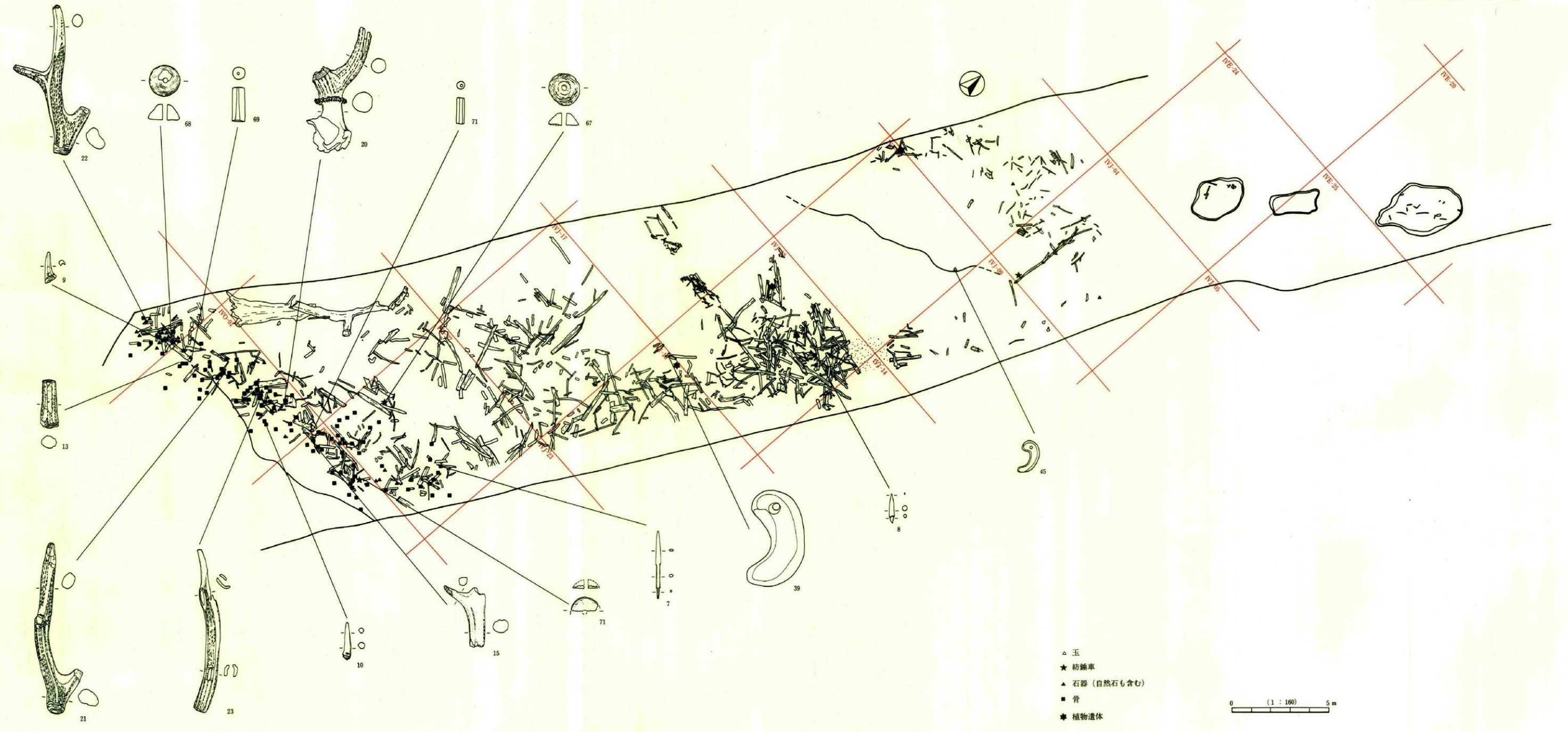
第101図 SG3 VI層建築部材出土状況



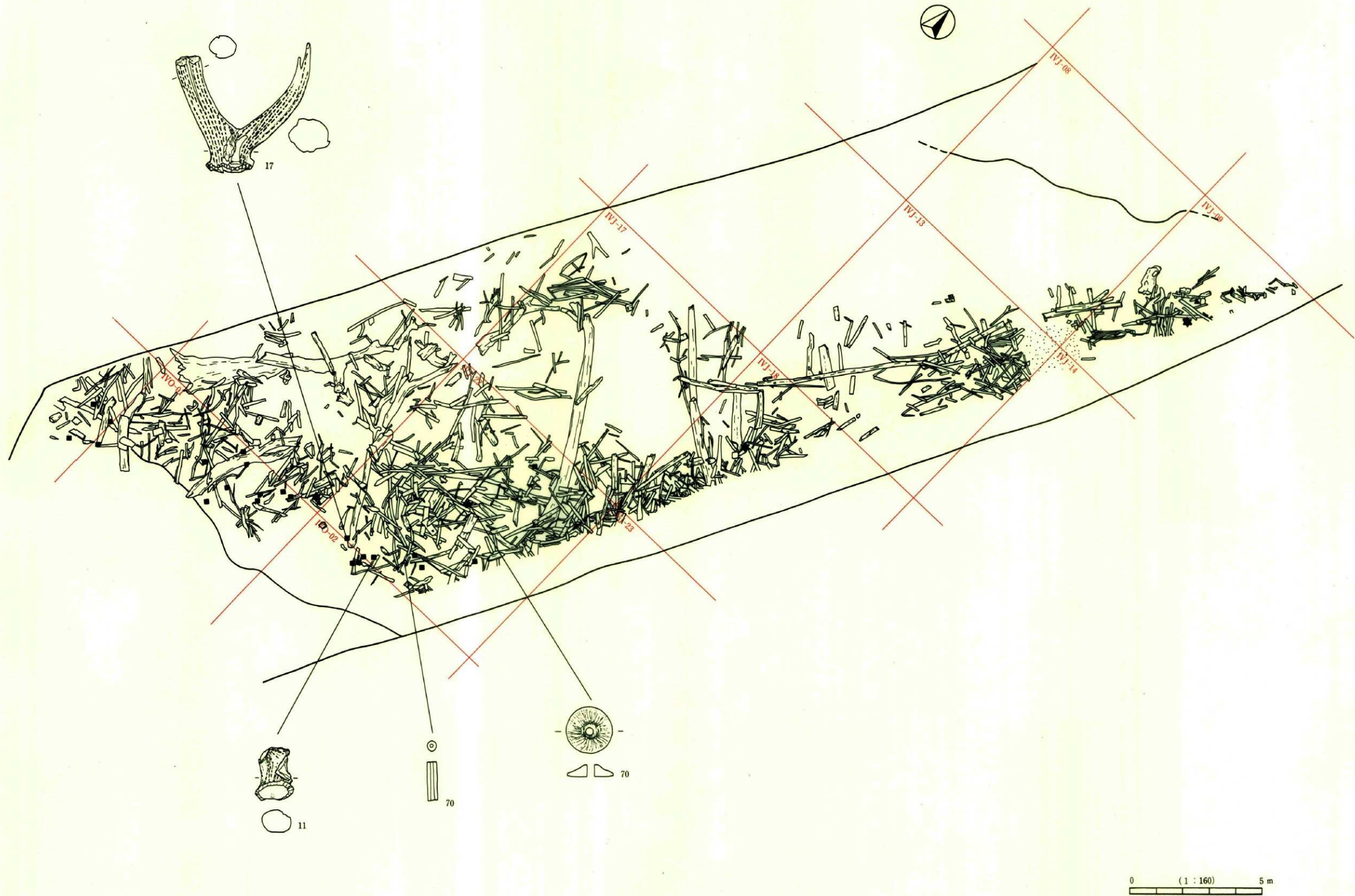
第99図 SG3 VII・VIII層木製品・建築部材出土状況



第102図 SG3 X～XVI層木製品・建築部材出土状況



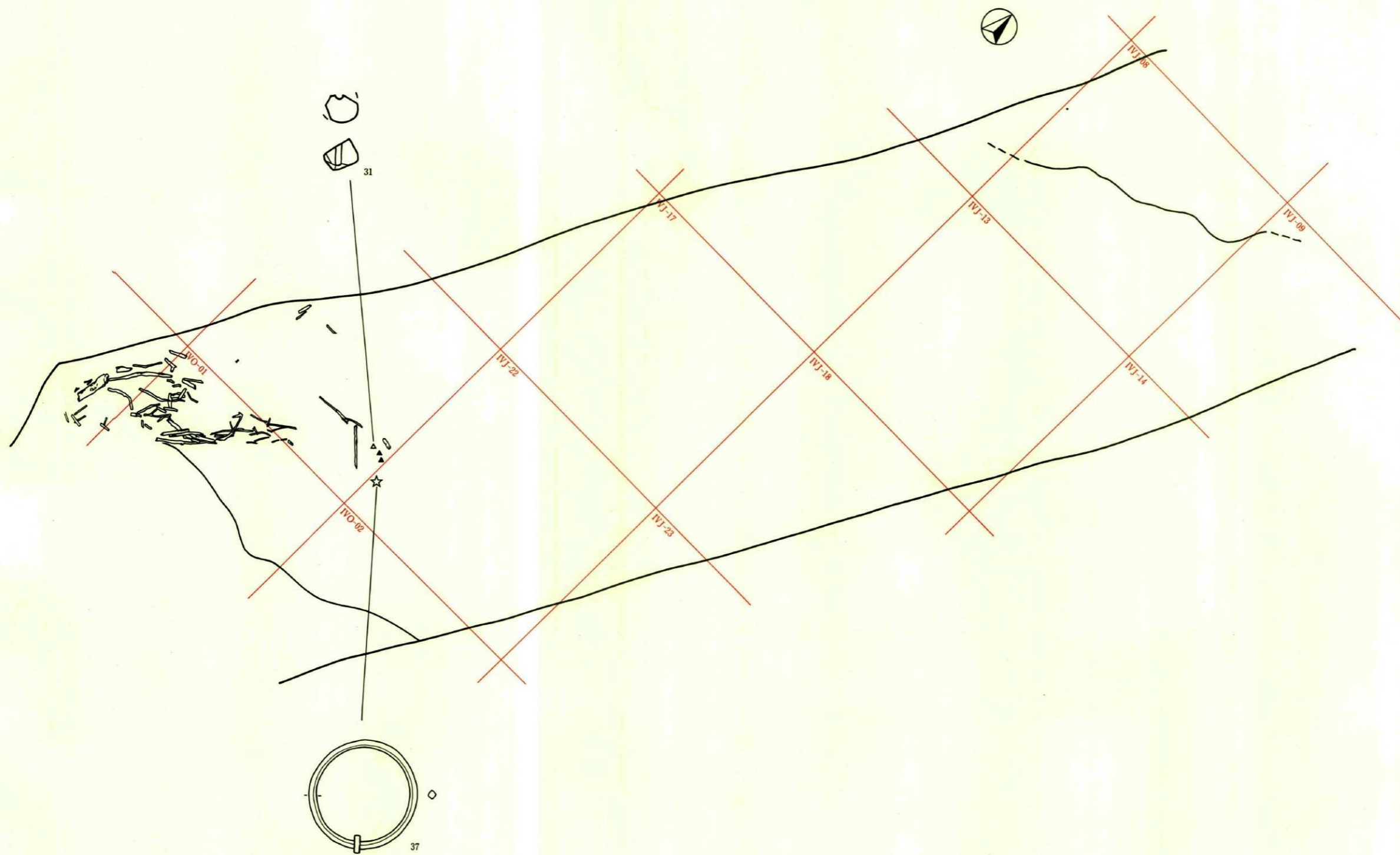
第103図 SG3 IV層玉・紡錘車・骨出土状況



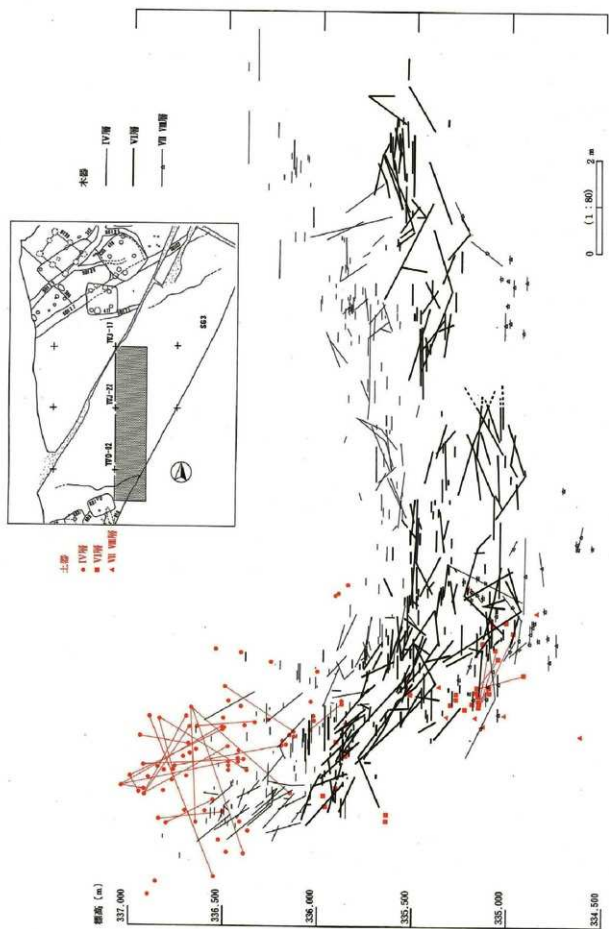
第104図 SG3 VI層玉・紡錘車・骨出土状況



第105図 SG3 VIII層玉出土状況

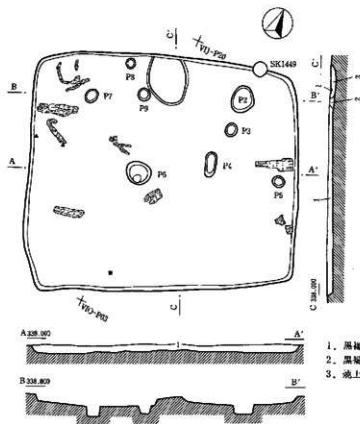


第106図 SG3 X～XVI層玉・銅劍出土状況



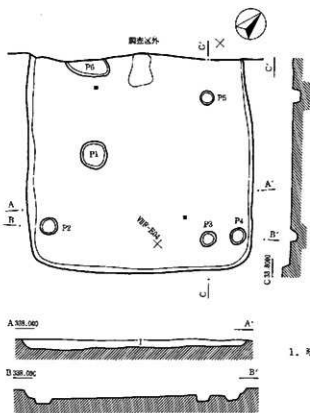
第1107図 SG3 遺物出土垂直分布 (土器)

SB42



1. 黒褐色砂質土
2. 黒褐色砂質土・炭化物、焼土多く混入
3. 泥上・炭化物・粘土層

SB50

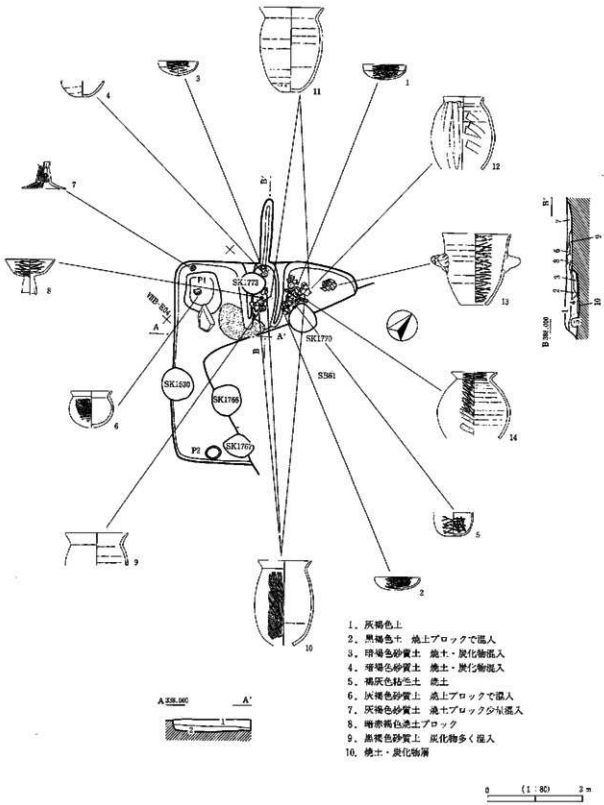


1. 暗灰色砂質土

0 (1:80) 2m

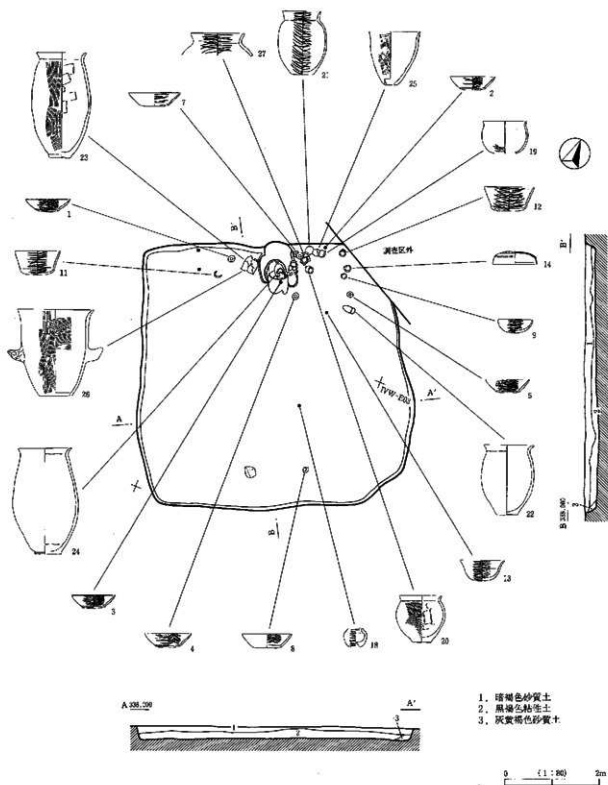
第109図 SB42・50実測図

SB64



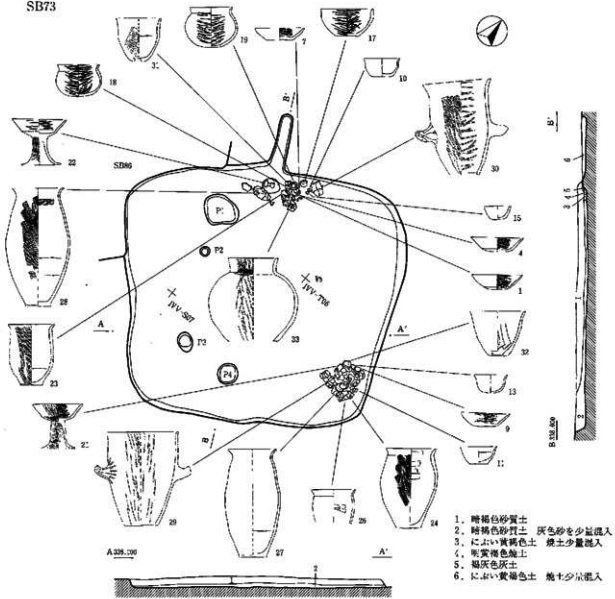
第111図 SB64実測図

SB69



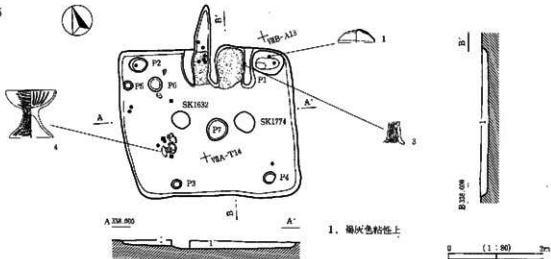
第112圖 SB69實測圖

SB73



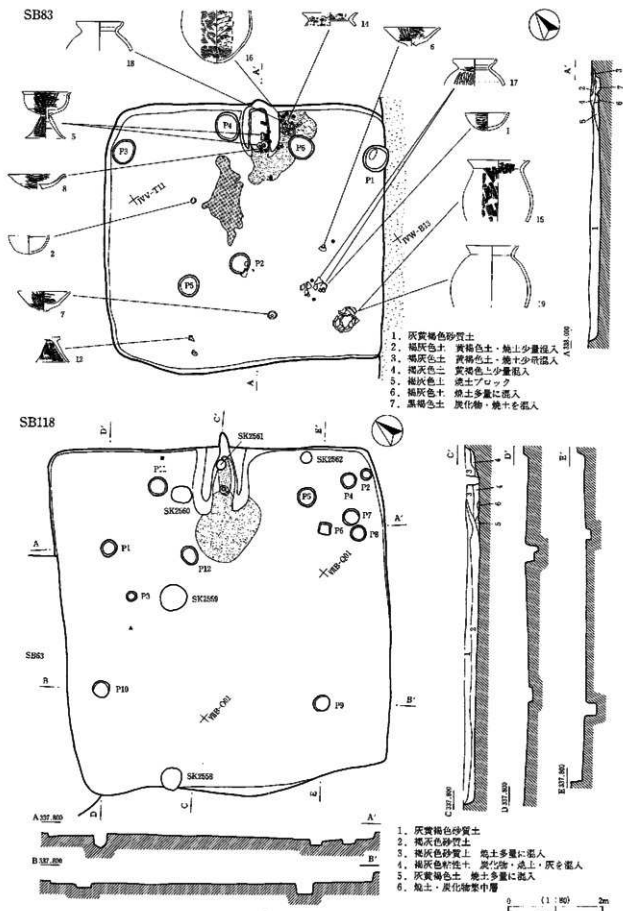
1. 暗褐色砂質土
2. 暗褐色砂質土 灰色砂を少量混入
3. におい黄褐色土 焼土少量混入
4. 明黄褐色土
5. 褐灰色灰土
6. におい黄褐色土 焼土少量混入

SB75



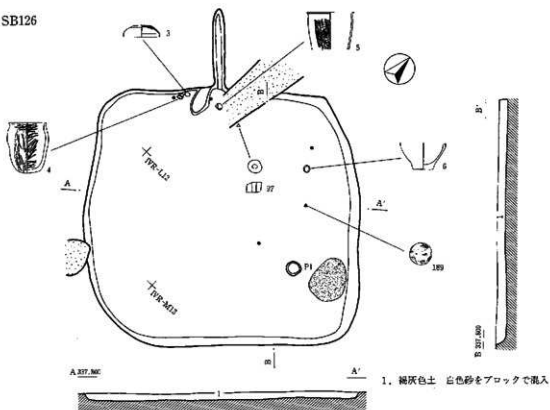
1. 褐灰色粘性土

第113図 SB73・75実測図



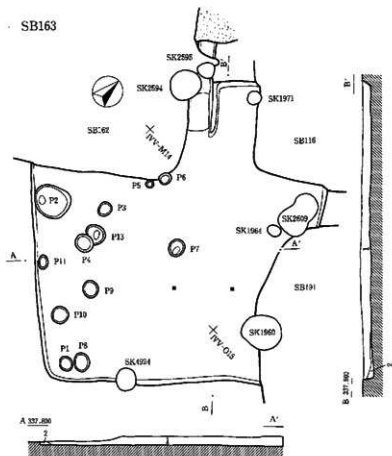
第114図 SB83・118実測図

SB126



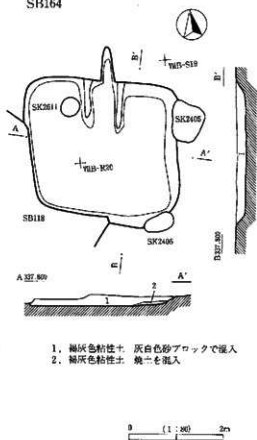
1. 褐灰色土 白色砂をブロックで混入

SB163



1. 褐灰色砂質土 黄褐色砂ブロックで混入
2. 灰黄褐色砂質土 黄褐色砂ブロックで混入

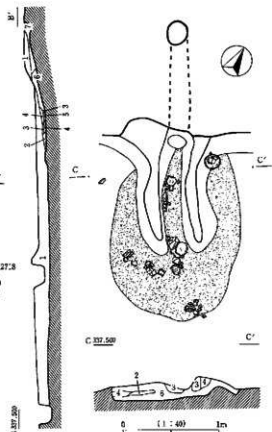
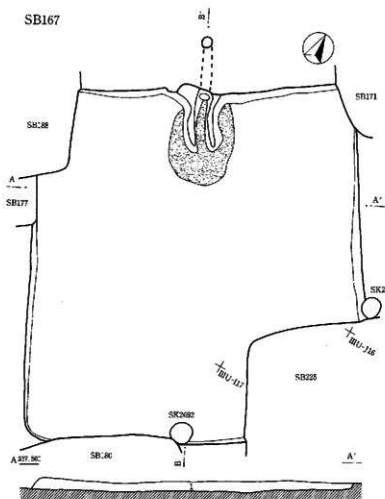
SB164



1. 褐灰色粘性土 灰白色砂ブロックで混入
2. 褐灰色粘性土 焼入

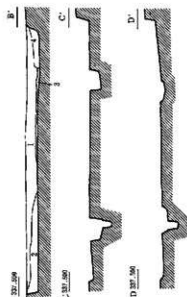
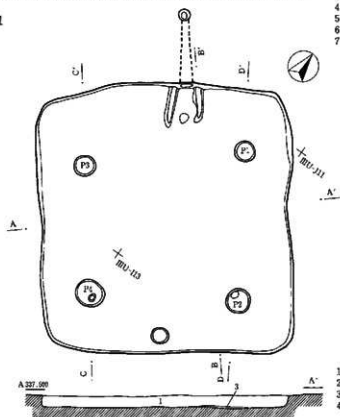
第115図 SB126・163・164実測図

SB167



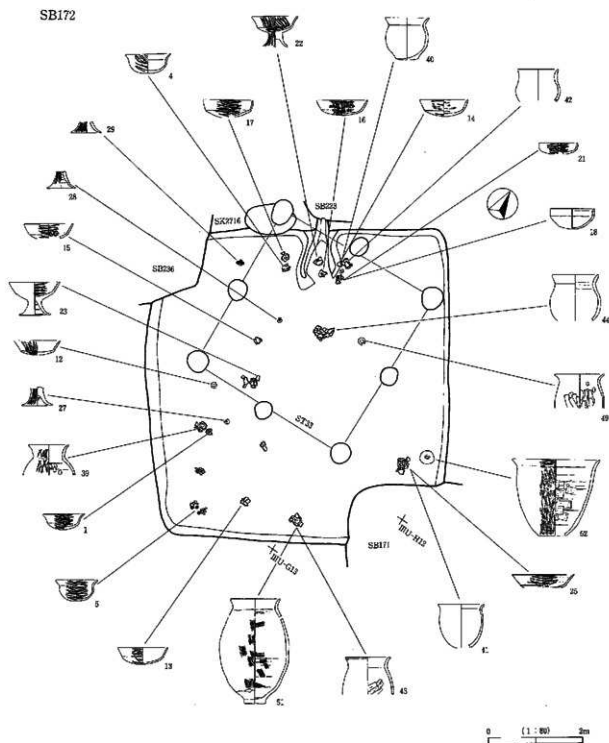
1. 褐灰色彩質粘性土 炭化物少量混入
2. 灰黄褐色土 炭土・炭化物・灰多帯に混入
3. 焼土
4. 灰黄褐色土 (灰層) 焼土・炭化物混入
5. におい黄褐色土 (灰層)
6. におい黄褐色土 炭化物・焼土・粘土をブロックで混入
7. 明黄褐色砂質粘性土

SB171



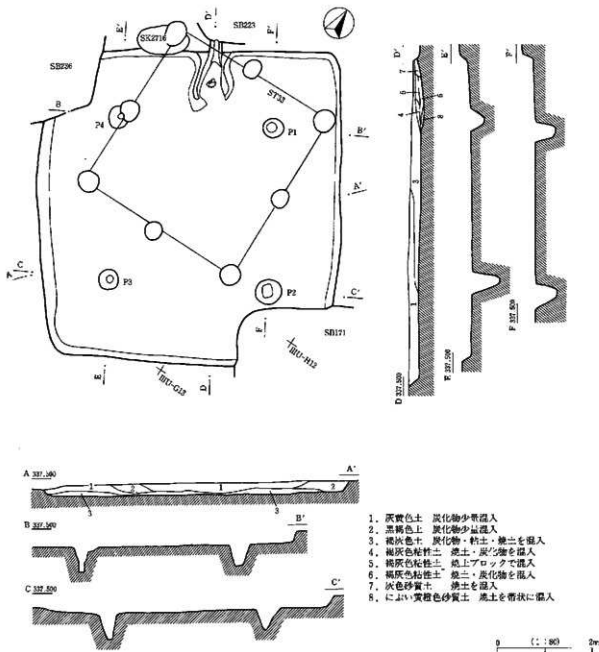
1. 黒褐色土 粘土・焼土を少量混入
2. 黒色土 やや砂質
3. 黒色炭化物・灰層
4. 褐灰色土 (カマダ粘)

第116図 SB167・171実測図



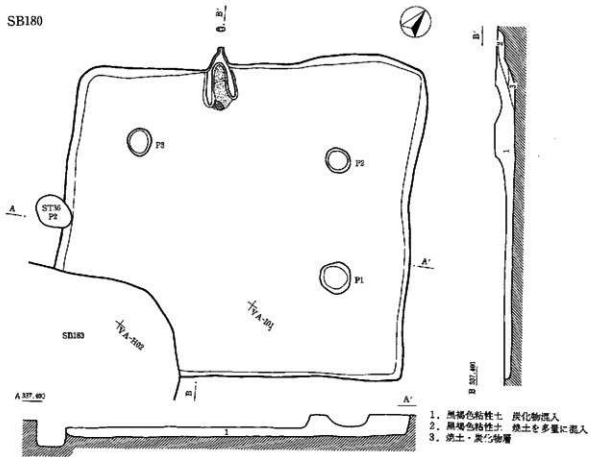
第117図 SB172遺物出土状況図

SB172

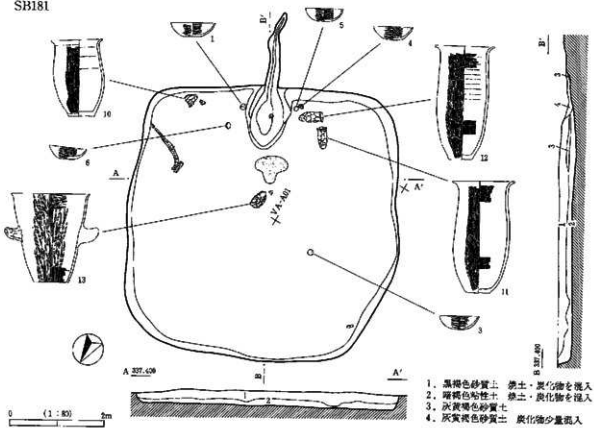


第118図 SB172実測図

SB180

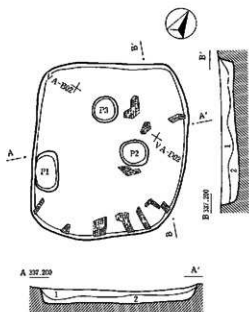


SB181



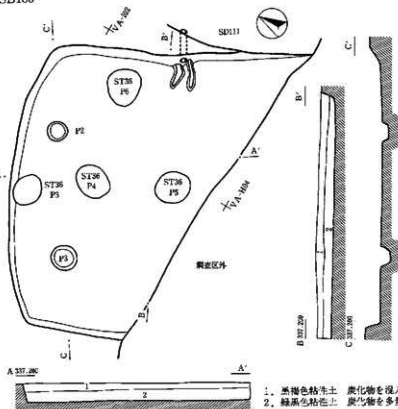
第119図 SB180・181実測図

SB182



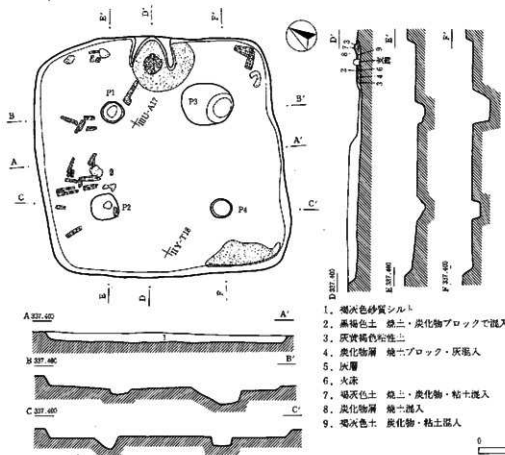
1. 褐灰色粘性土 炭化物混入
2. 褐灰色粘性土 所々炭化物多量に混入

SB183



1. 黒褐色粘生土 炭化物を混入
2. 緑褐色粘性土 炭化物を多量に混入

SB186

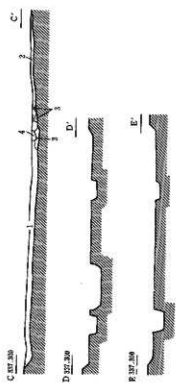
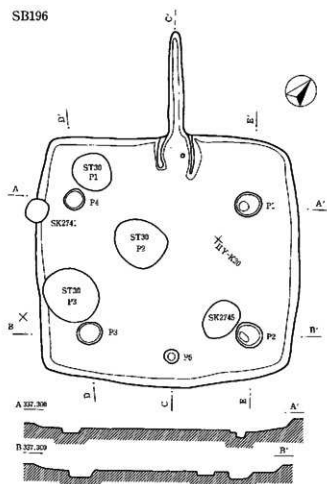


1. 褐灰色砂質シルト
2. 黒褐色土 焼土・炭化物ブロックで混入
3. 灰黄褐色粘性土
4. 炭化物層 焼土ブロック・灰混入
5. 灰層
6. 灰床
7. 褐灰色土 焼土・炭化物・粘土混入
8. 炭化物層 焼土混入
9. 褐灰色土 炭化物・粘土混入

0 (1:100) 2m

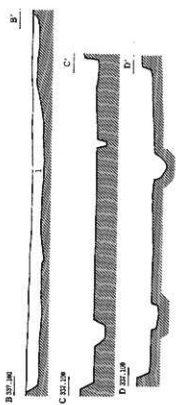
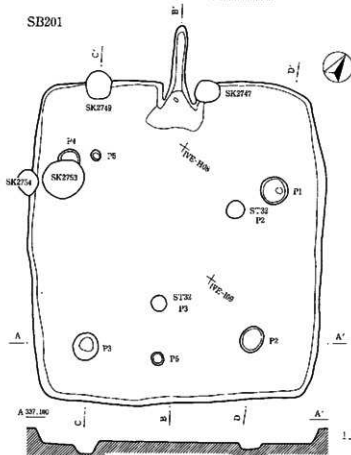
第120図 SB182・183・186実測図

SB196



1. 灰色砂質粘性土 炭化物混入
2. 褐色粘質土 炭化物少量混入
3. 浅黄褐色砂質粘土 炭化物少量混入
4. 黄灰色粘土

SB201

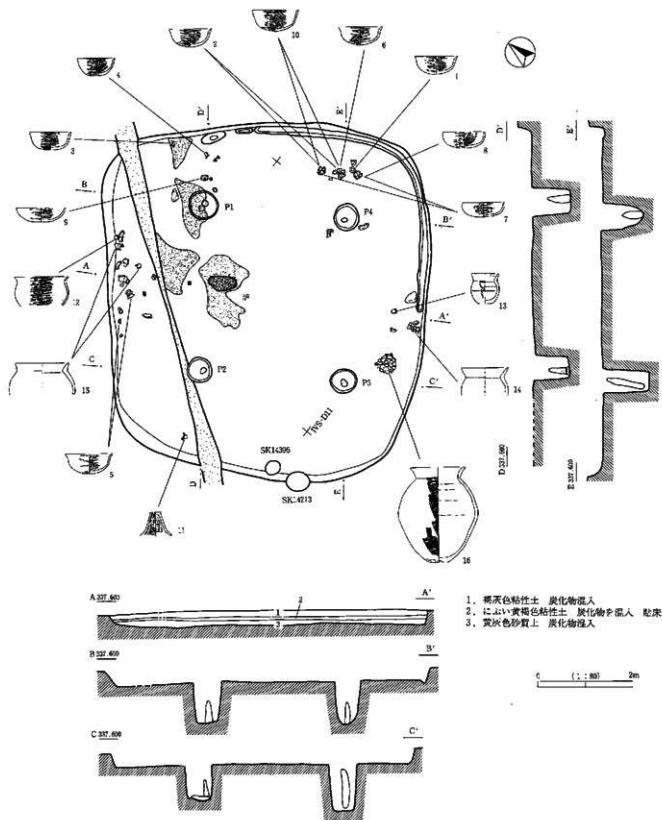


1. 黒褐色粘土 砂質土ブロックで混入

0 (1:800) 2m

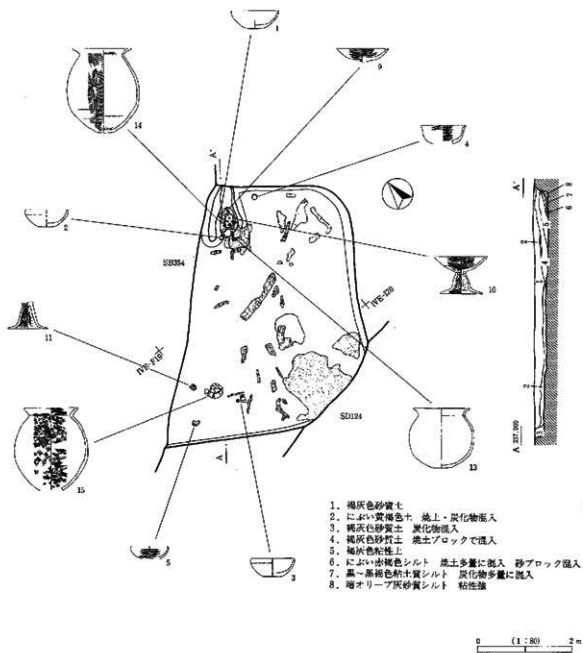
第121図 SB196・201実測図

SB316



第122図 SB316実測図

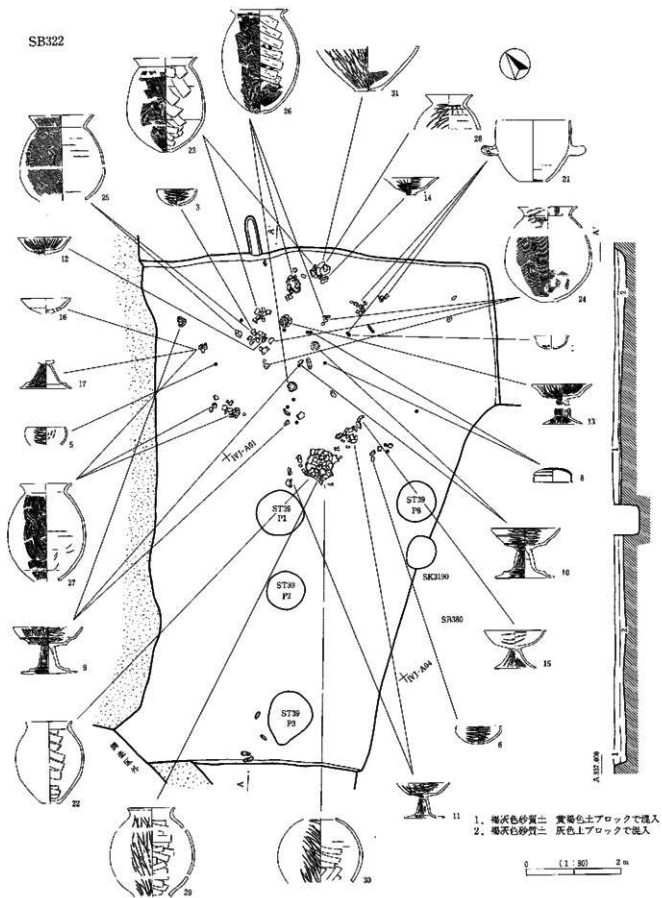
SB321



1. 褐灰色砂質土
2. におい黄褐色土 焼土・炭化物混入
3. 褐灰色砂質土 炭化物混入
4. 褐灰色砂質土 焼土ブロックで混入
5. 褐灰色粘性土
6. におい赤褐色シルト 焼土多量に混入 砂ブロック混入
7. 黒～黒褐色粘土質シルト 炭化物多量に混入
8. 暗オリーブ灰砂質シルト 粘性強

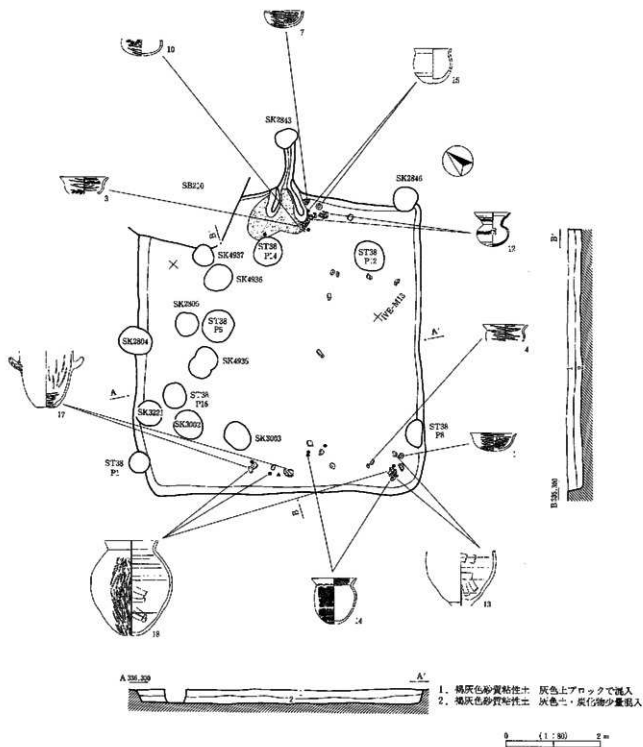
第123図 SB321実測図

SB322



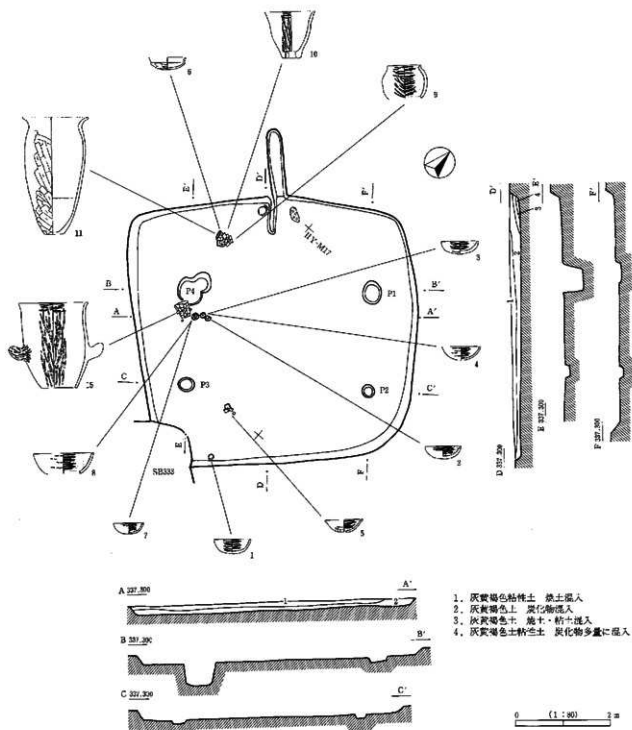
第124図 SB322実測図

SB327



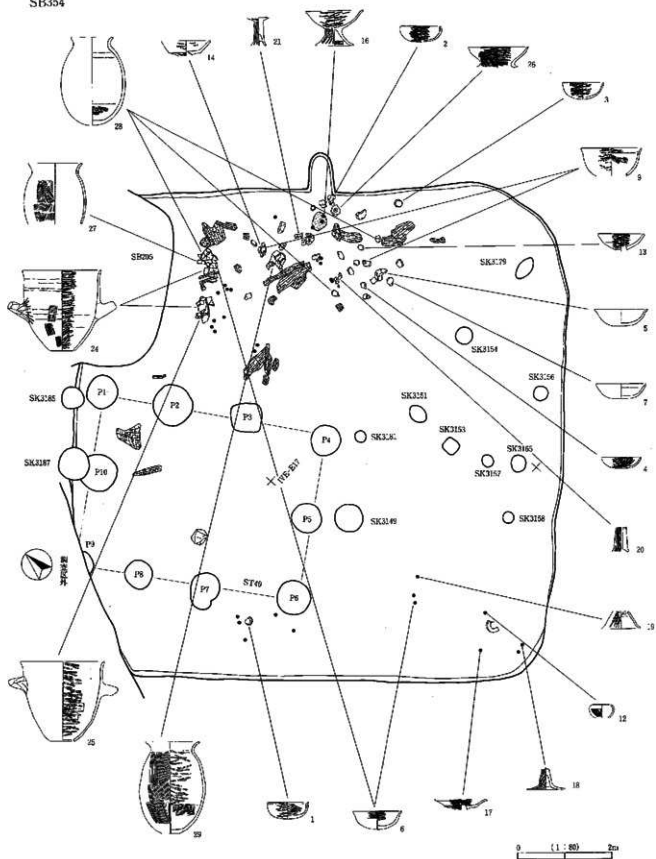
第125図 SB327実測図

SB341



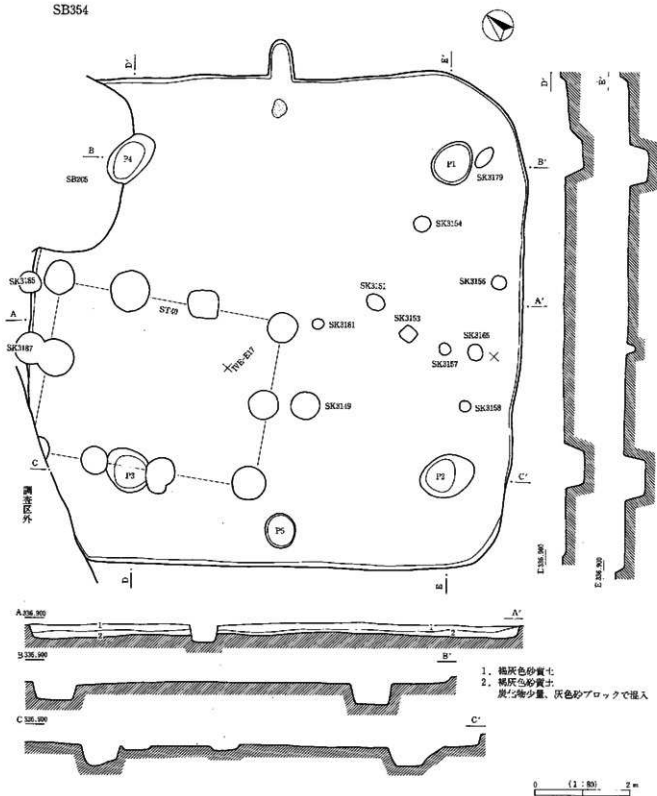
第126图 SB341实测图

SB354



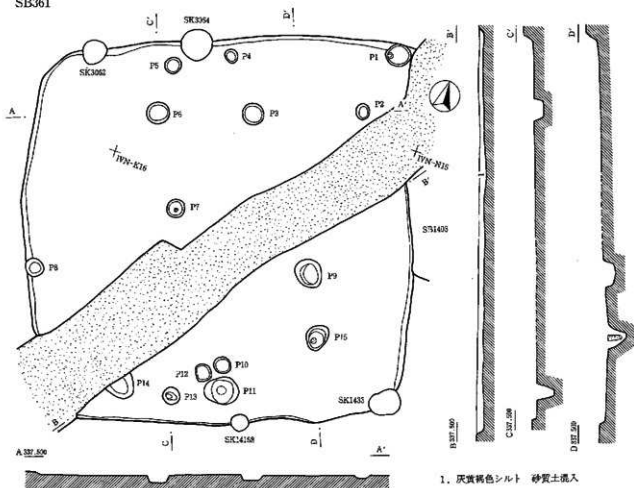
第127図 SB354遺物出土状況図

SB354

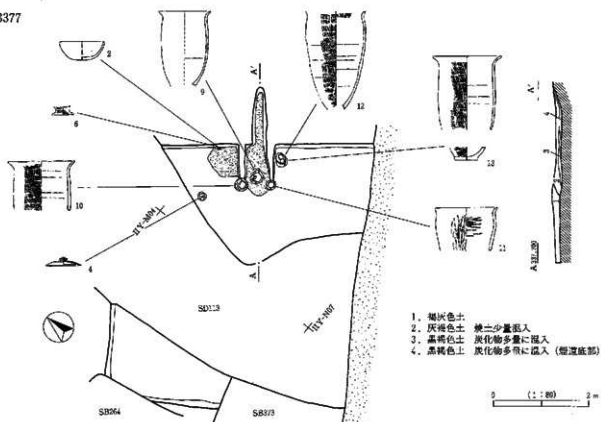


第128図 SB354実測図

SB361

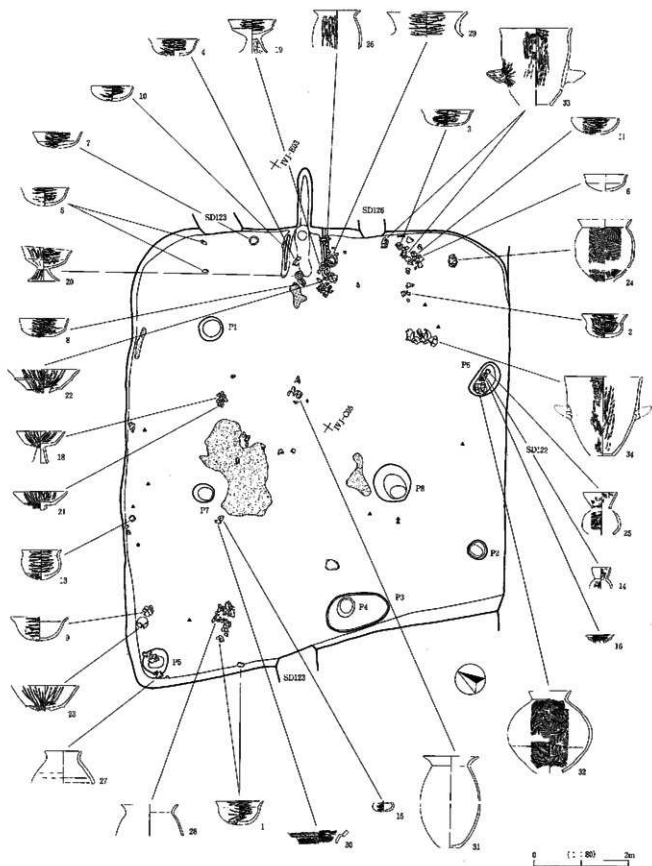


SB377



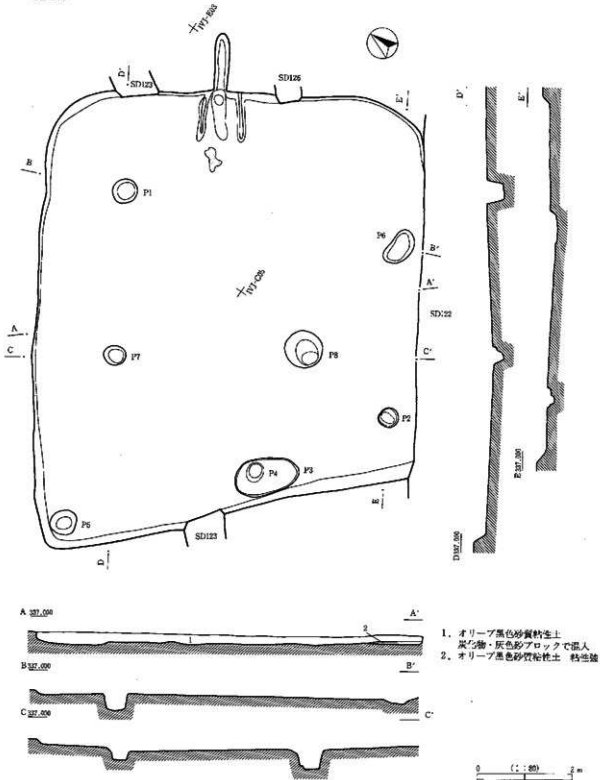
第129図 SB361・377実測図

SB380



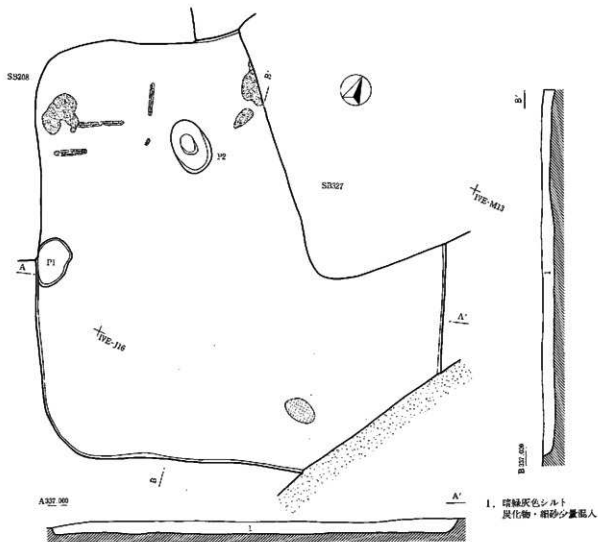
第130图 SB380遺物出土状況图

SB380

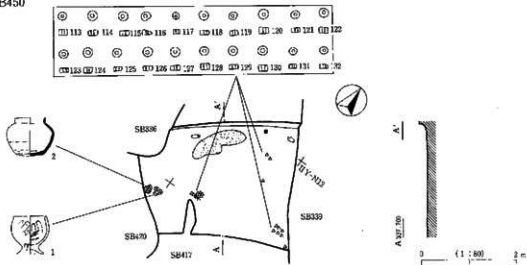


第131図 SB380実測図

SB383

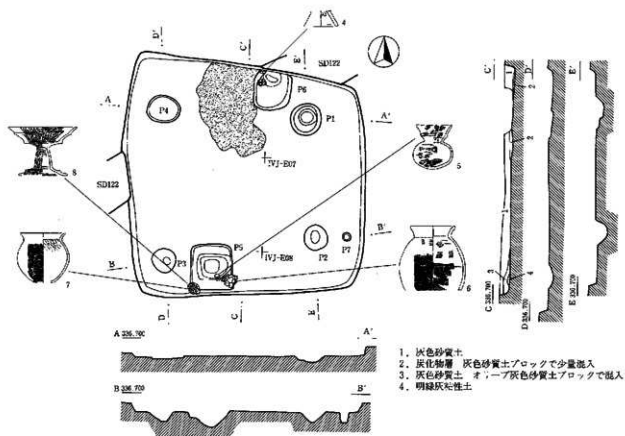


SB450

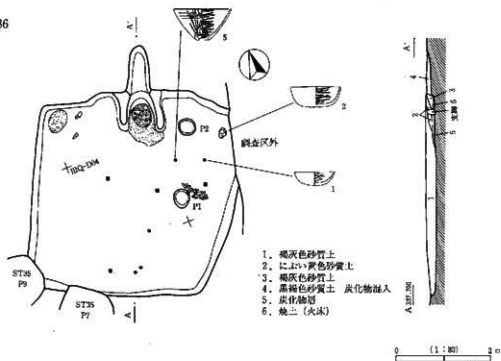


第132図 SB383・450実測図

SB477

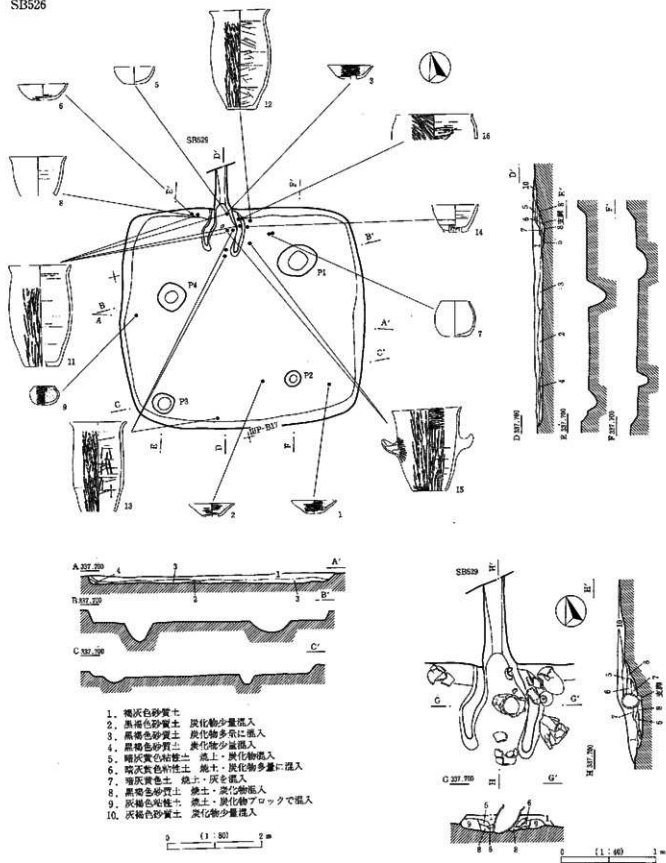


SB486



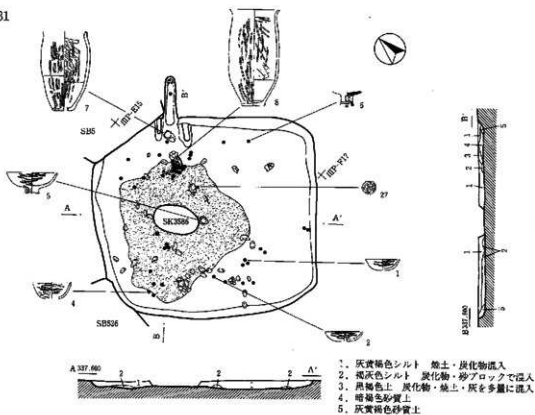
第133図 SB477・486実測図

SB526

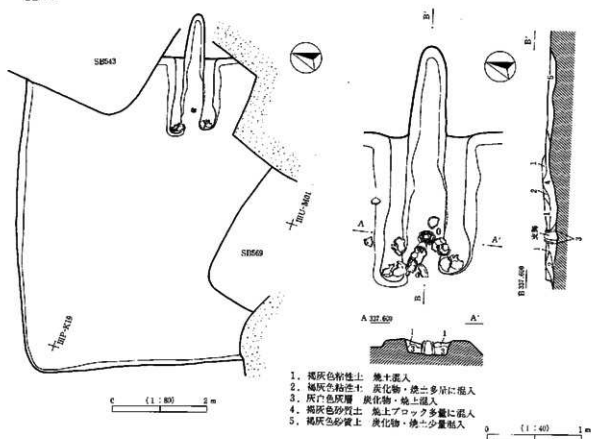


第134図 SB526実測図

SB531

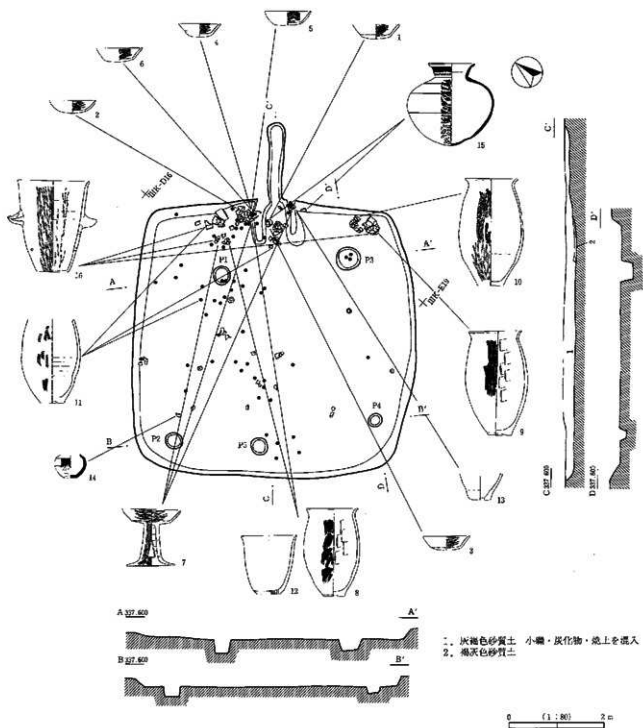


SB542



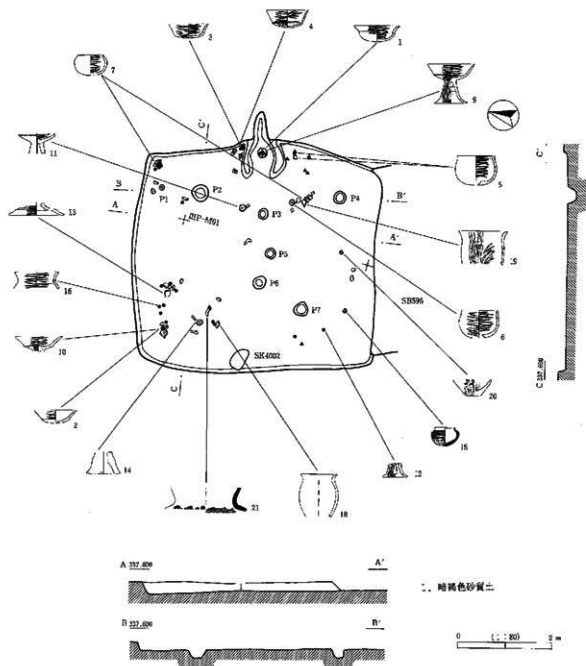
第135図 SB531・542実測図

SB578



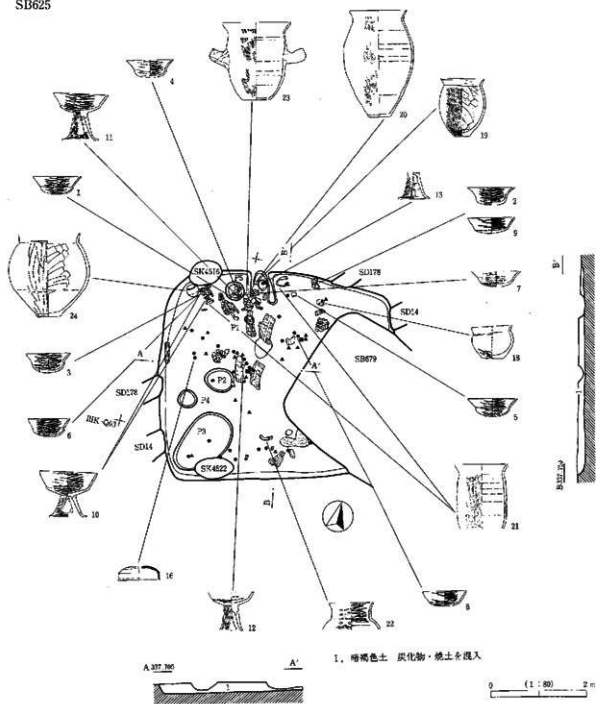
第136図 SB578実測図

SB595

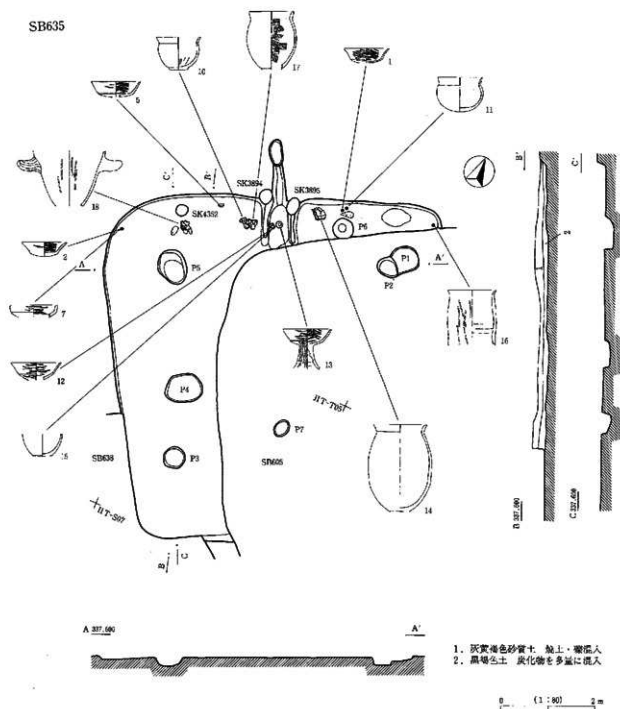


第137図 SB595実測図

SB625

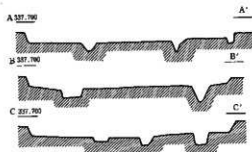
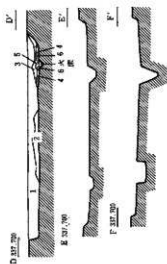
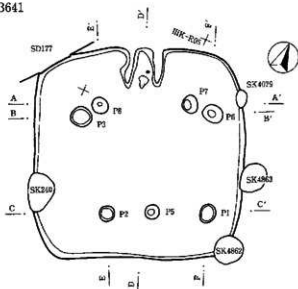


第138図 SB625実測図



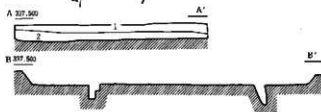
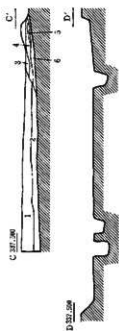
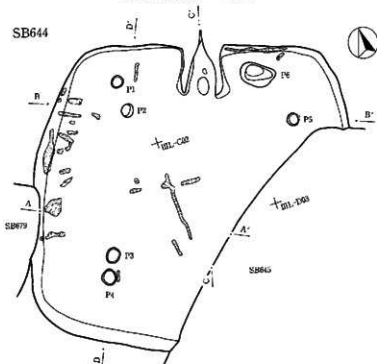
第139図 SB635実測図

SB641



1. 赭灰色砂質土
2. 黒褐色砂質粘性土
3. 褐色砂質土 焼土・灰混入
4. 黒褐色砂質土 炭化物・灰を混入
5. 凝土ブロック
6. 灰混じり焼土

SB644

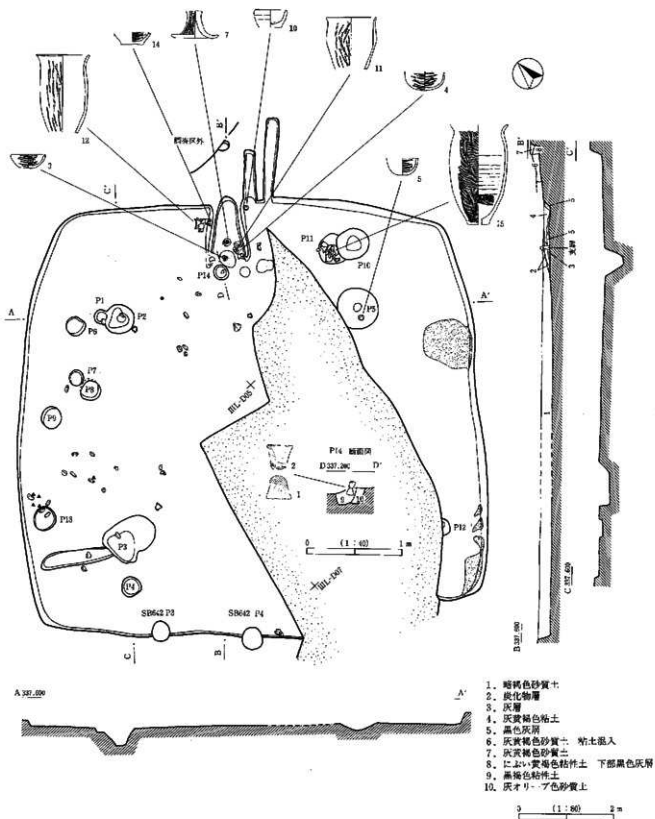


1. 暗褐色土
2. におい黄褐色砂質土
3. 灰黄褐色砂質土 焼土少量混入
4. 灰黄褐色砂質土 焼土・粘土混入
5. 灰黄褐色砂質土 焼土を混入
6. 灰混 炭化物混入

0 (1:80) 2m

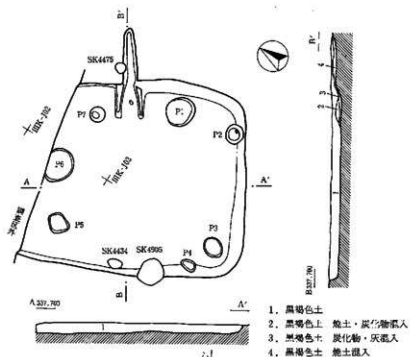
第140図 SB641・644実測図

SB645

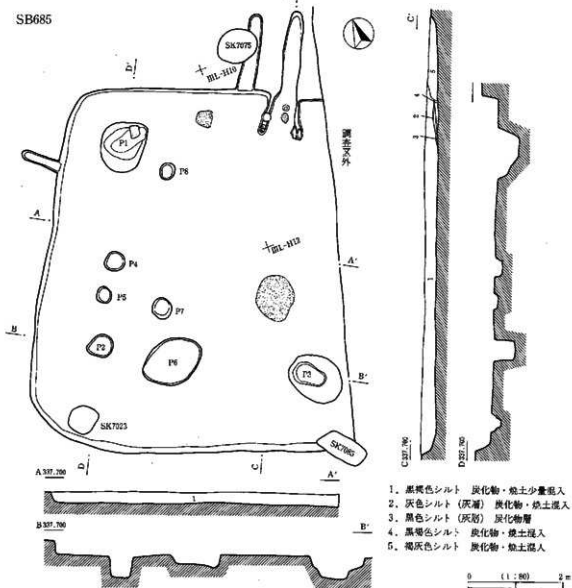


第141図 SB645実況図

SB663

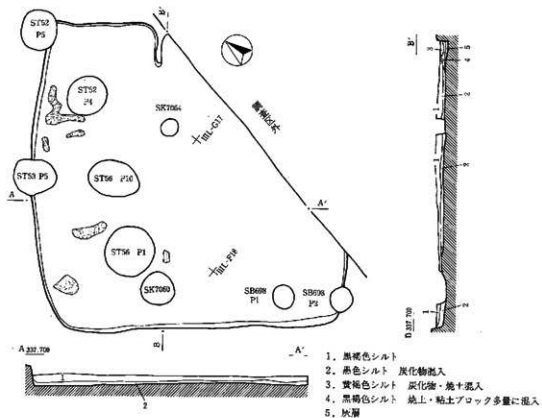


SB685

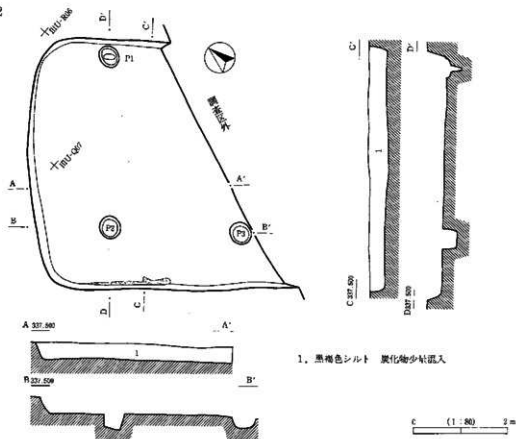


第142図 SB663・685実測図

SB702

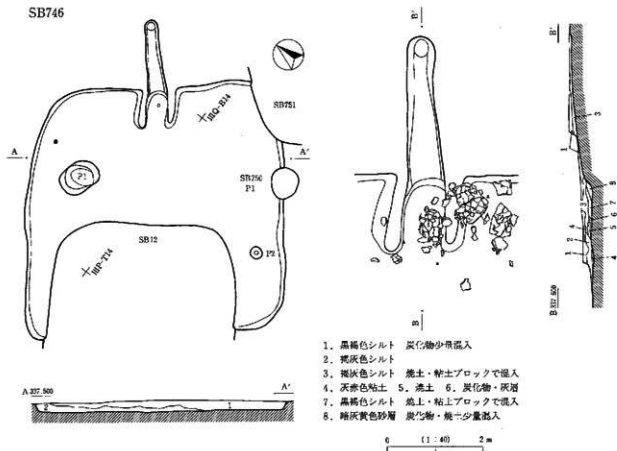


SB742

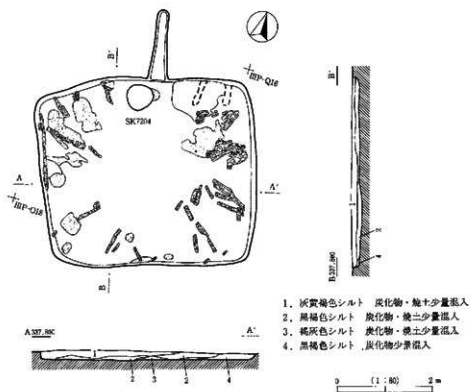


第143図 SB702・742実測図

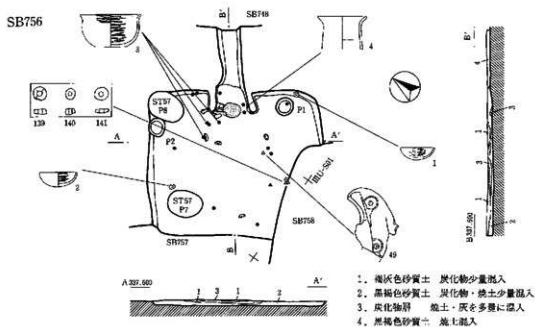
SB746



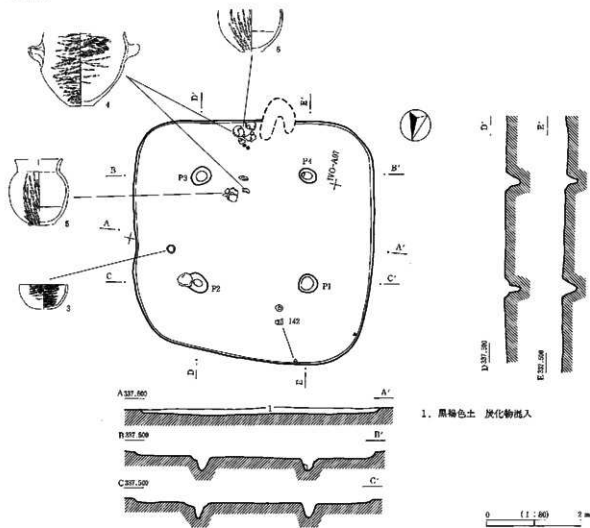
SB752



第144図 SB746・752実測図

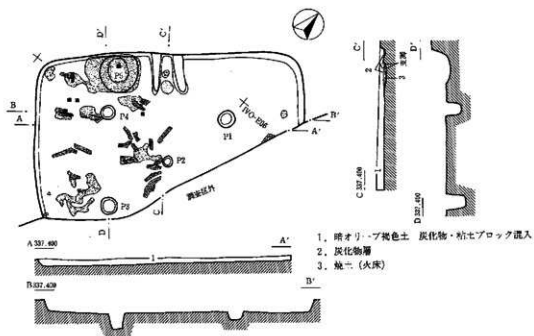


SB803

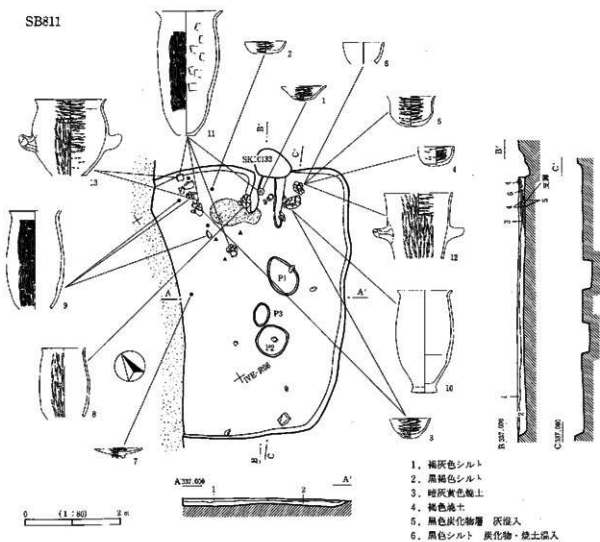


第145図 SB756・803実測図

SB806

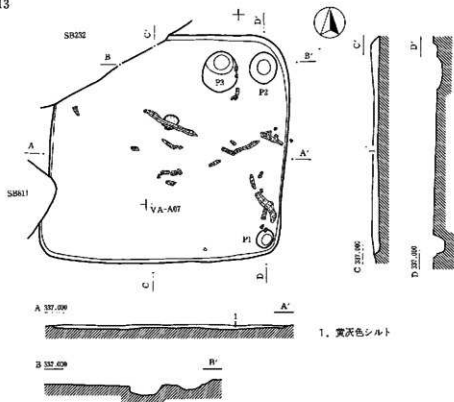


SB811

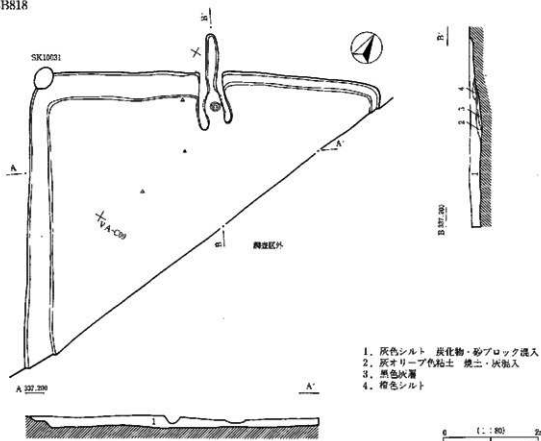


第146図 SB806・811実測図

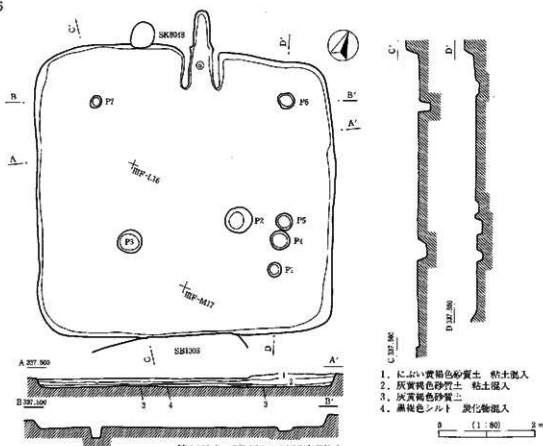
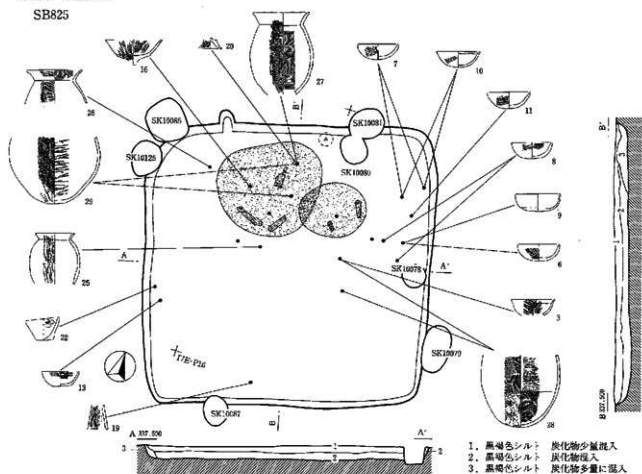
SB813



SB818

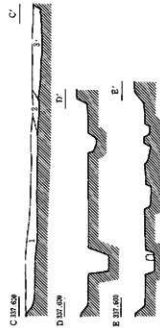
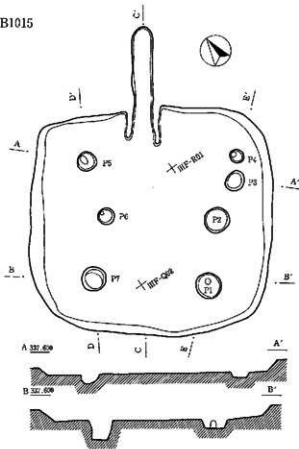


第147図 SB813・818実測図



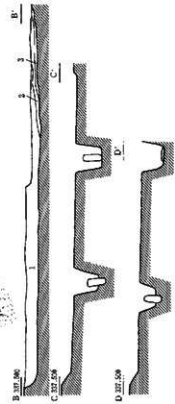
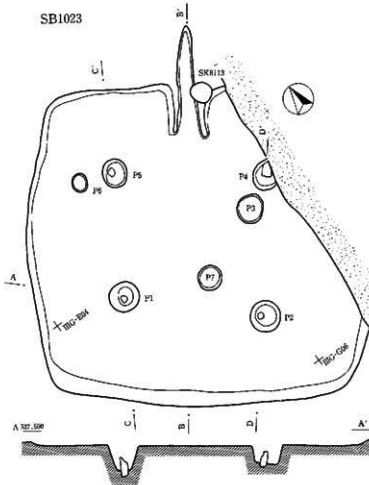
第148図 SB825・1006実測図

SB1015



1. 黒褐色砂質土 炭化物少量混入
2. 灰色シルト 炭化物・粘土・多量に混入
3. 暗褐色粘性土 炭化物・粘土多量に混入

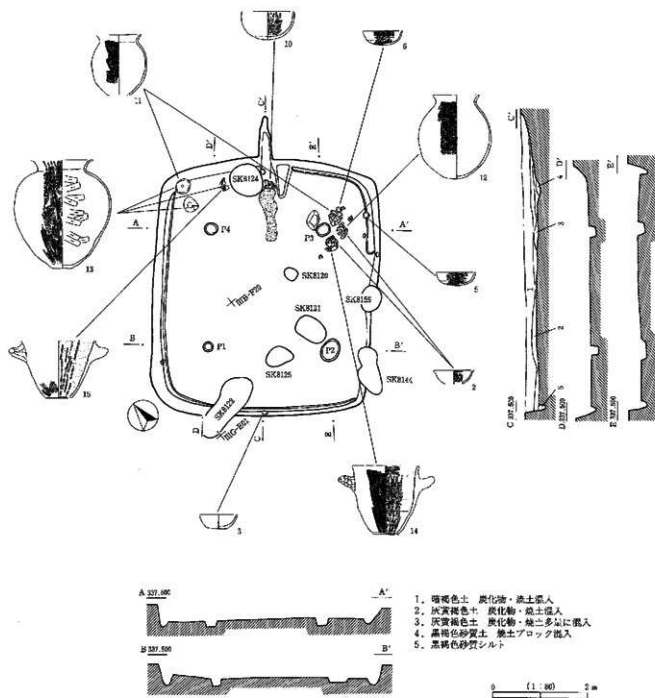
SB1023



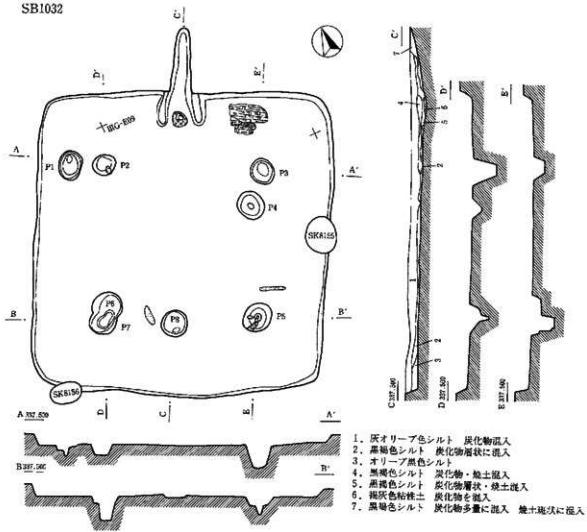
1. 灰青褐色土 炭化物・粘土・粘土混入
2. 黒褐色土 炭化物・粘土・灰多量に混入
3. 灰青褐色砂質土 炭化物少量混入

第149図 SB1015・1023実測図

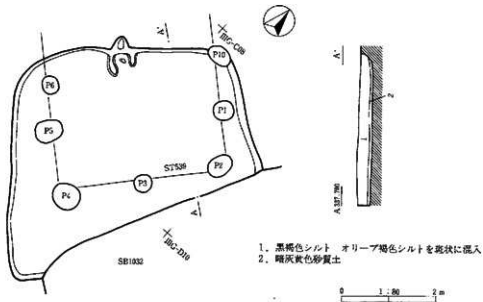
SB1027



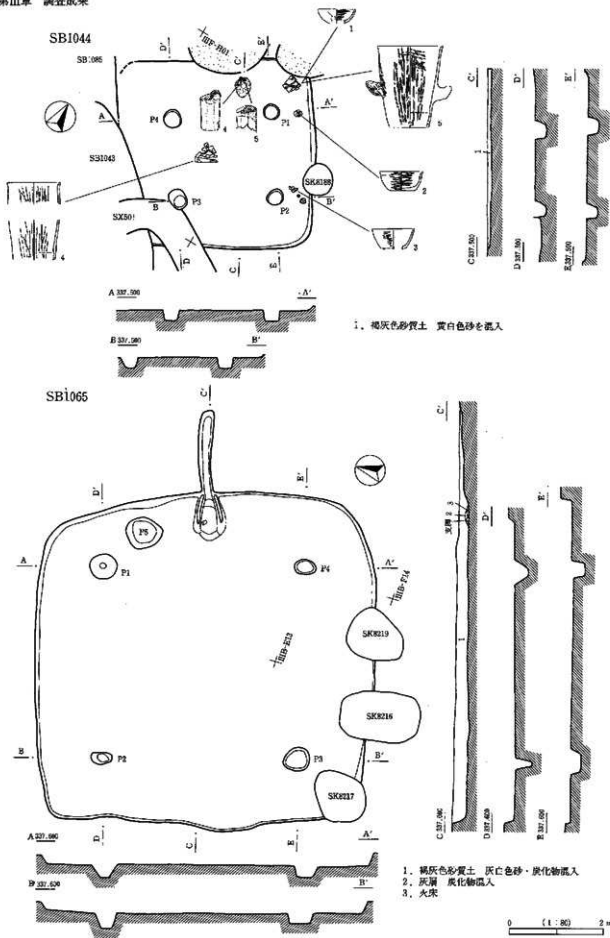
第150図 SB1027実測図



SB1034

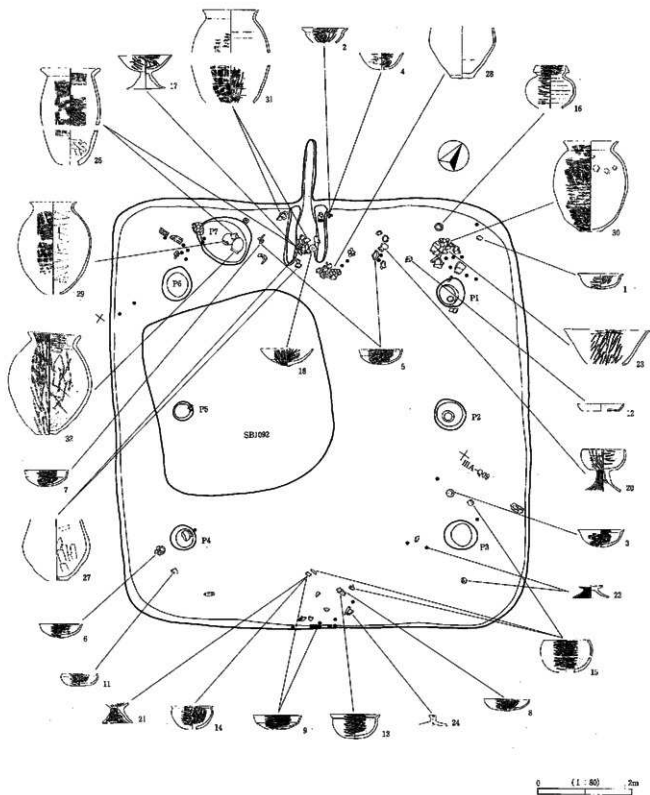


第151図 SB1032・1034実測図



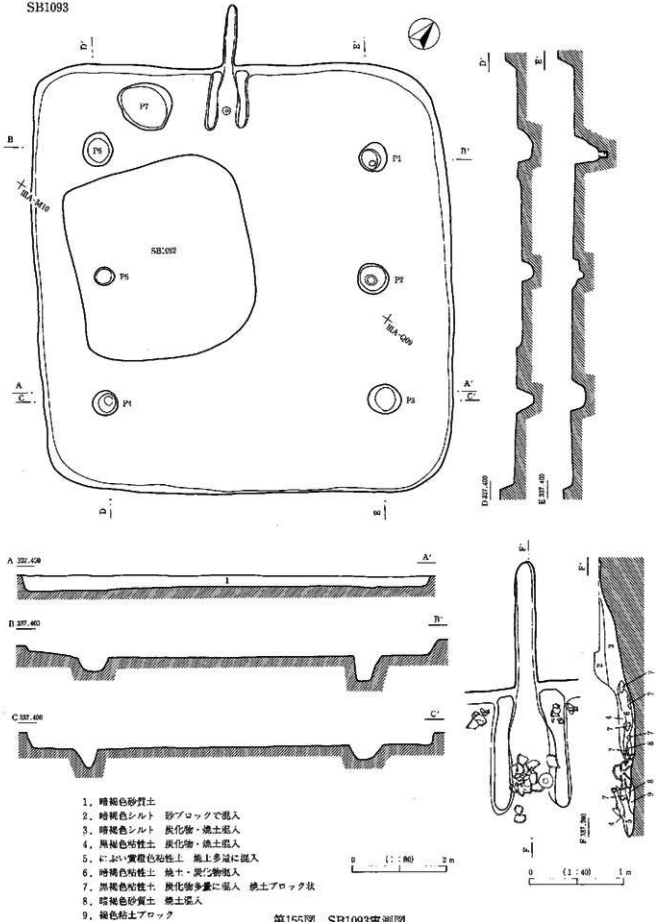
第152図 SB1044・1065実測図

SB1093

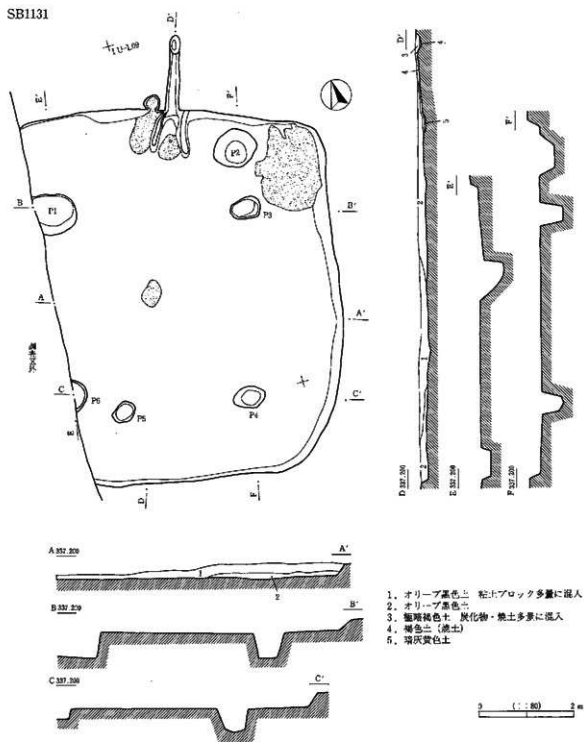


第154图 SB1093遺物出土状況図

SB1093

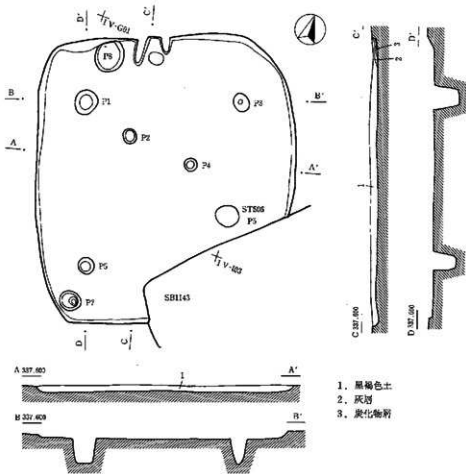


第155図 SB1093実測図

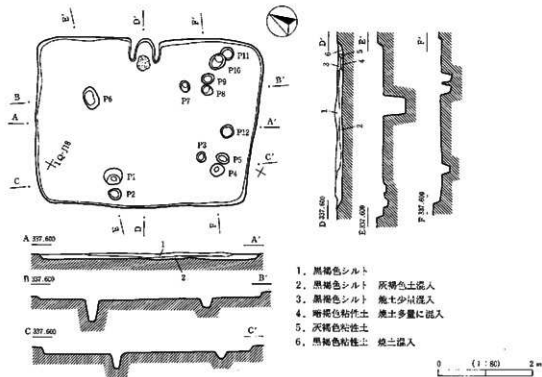


第156図 SB1131実測図

SB1144

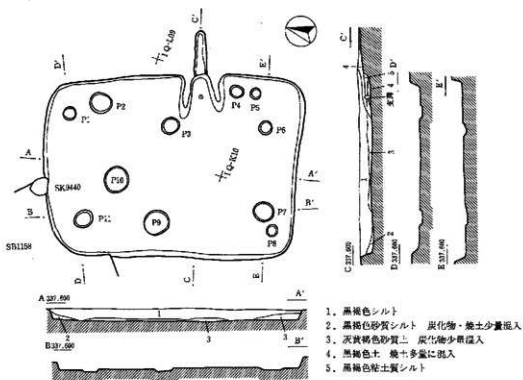


SB1151

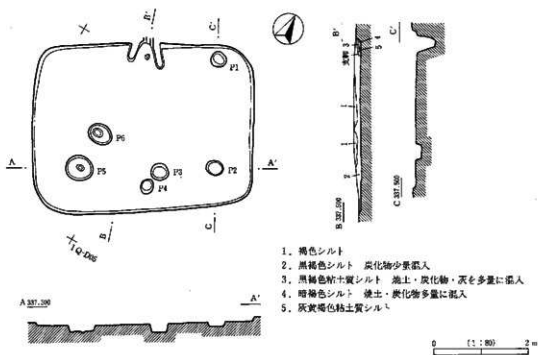


第157図 SB1144・1151実測図

SB1159

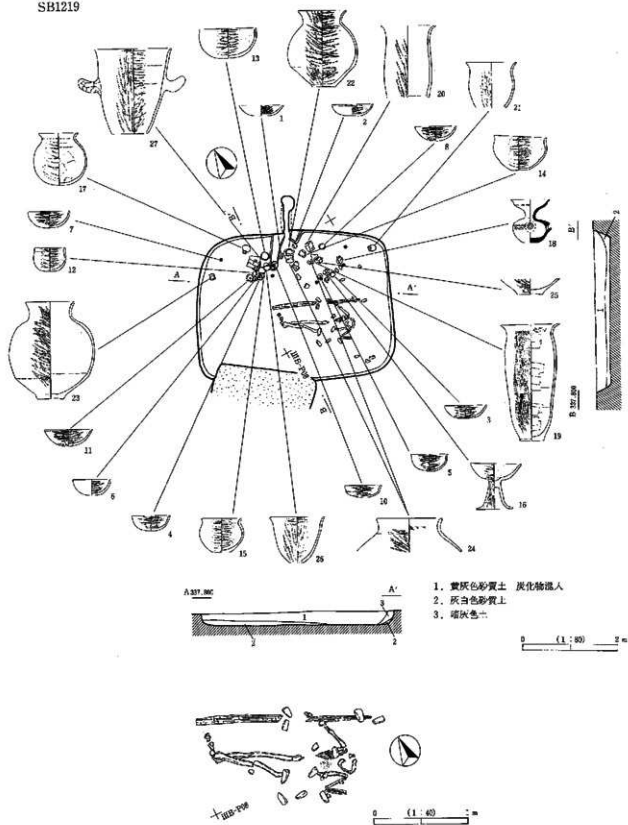


SB1165



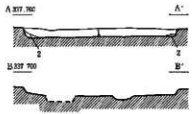
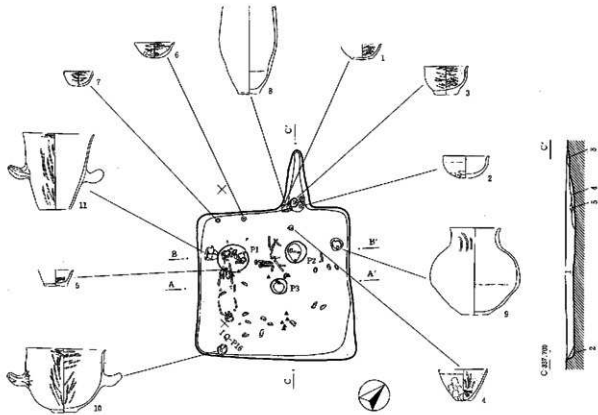
第158図 SB1159・1165実測図

SB1219

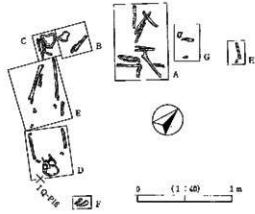


第160图 SB1219奥陶区

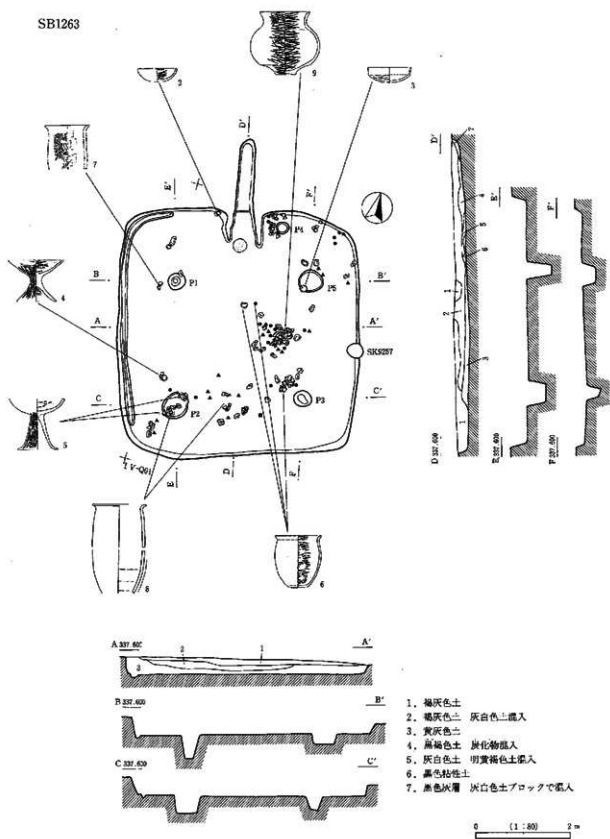
SB1262



1. 褐色土・炭化物少量混入
2. 灰白色砂質土・褐色土ブロックで混入
3. 褐色土・灰色土混入
4. 灰黄褐色粘性土・炭化物・焼土混入
5. 黒褐色土

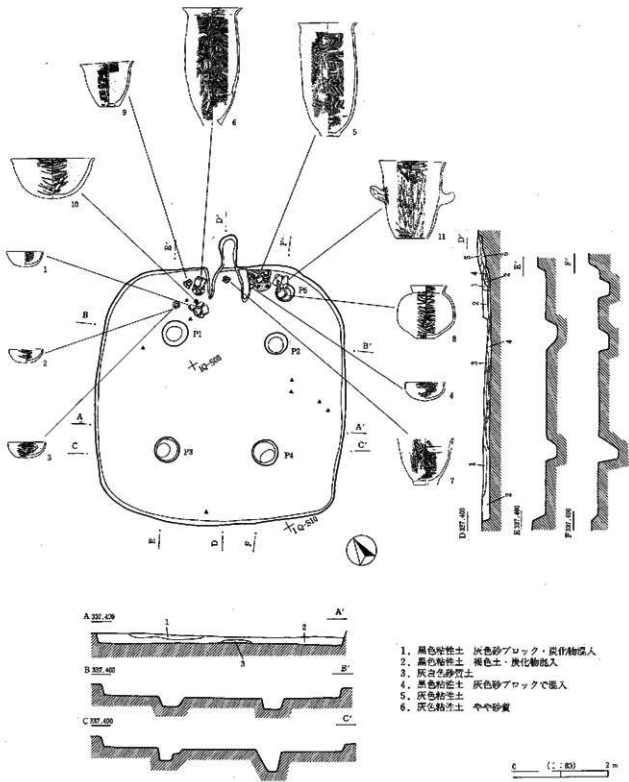


第161図 SB1262実測図



第162図 SB1263実測図

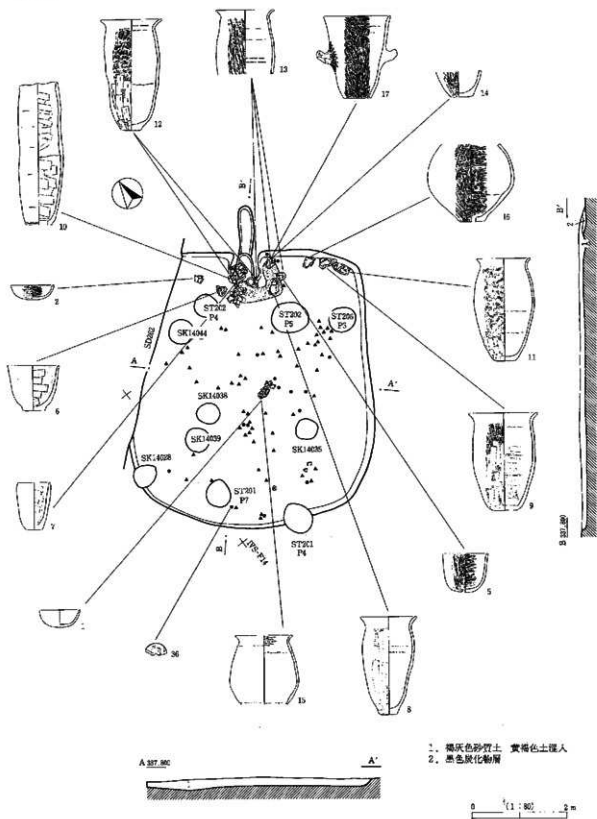
SB1264



1. 黒色粘性土 灰色砂ブロック・炭化物混入
2. 黒色粘性土 褐色土・炭化物混入
3. 灰色砂質土
4. 黒色粘性土 灰色砂ブロックで混入
5. 灰色粘土
6. 灰色粘土 やや砂質

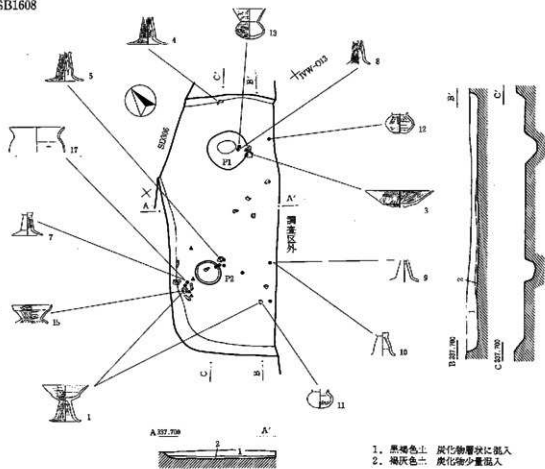
第163図 SB1264実測図

SB1401

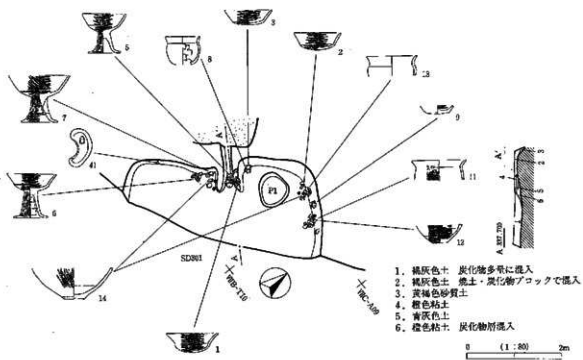


第164圖 SB1401實測圖

SB1608

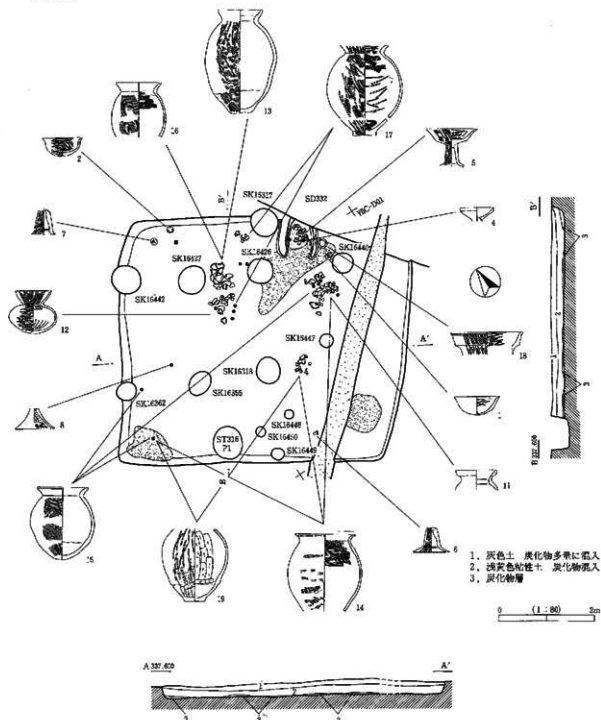


SB1611



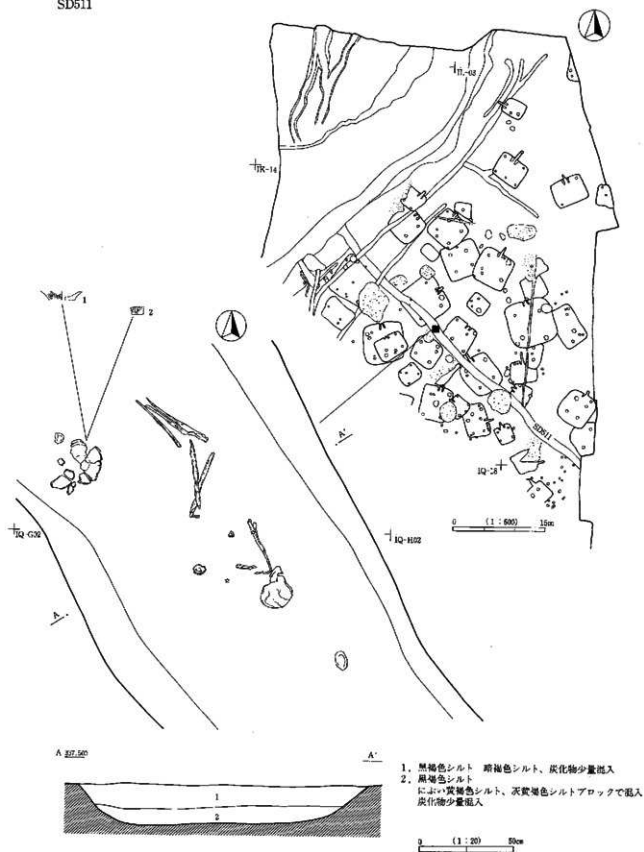
第166圖 SB1608・1611実測図

SB1644



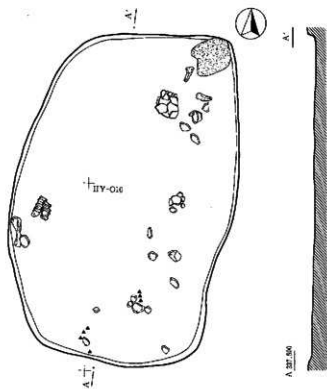
第168図 SB1644実測図

SD511

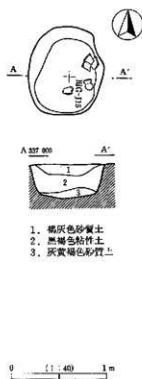


第169図 SD511実測図

SK2936



SK9048



第170図 SK2936・9048実測図

第5節 奈良時代～平安時代

1 概要 (第15～24図)

奈良時代～平安時代の遺構はID層で検出され (IC層検出も若干存在する)、該期の遺構と明確に認定されたのは、住居址36軒、溝址7条、土坑約20基を数える。また据立柱建物址や時期不明遺構の中にも該期の遺構が含まれる可能性もある (第III章 第1節)。

抽出した遺構の時期は、各遺構で一括出土した土器の様相を、奈良時代～平安時代を大きく3期に区分して対応させる (第V章第1節6)。以下この時期区分を用いて遺構の時期変遷について若干触れたい。

まずI・II期には遺構が大きく2地区に分かれる。遺跡中央部では住居址が①-1地区中心に約5軒、遺跡南部の②-2B-③-3地区では住居址1軒と溝址1条が発見された。

続くIII期は遺構数が増加する。住居址は遺跡中央部の①-1地区を中心に約20軒ほど発見された。

これに対し、遺跡南部の②-2C-③-3地区の範囲には住居址が2軒しか存在しないのに対し、溝址は5条以上発見された。特にSD33では記録木簡が出土し、SD47からは木製品や緑釉陶器、そして墨書土器が200片近く出土している。南部地区ではこの他にも帯金具や、皇朝十二銭である「饒益神宝」が出土するなど、特殊遺物の出土が非常に多い。これに対して遺跡中央の住居址群では、特殊遺物がほとんど出土しないのが特徴である。

2 竪穴住居址

第1号住居址 SB1 (第171図)

位置：①-1 III P-11,16

形態・規模：長方形 4.55×3.4m 床面積15.47㎡

主軸の方向：N10W

出土状況：北西コーナー寄りに角礫と土器 (1～8、10) が集中する。東壁際覆土中より鹿角出土。

床面：特に堅緻な部分は認められず不明確。

カマド：北壁西寄りに位置する。この付近に焼土と角礫が集中することから、右組カマドの破壊された痕跡と考えられる。

柱穴：検出されなかった。

時期：奈良～平安III期

第2号住居址 SB2 (第171図)

位置：①-1 III P-11,12

形態・規模：不整形長方形 3.35×4.15m 床面積13.9㎡

主軸の方向：N3E

出土状況：土器はカマド左側と右側ピット周辺に集中して破片で出土。

カマド：北壁中央よりやや東に位置する。両袖部分には角礫が3個ずつ並列して存在する。角礫は被熱による損傷が著しく、燃焼部は掘りくぼめられ焼土が堆積している。また炭化物がカマド右側に分布する。

第三章 調査成果

柱 穴：カマド東側に貯蔵穴を検出したが、柱穴は検出されなかった。

時 期：奈良～平安Ⅲ期

第5号住居址 SB5 (第172図)

位 置：①-1 III P-16, 17

形態・規模：隅丸方形 3.8×4.3m 床面積16.34㎡

主軸の方向：N90W

出土状況：土器はカマド・北壁および東壁寄りの床面と、P3内に集中する。覆土中よりガラス玉1個(25)、白玉15個(81～95)、鉄滓や焼骨、モモの種などが出土するものの、本址に伴うかは不明である。

床 面：全面堅緻で良く締まっており明確。

カマド：西壁中央に位置し、右袖の一部には構築材としての石がみられた。左袖は粘土で構築された部分が残存する。

柱 穴：3基検出され、P1、P2が主柱穴、P3は灰・炭化物とともに多量の土器が出土したことから貯蔵穴と考えられる。

時 期：奈良～平安Ⅲ期

第8号住居址 SB8 (第172図)

位 置：①-1 III P-17, 18

形態・規模：隅丸長方形 3.8×3.3m 床面積 12.54㎡

主軸の方向：N18E

出土状況：カマド周辺に土器片が集中して出土したが、完形に近い個体は少ない。

床 面：一部炭化物が分布するが、不明確。

カマド：北壁ほぼ中央に位置する。検出時には角礫、炭化物、遺物が散乱しており、破壊された可能性がある。

柱 穴：検出されなかった。

時 期：奈良～平安Ⅲ期

第9号住居址 SB9 (第173図)

位 置：①-1 III P-08, 09

形態・規模：隅丸方形 4.45×4.4m 床面積19.58㎡

主軸の方向：N69W

出土状況：カマド付近から土器が破片で出土。覆土中から緑釉陶器口縁片A類(9)や軽石、石皿、骨片、鉄滓が出土するものの、本址に伴うかどうかは不明。

床 面：一部炭化物が分布するが不明確。

カマド：北西壁やや南寄りに位置する。煙道はわずかに確認できるが袖は破壊されて残存しない。

柱 穴：検出されなかった。

時 期：奈良～平安Ⅲ期

備 考：①地区における遺構内外において、緑釉陶器の明確な出土例は本址のみである。

第11号住居址 S B 11 (第173図)

位置：①-1 III L-16, 17, 21, 22

形態・規模：隅九方形 5.0×4.75 m 床面積23.75㎡

主軸の方向：N28E

出土状況：床面および覆土中から土器が破片で少量出土。

床面：全面堅緻で良く締まっている。

カマド：北東壁中央に位置し、焼土、炭化物、粘土が集中しているのみ。

柱穴：直径30cm、深さ30cm前後の主柱穴4基が方形に配列される。

時期：奈良～平安Ⅰ期

備考：本遺跡において、奈良～平安Ⅰ期に属する住居址は極めて少ない。本址の他にS B 4がⅠ期に属する可能性がある。

第26号住居址 S B 26 (第174図)

位置：①-1 III K-22, 23, III P-02

形態・規模：北側をS B 25によって切られるが隅九方形と思われる。

3.6×(3.5) m 床面積(12.6)㎡

主軸の方向：N173E

出土状況：カマド左側の南壁際床面に坏、皿類が集中する。西壁際床面からは獣骨が出土。

床面：堅緻で良く締まっている。床面には焼土・炭化物が広く分布する。

カマド：南西コーナーに位置し、左袖がわずかに残る。粘土ブロックが集中することから、粘土で構築されたと考えられる。

柱穴：北側にごく浅いピットを1基検出したが性格は不明。

時期：奈良～平安Ⅲ期

第28号住居址 S B 28 (第174図)

位置：①-1 III P-03

形態・規模：不整形長方形 3.15×2.55 m 床面積8.03㎡

主軸の方向：N58E

出土状況：東コーナー床面より鉄製紡錘車が出土。土器の出土状況については詳細不明。

床面：南側はやや軟弱であるが、他は堅緻で良く締まっている。

カマド：北西壁中央に炭化物が集中し、石が検出されたことから、カマドの存在が考えられる。

柱穴：東側にごく浅いピットを検出したが、性格は不明。

備考：西コーナー付近から薫状の炭化物が出土。

時期：奈良～平安Ⅲ期

第30号住居址 S B 30 (第175図)

位置：①-1 III P-04, 09

形態・規模：不整形長方形 3.45×4.7 m 床面積16.21㎡

主軸の方向：N39E

出土状況：カマド内から坏、甕(1、4、10)、カマド左側で坏(2、5)が出土した。

第三章 調査成果

- 床 面：全面堅緻で良く締まっており、ほぼ平坦。
カ マ ド：北東壁やや北寄りに石と炭化物の集中部分が検出され、石組カマドの存在が窺われる。
柱 穴：10基のビットが検出されているが、大半は深さ10cm前後と浅い。P 2 は貯蔵穴の可能性が考えられる。
時 期：奈良～平安Ⅲ期

第503号住居址 SB503 (第175図)

- 位 置：①-1 III P-06,07,11,12
形態・規模：隅丸方形 4.5×4.5m 床面積 20.25㎡
主軸の方向：N73W
出土状況：覆土及び床面から土器が破片で多く出土。カマド内からは完形に近い環類が出土（10、12、13、16、17）。
床 面：全面堅緻であるがやや不明確。カマド前面には炭化物が集中する。
カ マ ド：西壁ほぼ中央に位置する。
柱 穴：10基のビットが検出されている。P 9 は貯蔵穴と考えられる。
時 期：奈良～平安Ⅲ期

第511号住居址 SB511 (第176図)

- 位 置：①-1B2 III K-14,19
形態・規模：隅丸長方形 4.3×3.6m 床面積15.48㎡
主軸の方向：N41W
出土状況：カマド付近に土器片が集中して出土。
床 面：ほぼ全面が堅緻で明確。
カ マ ド：北西壁ほぼ中央に位置し、袖は粘土で構築されている。煙道は検出されなかった。
柱 穴：検出されなかった。
時 期：奈良～平安Ⅱ期

第513号住居址 SB513 (第176図)

- 位 置：①-1B2 III K-18,19
形態・規模：方形 4.4×4.0m 床面積(17.6)㎡
主軸の方向：N126°E
出土状況：カマド内で長胴甕と環の破片（3、7）が出土し、東コーナーのP 2 から環、椀の破片が集中して出土（2、5、6）。
床 面：ほぼ全面が堅緻で明確。
カ マ ド：南東壁南寄りに位置し、石列のほぼ平行な石組が検出された。支脚石も出土。
柱 穴：2基のビットが検出され、P 2 は貯蔵穴と考えられる。
時 期：奈良～平安Ⅲ期

第515号住居址 SB515 (第177図)

- 位 置：①-1B2 III K-15,19,20

形態・規模：隅丸長方形 5.2×5.8m 床面積30.16㎡

主軸の方向：N39E

出土状況：カマド周辺の覆土中から破片で坏、甕類が出土（6、9、10、11）。住居址中央部の覆土中からも坏、甕類が破片で出土（7、8、13）。

床面：特に堅緻な部分は認められず不明確。

カマド：北東壁ほぼ中央に位置し、焼上ブロック、粘土、砂質土が集中して残存する。粘土で構築されていたものと思われるが、ほとんど破壊されている。

柱穴：検出されなかった。

時期：奈良～平安Ⅲ期

第687号住居址 SB687（第177図）

位置：①-1C III L-02,03

形態・規模：北側と東側が調査区外のため全容は不明。（4.55）×（3.7）m

主軸の方向：不明

出土状況：床面より土器片が出土しているが、住居址西側（4、7、11）と、東側（1、2、6、8、9、10）の大きく2カ所に集中する。

床面：炭化物が床全面に分布し明確。

カマド：調査区外にあると思われる。

柱穴：検出されなかった。

時期：奈良～平安Ⅱ期

3 溝址

第31号溝址 SD31（第20図）

位置：②-1A～②-2C IV V-05～IVW-23

形態・規模：北西～南東方向に調査区を横断する溝で、全長40m以上、幅約2m、深さ約40cmを測り、断面形状は浅いU字状を呈する。両端は調査区外に展開する。

出土状況：覆土中より奈良時代～平安時代の遺物が少量出土。自然木や礫も出土したが詳細は不明。墨書土器も1点出土している。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：奈良時代～平安時代の生活域はSD31を境に異なる様相を示す。溝の南側では該期の住居址がほとんど見られず、墨書土器や緑釉陶器、帯金具など特殊遺物の出土が目立つ。一方北側は遺構の空白地帯が存在し、約270mほど北に集落が構成されるが、特殊遺物はほとんど出土していない。SD31の詳細は不明だが、集落における境界の役割を果たした可能性も考えられる。

第33号溝址 SD33（第178図）

位置：③-1、③-2 VIO-01～23

形態・規模：調査区を北西～南東方向に横断している。全長30m以上、幅約12m、深さ約40cmで、断面形状は皿状を呈する。SD33の下部ではSD418が検出されている。覆土は砂と粘性土が

混在し、炭化植物を含んだ腐食土層である。SD418からは弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出上している。土質や堆積状況から判断して、SD33はSD418が埋没した後に落水して、沼地状に変化した場所と思われる。

出土状況：遺物は③-1地区北東部(③-2地区との境)に少量出土している。土器は土師器(3、4、5)・黒色土器・須恵器(1、2)・緑釉陶器(8、9)などの食器具と、若干の壺などの貯蔵具からなる。木製品では糸巻き(89)・曲物(157～160)・記録木簡(図版391)などが出土している。特に記録木簡は曲物(158)と重なる状況で検出された。その他、1層覆土からはクルミとモモの種子や10cm前後の角礫も出土した。しかし出土状況には詳細不明な部分が多い。

時期：出土遺物の中に古墳時代～奈良時代の破片が若干含まれるが、主体は奈良～平安III期と思われる。しかし、緑釉陶器C類が出土する点は注意が必要である。C類は10世紀以降に存在するとされており(第V章第6節)、SD33の時期と若干ずれる。近傍地における遺構の存在の可能性も否定できないが、今回の調査では明らかにすることができない。

備考：SD33遺構内では調査の過程で複数の溝の調査が行われている(SD419、423、424、426、SG5)。しかし、これらの溝はいずれも堀り込みが浅く、SD33の覆土との区別がつかないため、最終的にSD33の一部と判断している。また遺物についても、上記で触れたとおり、極めて狭い範囲内で少量確認できたのみである。

第37号溝址 SD37 (第22図)

位置：③-1、③-2 VIN-15,20 VIO-06,07,11,12,16,17,21,22

形態・規模：約18m四方の、方形に近い周溝状を呈する。幅1.5～4m、深さ約15cm前後で、断面形状は浅いU字状を呈する。

出土状況：覆土より少量の土器片や鉄滓などが出土するものの、詳細は不明。

時期：奈良～平安III期

第47号溝址 SD47 (第178図)

位置：③-3 VIM-25～VIS-10

形態・規模：調査区を北西～南東～東方向に湧出しながら横断する。全長55m以上、幅2～3m、深さは部分的に異なり、20cm～60cmの範囲にある。断面形状は皿状で、溝の両岸には最大9m幅の氾濫原が存在する。護岸施設などは確認されていない。

土層：溝の覆土は暗褐色土を中心とし、氾濫原との区別は付かない。

出土状況：本址全体でテン箱約10箱の土器片と若干の木製品、特殊遺物が出土した。土器は細片が大半を占め、接合可能な個体は少ない。図示可能な土器は破片を含めて、環・柄・皿などの食器具が、土師器10点、須恵器37点、黒色土器153点、灰釉陶器41点、緑釉陶器13点を数える。その中には墨書土器が約180点含まれており、その大部分には「A」が記される(第V章第8節)。一方で、壺・鉢・瓶などの貯蔵具は、出土量が少ないのが本址の特徴とも言える。

分布について見ると、墨書土器の出土は、VIM-25、VIN-21、VIS-01、02グリッド(溝の中央～北西部)で約120片、VIS-08、09、10グリッド(溝の南東部)で約30片と、溝の北西部に集中する傾向がみられる。また、緑釉陶器は4点(61、64、69、71)がVIM・VI

Nグリッド、1点(70)がVIS-10グリッドで出土しており、墨書土器の分布傾向と一致する。緑釉陶器はA類が大半を占め、除刻花文の柄も4点出土した(59、62、70、71)(第V章第6節)。

この他、特殊遺物として、挽物容器の底部(166)がVIM-19溝内、饒益神寶(56)がVIM-25溝内、出土地点不明で漆附着土器片が2点、勾玉1点(42)、種子(モモ・クルミ20点以上)などが出土している。VIS-06の氾濫原では、ガラス玉(30)も出土しているが、本址に伴うかは不明である。

また、SD47では直径20～50cm程の角礫と、自然木が多く出土しているものの、これらは溝の上部で検出されており、本址に伴うかは不明。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：SD47の性格については、祭祀の様相が存在する可能性もあるが、遺構の構造や遺物の分布について不明部分が多く、推測も難しい。またSD47周辺ではVIN-21グリッドで帯金具の巡方(40)が、SF2で丸駒(39)が出土している。

第79号溝址 SD79 (第23図)

位置：③-3 IVM-19～VIR14

形態・規模：③-3地区北西部で東側のみ確認された。西側は擾乱により検出されていない。形状は不整形で、検出部分で南北方向に約25m、東西方向に約5m、深さは約20cmを測る。断面形状は不明。

出土状況：覆土中より多くの土器片と植物遺体、そして30cm程の角礫が多数出土。緑釉陶器片A類(12)や、木製品では齋串(177)、用途不明品(187、218)なども出土している。

時期：奈良～平安Ⅱ～Ⅲ期

備考：本址は流路というより氾濫原としての印象が強く、北西端はSD47に切られ、遺物の出土状況についても、SD47との類似点が多い。齋串が出土した以外特殊遺物はほとんど見られず、出土状況に不明部分が多い。

第189号溝址 SD189 (第18図)

位置：①-1C IIIU-04, 09

形態・規模：約6.5m四方の、方形に近い周溝状を呈する。深さは10cm前後。断面形状は不明。

出土状況：覆土中より瓦類が出土。周溝内北東部で石製品(187)出土。しかし遺構に伴うかは不明。

時期：奈良～平安Ⅲ期。

備考：SD189によって切られたSB740(時期不明)の覆土より、円面硯の破片が出土しているが、本址との関連は不明であり、遺構外遺物とした。

4 焼土址

第1号焼土址 SF1 (第19図)

位置：②-2B VII F-02

形態・規模：長径120cm短径80cmの不整形を呈する。覆土は削られてプランのみ確認した。

出土状況：遺構に伴って灰釉陶器が2片(1、2)出土し、そのうち1片は墨書土器で「本」と記される。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：本址の深さは土器のレベルから20cm前後と推定される。焼土址として登録されているが詳細不明。類似遺構としてSF2、12などがあり、墓坑の可能性もある。

第2号焼土址 SF2 (第179図)

位置：③-3 VIN-12,17,

形態・規模：長径30cm、短径20cmの不整な楕円形を呈し、底面は北側がやや深くはみ、壁は緩やかに立ち上がる。深さ30～50cmで、上部は削平を受けている。覆土は炭化物を含む黒褐色土を主体とし、下位ほど炭化物を多く含み、特に底部では炭化材が帯状に混入する。

出土状況：覆土中から環類(土師器、黒色土器、灰輪陶器)の破片が出土し、黒色土器の柄(4)には墨書「A」が記される。また、覆土上部より帯金具(39)が出土。

木製品の挽物容器(167)も出土するものの、地点は不明。その他、拳大の角礫も若干出土。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：詳細は不明だが、規模や出土状況から判断すると墓坑の可能性も考えられる。③地区には類似した遺構として、SF12が存在する。

第12号焼土址 SF12 (第179図)

位置：③-3 VIM-20

形態・規模：直径約200cmの不整円形を呈する。プランの北西側は調査区外で不明。深さは約20cmで断面形状は皿状を呈する。覆土は3層に分かれ2～3層に炭化物を多く含む。

出土状況：覆土上部から緑釉陶器A類の柄(1)と大甕口縁片(2)が出土。覆土中に拳大の角礫と木片が少量出土しているが詳細は不明。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：本址はSD47に近接している。規模や出土状況から判断するとSF2同様に墓坑の可能性も考えられる。

第401号焼土址 SF401 (第22図)

位置：③-1 VIO-10

形態・規模：長径220cm、短径40cmの長楕円形を呈する。東西方向に軸を向け、深さは約10cm。上部は削平を受けた可能性がある。

出土状況：床面には灰状の炭化物が一面に広がり、その中に黒色土器破片がわずかに出土している。

時期：奈良～平安Ⅲ期

備考：本址はSF1、2、12と異なり、長楕円のプランを有し、炭化物の量も多いことから性格は異なる可能性がある。

5 土坑

第4100号土坑 SK4100 (第188, 181図)

位置：①-1B2 IIIK-10

形態・規模：SK4100はSB641(古墳時代Ⅱ期)の調査時に、床面近くで検出された。平面形は隅丸長

方形に近い状態であったと考えられる。想定される埋葬施設の構造は、枕木状の材の上に載せた木棺を木枠組で覆い、杭で固定させたものと考えられる。検出面で土坑のプランは確認されたが、深さや上部構造は不明。

(木枠組) 木枠組の小口にあたる部分には長さ1mにわたって材が確認された。幅、厚さとも1mm程で残存状態は極めて悪い。長軸方向の材は部分的にしか残存せず、土質の違いによってプランがとらえられた。木枠組のプランに沿って相対する位置に10本の杭が確認されている。杭の残存状態が悪いので、木枠組と杭との位置関係は明確ではない。杭は長さ22～43cmの自然木および角材で、残存状態の良いものは先端の加工が確認されている。木枠組は短軸約100cm、長軸約270cmを測る。

(枕木状の材) 底面の短軸方向に平行させて枕木状に5本の材が出土しており、木棺はこの上に置かれたものと考えられる。中央の材は特に残存状態が悪く、わずかに残った材の状態から推察すると板材の可能性が高い。4本は割材を使用していると思われ、樹皮が残るものもみられた。木芯部は残存せず、内側に湾曲した形状で置かれている。長さ70～100cm、径7～9cmで、45～は70cm間隔で配置され、いずれも周囲に黒色の粘性土が確認されている。さらに外側には粘土混じりの砂質土がとりまいており、両者は漸移的ではない。従って黒色粘性土は材を固定するために覆ったものではないかと思われる。3本は残存状態も良く、表面は炭化しており炭化材を使用した可能性も考えられる。

(木棺および遺体) 木棺は枕木状の材の上に置かれたものと思われ、2枚の板が重なるように出土している。板材はそれぞれ厚さ1mm程の残存状態であるが、木目も同一方向であることから、蓋板と底板の存在が窺われる。また、長軸両端からはほぼ真上に約3cm立ち上がる板材が出土しており、側板の可能性も考えられる。枕木状の材の外側には木棺の板材がみられないため、木棺は短軸約50cm、長軸170～180cmと想定される。主軸方向はN115Wである。木棺そのものの構造については、釘類の出土がみられない点から、組み合わせ木棺が想定されるが、残存状態が悪く詳細は不明である。また、底板と蓋板との間の土中から、僅かに骨片と歯が13点出土している。従って、歯の存在から頭位は南西を向いていたと言えよう。年齢、性別は不明であるが、木棺の出土状況から、遺体は伸展葬で身長160cm前後と推定。

出土状況: 遺体頭位とは反対の木棺長軸の外側に、完形の食膳具が5点出土している。4点は黒色土器無台環で、上向きで出土し(1-4)、1点は灰釉陶器の皿で黒色土器の上に伏せられた状態で出土した(5)。また、食膳具の下から棒状の材と、丸い形状の木製品が出土している。いずれも残存状態が悪いので断定はできないが、柄杓の可能性が考えられる。食膳具がどのような方法で埋納されたかは不明であるが、遺物のレベルは北側ほど高い。さらに、環の一部は木枠組のラインにかかっていることから、埋め戻した上部に置かれた可能性も考えられる。食膳具の他に腕や貯蔵具が共伴する事が多いが本址では出土していない。

時期: 平安Ⅲ期

備考: 木棺を覆う木枠組の存在が窺われる例は、飯山市の上野遺跡、大倉崎遺跡に痕跡が認められる。また、長軸上の木棺外に食膳具がまともな状態で置かれた例は松本市の北栗遺跡、古屋敷遺跡、石上遺跡などがあげられる。このような埋葬方法は、いずれも9世紀後半に集中する傾向がみられる。さらに、長野市松原遺跡や前述の古屋敷遺跡では、食膳具の位置が頭位と一致しているが、本址では逆位となっている。

参考文献

- 白沢勝彦 1997 「平安時代木棺墓の保存処理」『研究紀要』3 長野県立歴史館
原 明芳 1998 「信濃の古代墳墓」『長野県考古学会誌』86

6 沼址

第4号沼址 SG4 (第21図)

位 置：②-1A、②-1B VII B-22,23,24

形態・規模：古墳時代遺構を参照。

出土状況：SG4は古墳IV期の遺物が中心に出土するが、奈良時代～平安時代の遺物も若干出土している。出土状況などは不明。

時 期：古墳IV期中心、奈良～平安II～III期

7 土器集中址

第1号土器集中址 SQ1 (第21図)

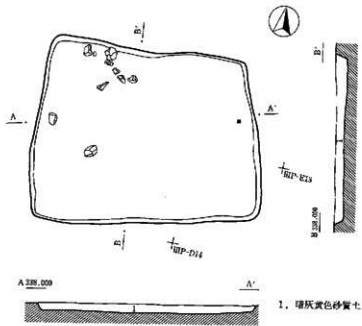
位 置：②-1B VII G-01

形態・規模：約2m四方の範囲に須恵器片が集中して出土。プランは確認できなかった。

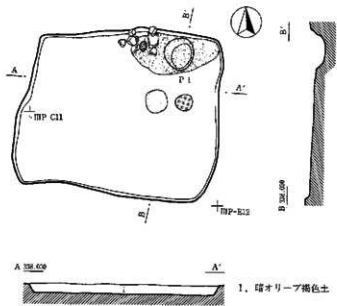
出土状況：須恵器坏、甕が破片で出土。

時 期：奈良～平安I期

SB 1



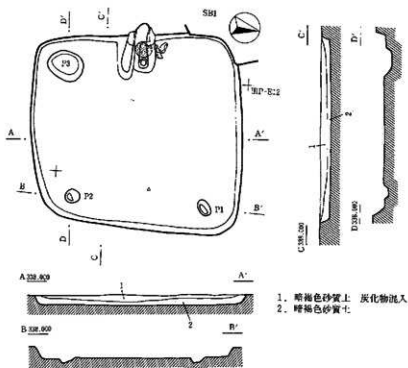
SB 2



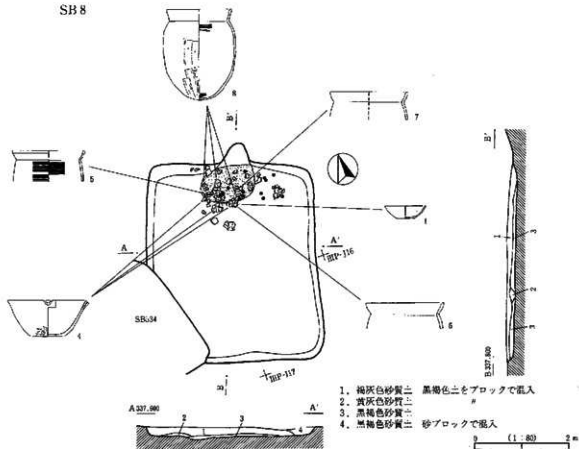
0 (1:800) 2m

第171図 SB 1・2実測図

SB 5

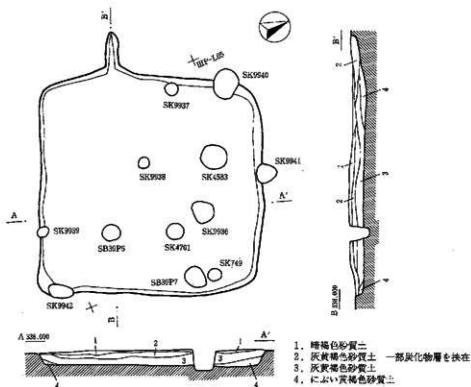


SB 8

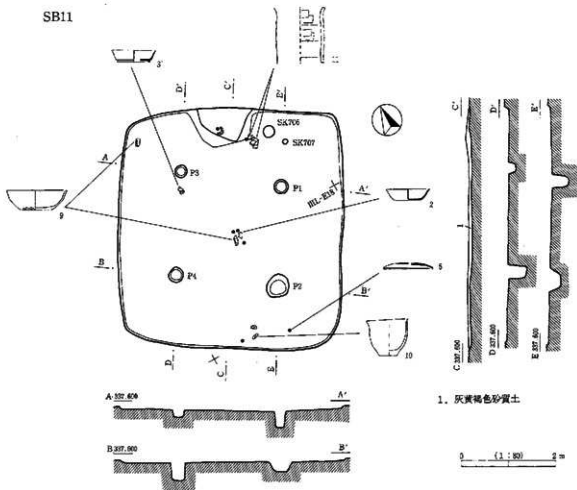


第172図 SB 5・8 実測図

SB 9

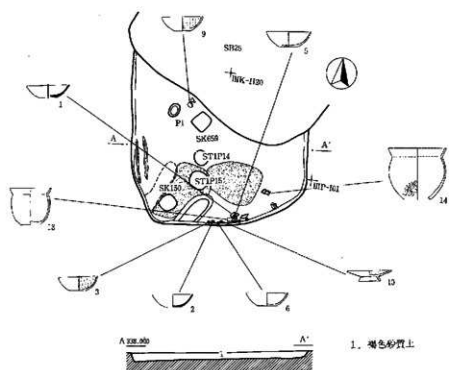


SB11

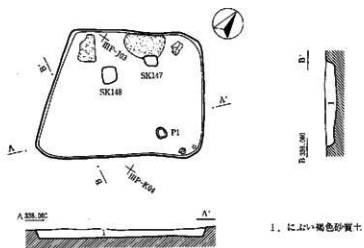


第173図 SB 9・11実測図

SB26



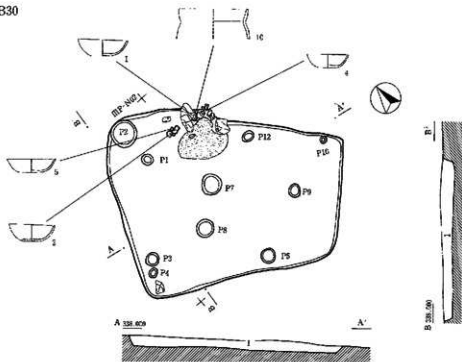
SH28



0 (1:80) 2 m

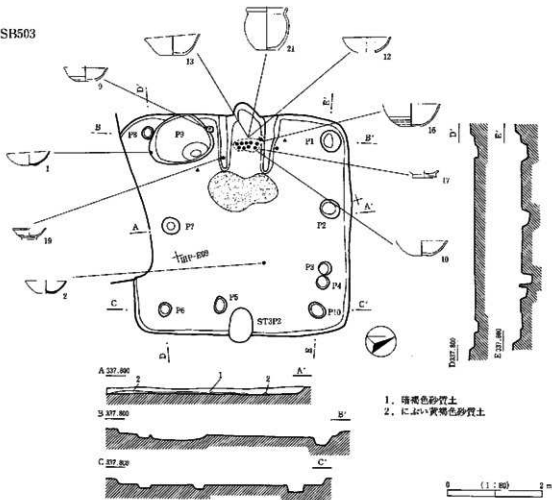
第174図 S B26・28実測図

SB30



1. 黒褐色砂質土

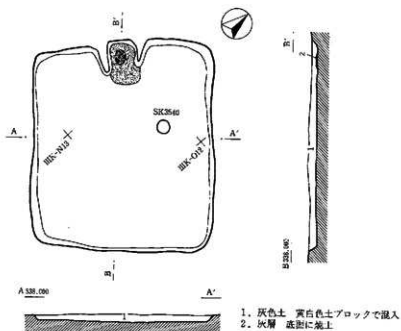
SB503



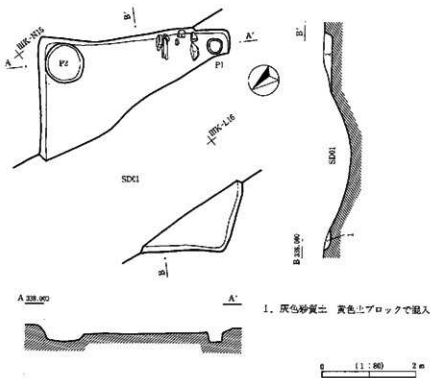
1. 磚褐色砂質土
2. にごり・黄褐色砂質土

第175図 S B30・503実測図

SB511

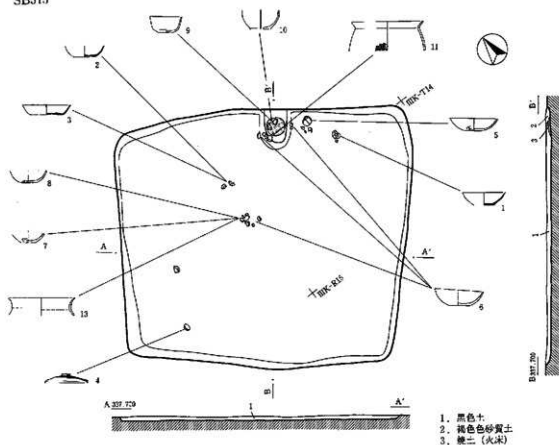


SB513

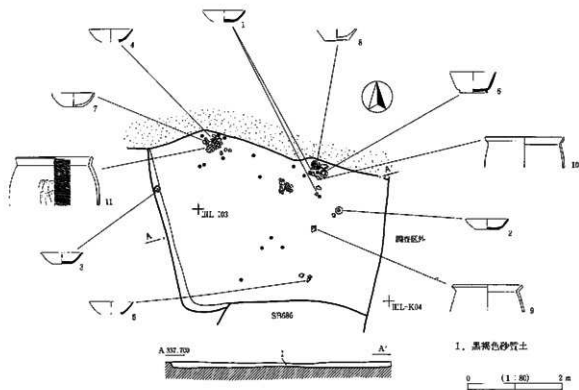


第176図 S B511・513実測図

SB515



SB687

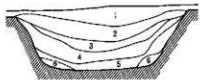


第177図 SB515・687実測図

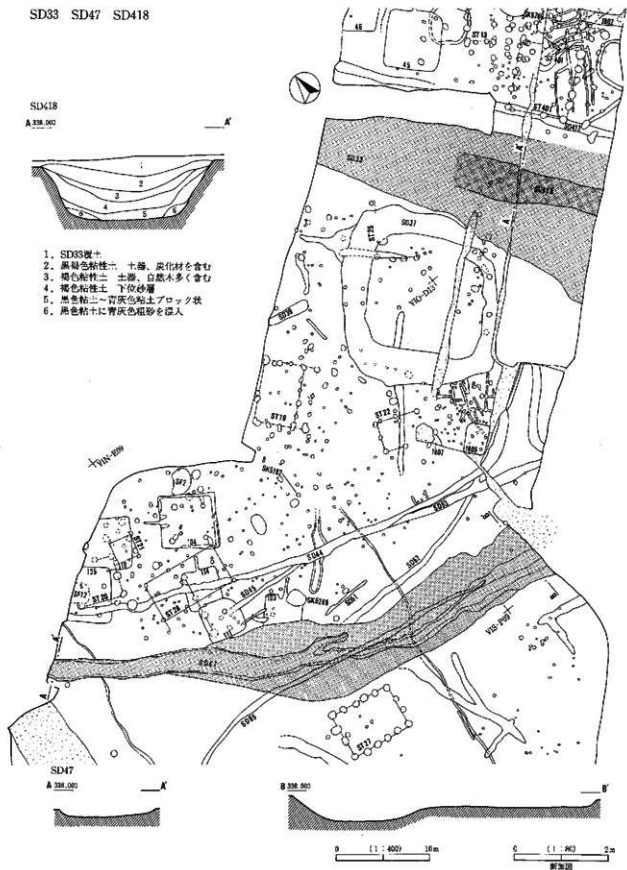
SD33 SD47 SD418

SD418

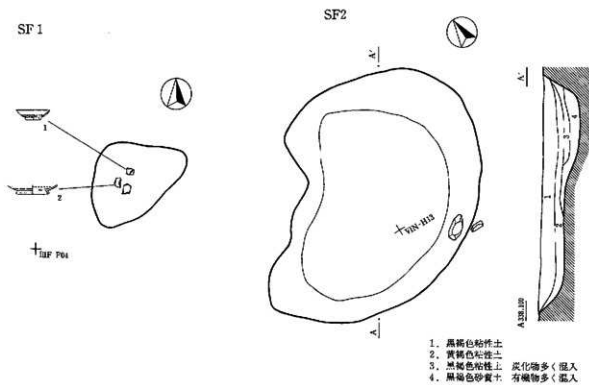
A 338.000



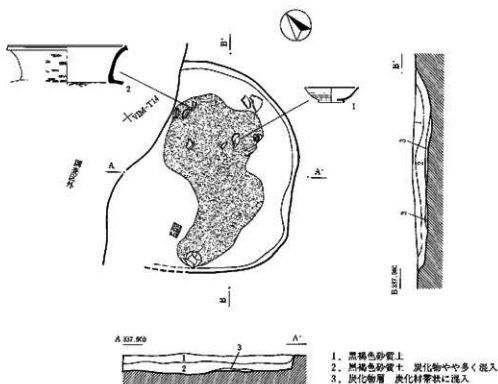
1. SD33層土
2. 黒褐色粘性土 土器、炭化材を含む
3. 褐色粘性土 土器、自然木多く含む
4. 褐色粘性土 下位砂層
5. 黒色粘土～青灰色粘土ブロック状
6. 黒色粘土に青灰色粗砂を混入



第178図 S D33・47・418発掘図



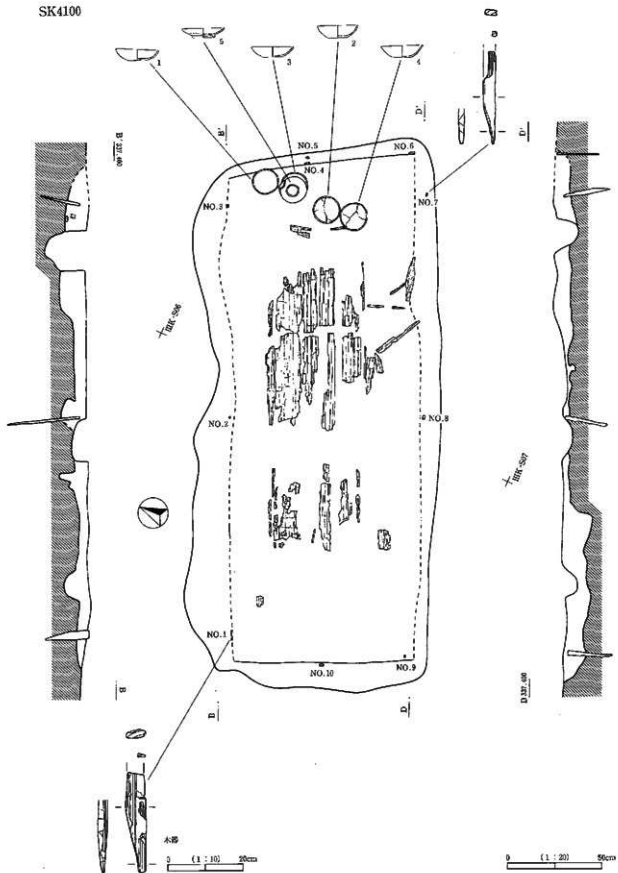
SF12



0 (1:40) 1 m

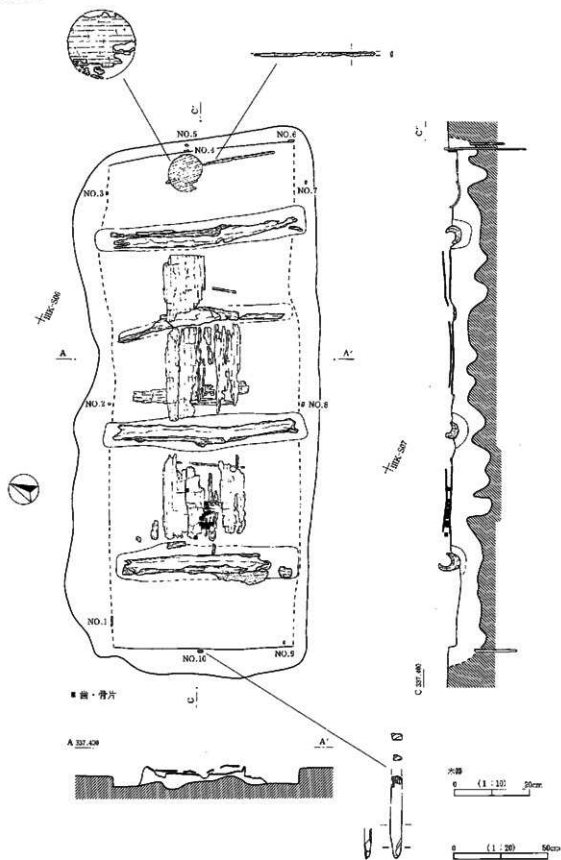
第179図 SF1・2・12実測図

SK4100



第180図 SK4100上板実測図

SK4100



第181圖 SK4100下板実測圖

第6節 掘立柱建物址

1 概要

板田遺跡の掘立柱建物址（以下ST）は大半がID層において検出されている（第II章第3節）。

一部はIC層（奈良時代～平安時代）で検出された可能性もあるが、調査時に明確に記録されたものはない。

ID層は遺構が密集して存在しており、切り合い関係により遺構を時期毎に分離することは困難であった。時期の認定できたSTは中世の7棟であり（ST1、2、3、4、51、503、526）、いずれも土坑の覆土は黒褐色土である（第III章第7節）。それ以外のSTは弥生時代後期～平安時代・中世の間に属するとは判明しない（第III章第1節）。よって時期毎の傾向を把握することは困難な状況にある。

遺跡内で調査区が細かく分断されていたため、調査時にST1棟の全容を調査できた例は少ない。また整理段階で認定したSTも多く、当初は土坑（SK）とされていたものを後でSTに変更した例もある。従って他の遺構としたものの中にもSTが存在する可能性がある。

上記の事情の上でSTと認定したのは106棟である。分布は遺跡北端の①～6地区から南の③～3地区間まで広がり、特定地区に集中する傾向は見られない。しかし現在の分布傾向が実態を表していない可能性もある。またSTの掘方覆土中より若干の遺物が出たものの、多くの遺構と切り合いながら存在するので同時期とは断言できない。以下に全体的な傾向について触れ、個別遺構の所見については第2表で示す。

明確に判明した70棟のうち、2間×1間は5棟、2間×2間は16棟、3間×1間は8棟、3間×2間は21棟、3間×3間は5棟、4間×3間は6棟、5間×3間は3棟となり、3間×2間が最も多い。規模による分布傾向の差は明確にできない。

床面積の判明した78棟のうち、10㎡以下が7棟、10～20㎡が40棟、20～30㎡が12棟、30～40㎡が10棟、40～50㎡が9棟となる。10～20㎡が最も多い（第IV章第2節2）。

主軸方向の判明した87棟の中で、N30Wを中心に13棟、N60Eを中心に20棟と、若干2方向に集中する傾向がある。しかし真北を中心に東西20°までの範囲には4棟しか存在しない。本遺跡では弥生時代後期～平安時代における竪穴住居址の主軸についても、掘立柱建物址の軸と同方向を向く傾向があり、集落を形成する際に何らかの制約が働いた可能性がある（第IV章第2節4）。

第2表 獨立柱建物址一覧表

遺構番号	グッド	地区名	主軸方向	規模		柱間隔		柱穴規模 (cm)	備考	図記番号	
				桁行×奥行 (間) (間)	桁行×奥行 (cm) (cm)	面積 (㎡)	桁行 (cm)				奥行 (cm)
1	III P2	①-1	N87W	3×2	695 500	34.75	145-335	150-210	32-48	中書面で検出。柱穴は全体に不規則な配列をなす。覆土は黒褐色土を基本とする。	26
2	III K23	①-1	N83W	4×1	750 390	29.25	120-190	370 390	25-38	中書面で検出。覆土は褐色土がブロック状に流入する黒褐色土を基本とし、柱穴が認められる。P3層方から石の破片が出土。	26
3	III P11	① 1	N75W	1×1	395 395	15.6	360-395	360-395	25-46	中書面で検出。柱穴は黒褐色土を覆土とし、P3層以外に柱穴が認められる。	26
4	III P6	① 1	N88E	3×2	485 355	17.22	120-220	175	22-42	中書面で検出。覆土は黒褐色土を基本とする。	26
11	VI U19	②-2A	N44E	3×1	420 285	11.97	60 195	285	35-72	柱穴はやや不規則な配列をなす。覆土は黒褐色土を基本とし、砂質土をブロック状に流入する。	22
12	WEB 2	②-2C	N66E	4×1	535 260	13.91	70-175	250-272	25-54	P12-P15はS瓦の溝を有する可能性が考えられる。覆土は黒褐色土で一部には柱穴が認められる。	22
13	VIO 4	②-2A	N38E	2×1	390 275	10.73	150-235	240-275	63-95	覆土は黒褐色土を基本とし、P1には柱穴が認められる。	22
14	WEB 3	②-2C	N85W	3×3	443 430	19.05	140-150	140-150	70-80	柱穴はほぼ規則的に方形に配列される。	21
15	IV V10	②-2C							20 30	柱穴は黒褐色土を覆土とし、柱穴を挟むものもある。調査区外に展開するため、詳細は不明。	20
17	WEB 8	② 2C							42-60	一部に柱穴が認められるが、不規則な配列をなす。覆土は黒褐色土を基本とする。	21
18	WEB12	②-2C	N49W	2×2	550 450	24.75	100 275	60 230	22-63	2間×2間の矩形跡の可能性が考えられ、柱穴が認められる柱穴が多い。	22
19	VIN14	③-2	N48E	5×4	670 535	35.85	50-350	50-130	35-100	調査区外で、柱穴は黒褐色土を覆土とする。覆土の層行は柱穴が重複し、建て替えの可能性が考えられる。	22
20	VIN16	③-3		3×3?					60-80	調査区外に展開するため詳細は不明。	23
21	VIN16	③-3	N65W	1×1	250 245	6.13	240-250	210-245	40-60	両側の柱穴ははやや方形を呈し、P1には柱穴が認められる。	23
22	VIN25	③-2	N71W	2×2	450 315	14.18	220	150	48-65	柱穴はほぼ規則的に配列するが、調査区外に検出している。覆土は黒褐色土を基本とし、黒褐色土を少量流入する。	22
23	IV W11	②-2C	N70E	4×3	590 465	27.44	135-165	150	35 62	柱穴の平面形状は四角形、覆土は黒褐色土を基本とし、黒褐色土を少量流入する。	20
25	VIO11	③-2							50-60	4層の柱穴が、ほぼ規則的に配列するが、S D37にちなみ詳細は不明。	22
26	WEB 4	②-2C	N48E	2×2	470 360	16.92	190-270	170 190	35-60	覆土は黒褐色土を基本とし、一部に柱穴が認められる。	21
27	VIS 7	③-3	N82W	5×3	660 505	33.33	130 150	140 170	63-95	柱穴はほぼ規則的に配列され、P3、4、5、7を除く全ての柱穴に直径10-20cmの凹みが認められる。覆土は黒褐色土を基本とし、黒褐色土を少量流入する。柱穴の形状は四角形を呈する。	182
28	VIN16	③-3	N79W	3×1	570 300	17.1	170-210	285-300	20-50	柱穴はほぼ規則的に配列し、P5、P7を除く全ての柱穴に柱穴が認められる。覆土は黒褐色土を基本とし、黒褐色土を少量流入する。	182
29	VIS11	③ 3	N49W	2×2	450 400	18.0	205-240	200	35-75	柱間隔はほぼ規則的であるが、やや不規則な方形を呈する。覆土は黒褐色土を基本とする。	23
30	IVE 3	②-3B	N16E	5×7	1006		180-250	180	85-118	柱穴は規則的に配列するが、調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は黒褐色土を基本とする。	18
31	IVE 2	②-3B							57-82	調査区外に展開するための詳細は不明。	18
33	III U12	②-3C	NS	2×2	385 365	14.05	170-195	170-195	40-62	柱穴は方形に配列される。覆土は黒褐色土を基本とし、一部には小溝が流入する。P1、2、3、5には柱穴が認められる。	183
34	III U21	②-3C	N11W	3×3	500 425	21.25	125-210	120-170	55-70	表方形に配列される。覆土は黒褐色土を基本とし、柱穴の平面形状は四角形を呈する。	183
35	III Q6	① 1	N54W	4×2	700 420	29.4	140-200	210-230	50-180	覆土は黒褐色土を基本とし、平面形状は四角形や方形を呈する。	17
36	VA 2	②-3C		4×4?	745		165-220	140-200	55 88	調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は黒褐色土を基本とし、黒褐色土がブロック状に流入する。	18
37	IVE 5	②-3C	EW	3×2	475 330	15.68	120-205	130-190	52-70	覆土は黒褐色土を基本とし、砂をブロック状に流入する。	18

第三章 調査成果

遺構番号	グリッド	基点名	主軸方向	規模			柱間隔幅		柱穴規模 (cm)	備考	図版番号
				桁行×梁行 (間) (度)	桁行×梁行 (cm) (cm)	面積 (㎡)	桁行 (cm)	梁行 (cm)			
38	IVE13	㊸-3B	N83E	4×4 ?	660 570	37.02	130-190	125-150	55-85	東方に配列されるが、裏側は欠落するものが多くやや不明確。覆土は褐色土質粘土を基本とし、灰土砂を混入する。	18
39	IWJ 1	㊸-3B	N52W	2×2	560 420	23.52	250-285	170-250	80-100	柱穴は東方に配列し、P4～P5には柱痕が認められる。覆土は黒褐色砂質土を基本とし、柱間にはかまや式の覆板か小片が敷かれている。覆方から溝溝が出た箇所も認められた。	184
40	IVE16	㊸ 3B	N29W	3×2	480 350	16.8	130-190	170-190	45-97	覆土は黒褐色砂質土を基本とし、灰土砂をブロッカ状に混入する。覆方からシカの糞が出した箇所も認められた。	184
41	IVE17	㊸-3B							70-80	調査区外に展開するための詳細は不明。	18
42	IIIK19	㊸-1B2	N42E	2×2	350 350	12.25	170-180		80-100	覆土は褐色土質粘土に粘性土で隙を少量混入する。	17
43	III P 7	㊸-1A	N36E	2×2	350 300	10.5	180	150	55-90	方形に配列するが北側の柱穴が欠落する。覆土は褐色土質粘土を基本とし、一部に柱痕が認められた。P1よりリムニア土層が2割出土。	17
44	III P 7	㊸-1A	N25W	3×3	420 360	15.12	100-170	100-130	45-62	南側方向の柱穴2基が欠落する。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	17
45	III P 2	㊸ 1A	N33W	3×3	470 420	16.8	150-165	130-150	30-72	覆土は褐色土質粘土を基本とする。	17
46	IIIK17	㊸-1H1	N32W	3×2	380 350	13.3	90 160	131 170	33 80	覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。	17
47	III G 17	㊸-3A2							70-80	調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	17
48	IVN22	㊸-3A	N45W	3×1 ?	430 380	16.34	80-160	380	52-65	5基に柱痕が認められ、ほぼ長方形に配列される。	20
51	IIIK15	㊸-1B2	EW	10×5 ?	1800	650 117.0	80-370	80-200	25-70	中央部で出土。遺石のみられる柱穴が多く、南北の両面此の大型遺物も出土とされる。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。P1より木炭層が検出された。	193
52	III L 17	㊸-1C	N76W	2×2	350 310	10.85	150-190	150	80-130	溝溝がうっすら残存するが柱痕は認められない。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	185
53	III L 16	㊸-1C	N28W	3×1	790 260	20.54	220-340	260-270	75-100	P5は覆板かうけで底層のみが残存する。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	185
54	III Q 6	㊸-1C	N54W	3×1	550 220	12.1	180-200	190-240	35-85	平面形状はやや不明瞭であるがほぼ規則的に配列する。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。	17
55	III P 10	㊸-1C	N21E	3×2	835 550	45.93	245-305	245-310	42-68	遺物層で、柱穴は深くP4、P10にのみ柱痕が認められた。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。	186
56	III L 22	㊸-1C	N49E	3×2	580 425	24.65	160-210	160-220	100-140	南方向に進行するがやや不明瞭で、ほぼ規則的に配列される。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。S T 22、S3に認められる。P7より片断木炭層が検出された。	17
57	III P 25	㊸-1C		6×4 以上	1200		170 240	170 210	70-100	調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	18
101	VA 6	㊸-5	N21W				135-150	110-140	55-75	調査区外に展開するための詳細は不明だが、北側のS T 36と類似する。3基の柱穴に柱痕が認められた。	18
102	IVE10	㊸-5	N25W	3×2	420 380	15.96	125-140	175-210	27-47	柱穴は浅く、西側の桁行が1基欠落する。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	18
201	IVS17	㊸-4	N60E	2×1	400 200	8.0	170 230	150 200	57 75	P3、4、6に柱痕のみ認められた。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	186
202	IVS12	㊸-4	N40W	3×2	665 440	29.26	170-230	210	45-62	P10はS K14032として登録してあったが、発掘作業で柱穴とされた。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	187
203	IVS 3	㊸-4	N26W	3×3 ?	600 560	33.6	180-210	180-190	55-110	調査区外に展開するための詳細は不明であるが、桁行3間以上が認められる。すべての柱穴に柱痕が認められ、覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。ブロッカ状に混入する。	20
204	IVS 4	㊸-4					130 150		70	調査区外に展開するための詳細は不明。すべての柱穴に柱痕が認められた。覆土は褐色土質粘土を基本とする。	20
206	IVS17	㊸-4					150-180		60	調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。	20
207	IVS16	㊸-4	N59E	4×3	660 560	36.98	135-195	150-205	55-80	P6を除くすべての柱穴に柱痕が認められた。覆土は黒褐色土質粘土を基本とする。	187
208	IVS 4	㊸-4	N23E				140-170		55 72	調査区外に展開するための詳細は不明。覆土は褐色土質粘土を基本とし、4基の柱穴に柱痕が認められた。	20

遺構 番号	グリッド	地区名	十軸方向	規模			柱間間隔		柱穴規模 (cm)	備考	図版 番号	
				前行×奥行 (間) (間)	前行×奥行 (cm) (cm)	面積 (㎡)	前行 (cm)	奥行 (cm)				
209	IVR25	㊸-4						160 225	75-95	竪穴区外に展開するための詳細は不明。竪土は褐色シルトを基本とする厚層。S1211の柱穴を初め、ことから掘て直しの可能性も考えられる。	20	
210	IVS16	㊸-4	N55E	3 × 1	490	280	13.72	135-175	280	40 60	弥生時代中期層で検出。	20
211	IVR25	㊸-4						90-170		42 50	調査区外に展開するための詳細は不明。竪土は褐色シルトを基本とする。S1209に切られる。	20
301	IVW22	㊸-1A						140 175		53-70	川溝様の柱穴が1列に並列されるが詳細は不明。竪土は灰赤土に黒色土がブロックで混入する厚層。	21
302	IVW22	㊸-1A	N44E	3 × 3	450 410	18.45	125-150	120-150		45-75	厚さ40-60cmの柱穴が方形に並列される。竪土は灰赤土に黒色土がブロックで混入する厚層。	188
303	VDC 2	㊸ 1A						120-130		52-60	調査区外に展開するための詳細は不明。竪土は灰赤土に黒色土がブロックで混入する厚層。	21
304	IVW18	㊸-1A	N55E	1 × 1	240	225	5.4	240	215-225	38-53	すべての柱穴がしっかりと方形の柱穴を持つ。竪土はオレンジ系粘土を基本とする。	20
307	VEB 5	㊸-2A	N55E	5 × 3	720	580	41.76	140-180	150 200	55-85	調査区外の明行(P1-4)を除き、整理作業途中で確認されたが、北西側前行の柱穴が1本だけ検出された。竪土は厚層で、灰赤土に黒色土がブロックで混入。P1とP2で確認不明の柱穴。	188
308	VEB 6	㊸-1A	N50E		650			210-250		50-70	調査区外に展開するための詳細は不明。竪土は灰赤土と黒色土がブロック状に混入する。	21
309	VEF15	㊸-1A	N71W	2 × 2	320	290	9.28	150	150	30-45	方形に並列されるが、南側は調査区外のため検出されなかった。竪土は厚層で、灰赤土を基本とする。	21
311	VEB19	㊸-1A	N62E	3 × 2	410	320	13.12	120-150	160	50-70	一部に崩壊または柱脚が露出する。竪土は灰赤土と黒色土がブロック状に混入。	21
312	IVW 9	㊸-1B	N47E	4 × 3 ?	580	600	34.8	135 150	180	70-90	整理作業途中で確認されたが、北側は調査区外のため全体のプランは不明である。竪土は灰赤土と黒色土がブロック状に混入し、P1-3、P8に確認された柱穴が認められる。	20
313	IVW 9	㊸ 1A	N59E		550			100-140	156-160	45-85	調査区外に展開しているため詳細は不明。北側のS1312と前行方向が同じと考えられる。	20
314	IVW13	㊸-1B	N75E	4 × 3	770	575	44.28	170-200	180	70-120	整理作業途中で確認されたもので、柱穴や礎石状の土片の残存する柱穴が認められた。	20
316	VEB 5	㊸ 1B	N64E	3 × 2	430	380	16.34	140-150	170-200	57-82	竪土は厚層で、褐色～灰赤土がブロック状に混入する。	21
317	VEB18	㊸-1B						170-180		55-85	調査区外に展開しているため詳細は不明。方形の柱穴が多く、竪土は厚層で、青灰色土を基本とする。	21
318	VEB18	㊸-1B	N63W	2 × 2 ?	370			180-190		35-60	竪土は厚層で青灰色土を基本とする。	21
319	VEB 9	㊸ 1B	N72E	3 × 2	390	380	14.82	120-140	170 200	47 100	柱穴区外には方形であるが、わずかに矩形のものが深い。竪土は褐色シルトを基本とし、灰色砂質土がブロック状に混入する。宮内庁期のS1656に切られる。	189
320	VEB 9	㊸-1B	N63E	3 × 2	480	370	17.76	140-180	150-210	58-75	6面に柱穴が認められ、竪土は灰赤土がブロック状と黒色土の2層からなる。シロの骨が出た穴にも認められた。	189
321	VEB 5	㊸-1B	N51E	2 × 2	480	240	11.52	180-240	100-120	25-35	柱穴は狭く、やや不規則な配列をなす。竪土は厚層で、褐色シルトを基本とする。	21
331	IVW 3	㊸-1B								50-112	調査区外に展開するための詳細不明。3間×4間以上と想定。間隔するS1333に切られるが間隔方向の可能性が高い。竪土は灰赤シルトを基本とし、褐色シルトや灰オレンジ系砂をブロック状に混入する。	20
332	IVW 8	㊸-1B	N40W	5 × 3	875	450	39.38	150-205	130-170	65-105	竪土は厚層で、灰赤シルトを基本とし、灰オレンジ系砂をブロック状に混入する。	20
333	IVW 3	㊸ 1B								70 120	調査区外に展開するための詳細不明。4間×4間以上と想定される。竪土は厚層で、灰赤シルトに灰オレンジ系砂がブロック状に混入する。	20
401	VIO 9	㊸-1	N53E	4 × 3	720	630	45.36	130-190	170-230	60-97	調査区外の前行の柱穴が1基多い。S18と併り合う柱穴が多く、掘て直しの可能性も考えられる。竪土は厚層で、褐色土を基本とし、青灰色シルトをブロック状に混入する。	22

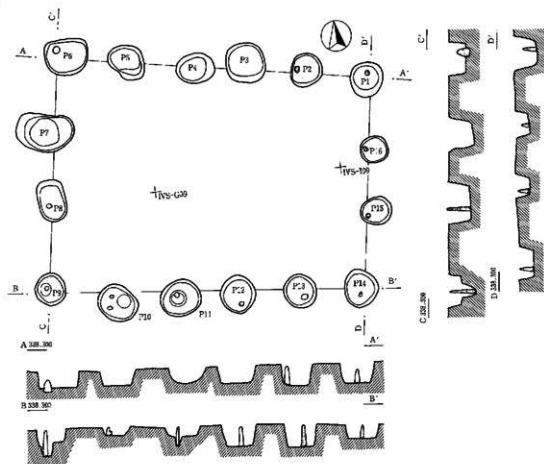
第三章 調査成果

調査 番号	グリッド	地区名	主軸方向	規模			柱間間隔			柱穴規模 (cm)	備 考	図版 番号		
				桁行×梁行 (間)	(m)	(m)	桁 間 (m)	桁 行 (cm)	梁 行 (cm)					
402	VIF22	㊦-1	N36W	3 × 2	400	400	16.0	120	140	200	47-65	覆土は早期で黄褐色砂質土を基本とし、黄褐色シルトをブロックで填入する。	22	
403	YIK 1	㊦-1	N43E	4 × 3	700	600	42.0	170-240	180-220	63-88	63-88	覆土は早期で黄褐色砂質土を基本とし、黄褐色シルトをブロックで填入。P 4に柱間を充填した。北面桁行1基欠落する。	22	
405	YIK 2	㊦-1	N63E	4 × 3 ?	680	590	40.12	140-190	200-210	70-90	70-90	遺構以外に埋戻すための詳細は不明。S T 405に切られる。覆土は早期で黄褐色砂質土を基本とし、黄褐色シルトをブロックで填入する。	22	
406	VIF21	㊦-1	N46E	3 × 2	410	360	14.76	130-140	160-195	55-73	55-73	6基に柱穴が認められた。覆土は早期で黄褐色シルトに埋戻りブロックを填入する。	22	
501	III F 9	㊦-4A	N39E	3 × 2	520	350	18.2	150-200	150-210	40-63	40-63	覆土は早期一層灰色シルトを基本とし、灰褐色シルトをブロックで填入。	16	
502	III B 7	㊦-4A	N52E	2 × 2	465	410	19.07	280	205	62-125	62-125	3基に柱穴が認められた。南東部の柱穴は埋戻しを要する。覆土は黄褐色砂質土を基本とし、灰褐色土をブロックで填入する。	16	
503	I V 12	㊦-4B	N80E	3 × 1	340	165	5.61	80-150	155-165	30-42	30-42	柱穴は深く、やや不規則な配列をする。覆土は早期一層灰色シルトを基本とし、灰褐色土をブロックで填入。中世と考えられる。	194	
504	III A 9	㊦-4A	N45W	3 × 2	650	480	31.2	220	230-250	57-85	57-85	柱穴は大半が方形を呈し、覆土は黄褐色砂質土を基本とし、黄褐色シルトを填入する。S B 1094・1095を切る。	190	
507	I Q 12	㊦-4C	N68E	4 × 3	750	570	42.75	150-200	140-220	60-105	60-105	柱穴は認められず。覆土は早期で黄褐色シルトを基本とし、黄褐色砂質土を填入する。S B 1156・1160を切る。	190	
508	I U 18	㊦ 4B	N71W		450			190	140-160	65-97	65-97	遺構以外に埋戻すための詳細は不明。覆土は黄褐色粘土に灰褐色砂質土が填入する。	16	
509	I Q 16	㊦-4C	N26E	2 × 1	350	205	7.18	150-190	165-205	30-50	30-50	柱穴は深く、北面の梁行がやや狭い。覆土は黄褐色シルトに灰褐色砂質土を填入する。	15	
510	I Q 13	㊦ 4C	N75W	3 × 2	420	350	14.7	140-150	140-200	45-60	45-60	覆土は黄褐色シルトを基本とし、灰褐色砂質土をブロックで填入する。	15	
513	I V 13	㊦-4B	N39E	3 × 2	630	450	28.35	145-230	180-230	22-57	22-57	覆土は黄褐色粘土に砂を填入する。	16	
521	III G 13	㊦-6	N29W	3 × 1	620	420	26.04	200-220	420	60-90	60-90	柱穴は同一方向で、遺構桁行2基が埋戻しのため欠落している。黄褐色シルトに黄褐色シルトを填入する。	16	
522	III G 8	㊦-6	N60W	2 × 2	420	300	12.6	140	200-220	60-90	60-90	柱穴は同一方向で、長方形に配列される。覆土は黄褐色シルトを基本とし、黄褐色シルトを填入する。	16	
523	III B 13	㊦ 6	N45W	3 × 1	630	460	28.98	180-250	460	78-100	78-100	柱穴は同一方向で、4基に柱穴が確認された。覆土は黄褐色粘土に黄褐色砂質土をブロックで填入する。	16	
524	III B 4	㊦-6						210-270		55-68	55-68	4基が同一配列するが詳細は不明。覆土は黄褐色粘土に黄褐色砂質土をブロックで填入。	16	
525	III B 9	㊦-6	N44W	2 × 1	380	305	13.87	160-200	365	65-85	65-85	覆土は黄褐色粘土に黄褐色砂質土をブロックで填入。	16	
526	I V 24	㊦-6	EW	4 × 2 ?	880	550	48.4	120	275	150-280	30-50	30-50	中絶面の黒色土を埋土とする東部壁で、埋土面付きの確定。東側方向には柱穴がほぼ同一配列している。東側壁の一部である可能性が高い。東側及び南側には土版や溝跡のような遺り出し部分がある。	194
527	I V 4	㊦-6	N48W	2 × 2	310	300	9.3	135-175	130-175	55-75	55-75	S T 533 (2壁×2壁) を切っておりはほぼ同位置に建て直された可能性が高い。S T 534を切る。S T 533は埋戻しを要する。柱穴は方形で、4基に柱間が認められた。覆土は黄褐色土と黄褐色土の2層に分層され、それぞれ黄褐色砂質土をブロックで填入する。SD545と切合う。	191	
529	III H 23	㊦-6	N69W	3 × 2	470	410	19.27	130-180	200-210	68-105	68-105	覆土は黄褐色粘土に灰褐色砂質土をブロックで填入。東側梁行の柱穴が1基欠落する。	16	
530	I V 24	㊦-6	N47W	2 × 1	340	320	10.88	150	200	300-320	45-65	45-65	柱穴はP 1を除き方形を呈する。東側梁行間に溝が存在するが、本址との関係は不明である。覆土は黄褐色土を基本とし、黄褐色砂質土をブロックで填入。	191
533	I V 14	㊦-6	N48W	2 × 2						50-70	50-70	S T 527に切られる欄干壁跡。覆土は黄褐色土でS T 527に比して灰褐色砂質土の侵入は少ない。S D 545や溝跡と切り合うが本址との関係は不明。	191	

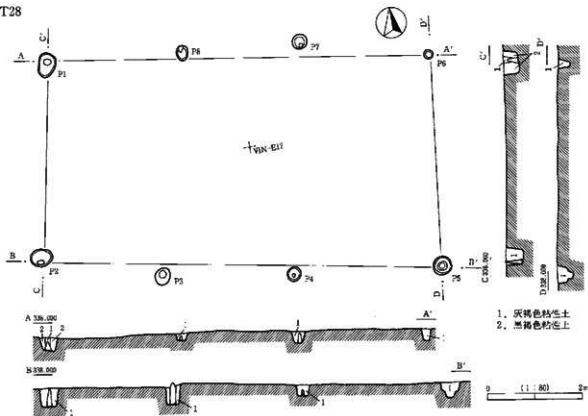
遺構 番号	グリッド	地区名	主軸方向	規模			柱間距離		柱穴規模 (cm)	備 考	図版 番号		
				町行×築行 (間) (間)	町行×築行 (cm) (cm)	面 積 (㎡)	桁 行 (cm)	梁 行 (cm)					
535	IV4	①-6	N37W	4×4?	590	580	34.22	130	170	110-160	80-110	柱穴は円～方形で、南西角桁行の柱穴は撤去されていない。礎石は黒褐色土を基本とし、灰白色砂をブロックで嵌 入する。	15
537	IV19	①-6	N2W	2×2	330	330	10.89	150	170	160-170	65	柱穴は円～方形で、南北軸にほぼ方形に展開される。礎石は灰色シルトを基本とする。	16
538	IV13	①-6	N48W	5×3?	670	650	43.55	130	200	210-230	55-85	柱穴は円～方形で、3基に柱礎が認められた。遺構は調査区域の覆土により露出されていない。覆土は灰色粘粒土を基本とする。	16
539	III G11	①-3	N47W	3×2	360	340	12.24	100-140	170-180	170-180	45-75	掘立柱遺構で確認されたものでS13 1034を含む。礎石は黒褐色粘粒シルトを基本とする。	16

* 図版番号：各時代の個別遺構図で紹介した場合は個別図版番号、全体区の場合は全体図の番号を示す。

ST27

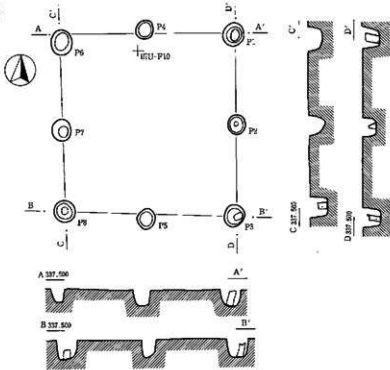


ST28

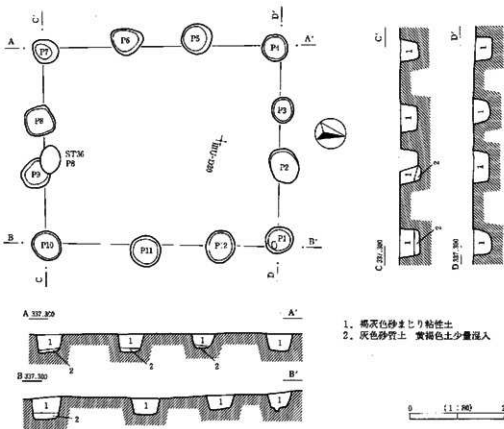


第182圖 ST27・28築測圖

ST33

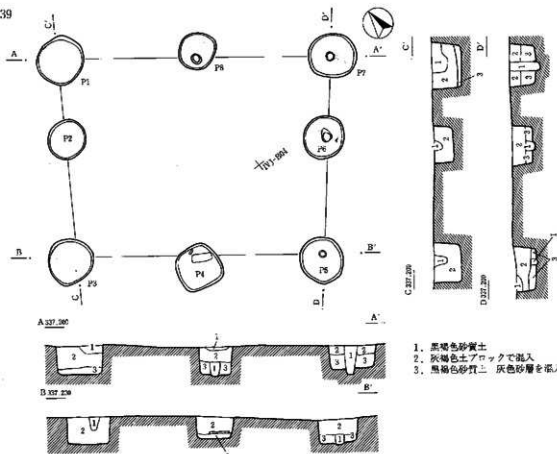


ST34

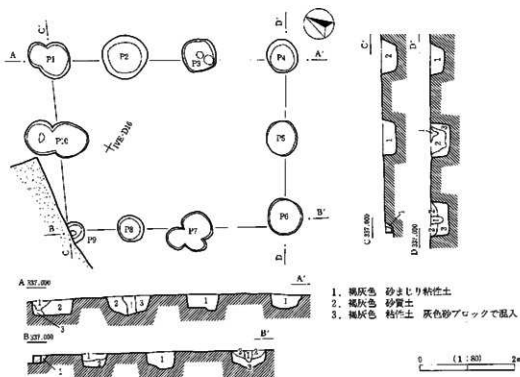


第183図 ST33・34実測図

ST39

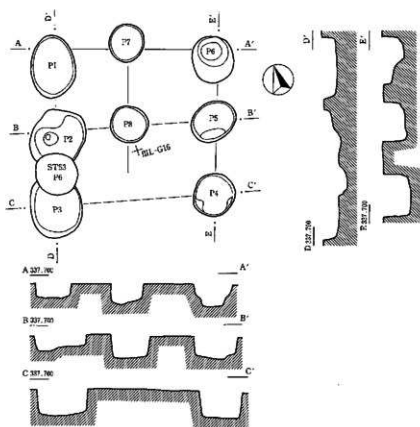


ST40

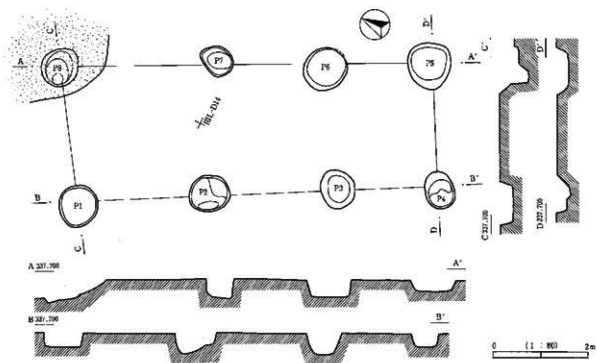


第184図 ST39・40実測図

ST52

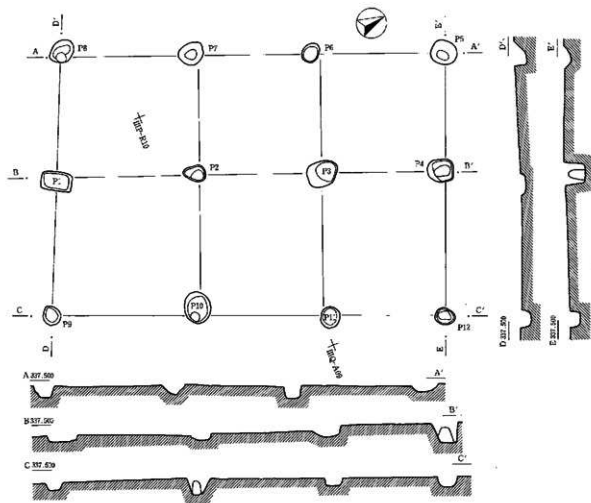


ST53

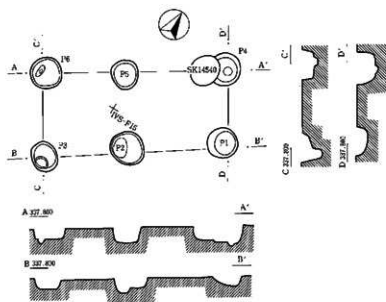


第185圖 ST52・53実地図

ST55

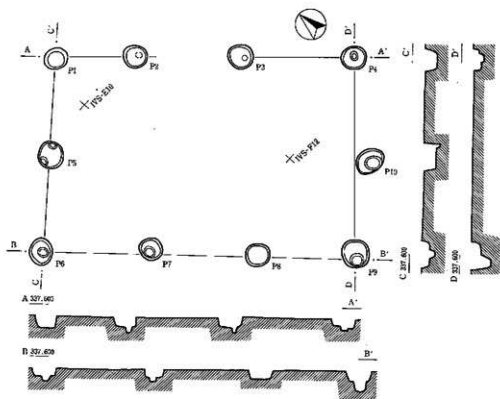


ST201

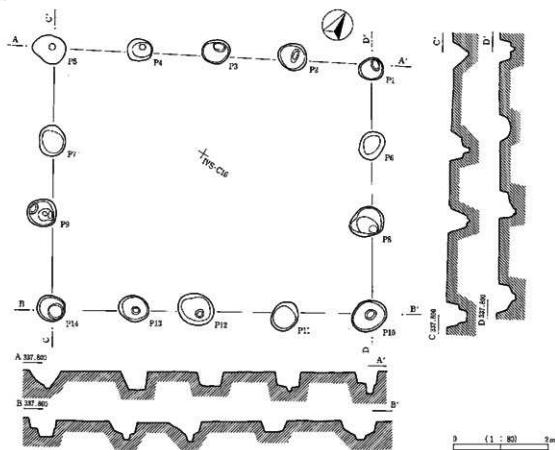


第186圖 ST55・201実測図

ST202

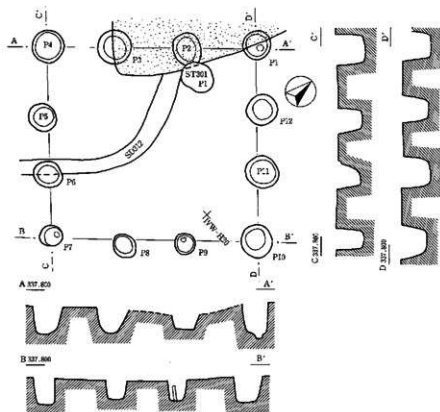


ST207

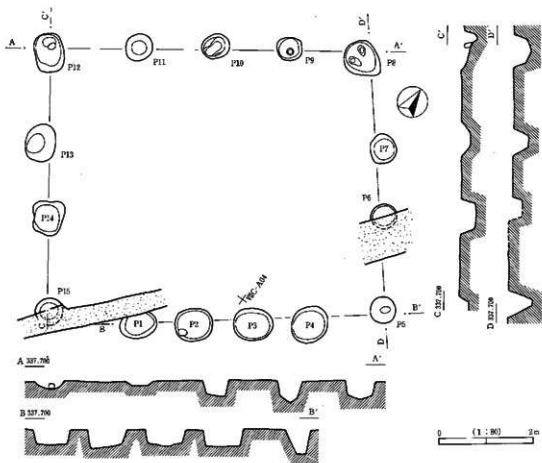


第187图 ST202·207夹刻图

ST302

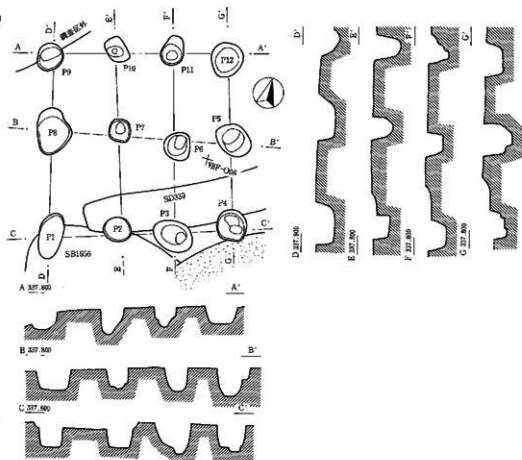


ST307

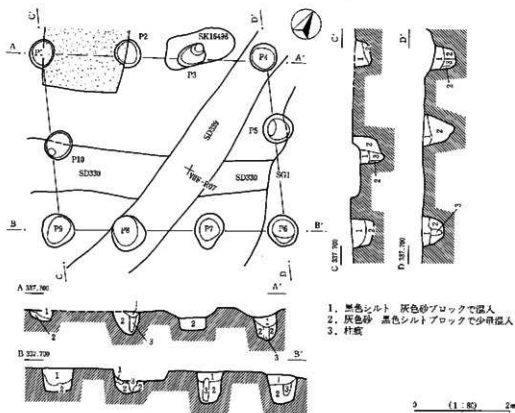


第188图 ST302・307尖剖面

ST319

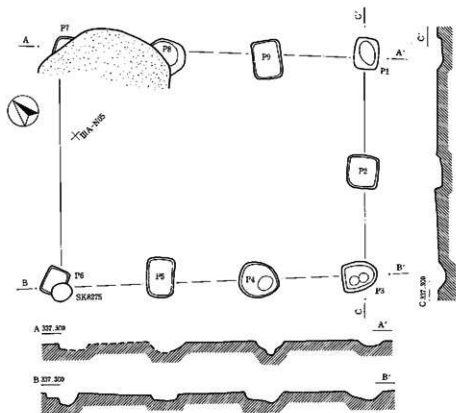


ST320

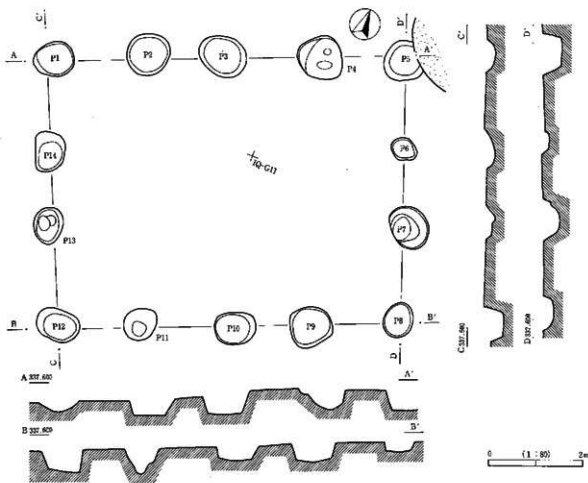


第189図 ST319・320実測図

ST504

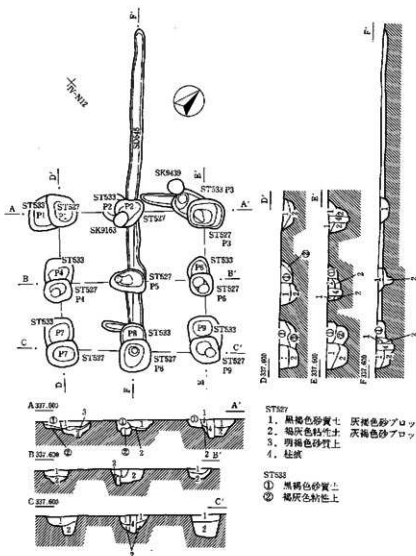


ST507

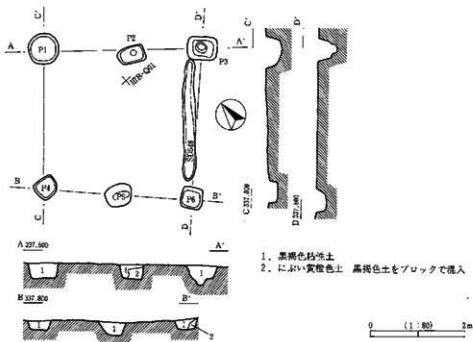


第190圖 ST504・507実測図

ST527
(ST533)



ST530



第191図 ST527 (533)・530実測図

第7節 中世

1 概要 (第25図～27図)

IC-1D層検出面において、黒褐色の覆土を持つ遺構が多数検出された。他の遺構とは明らかに異なる覆土で、中世の遺物が出土することから、該期の遺構として、掘立柱建物址3棟、溝址15本、井戸2基、墓5基を認定した。また遺物を含む土坑も約10基発見されている。この他に調査区内では土坑が多数検出され、幾つかの掘立柱建物址が存在した可能性があるが、何れも根拠が乏しく明確に認定することはできない。上記中世遺構は遺跡内の3地区(③-4、①-1、①-4B・①-6)で集中的に発見されている。

③-4地区 (第27図)

ほぼ長方形の範囲内(長軸約13m×短軸約8m)において土坑が集中的に検出されており、掘立柱建物址が存在した可能性が高い。しかし遺物はほとんど出土せず、周囲において関連する遺構は発見されていない。土坑群の長軸方向はN12Eを測る。

①-1地区 (第28・192図)

東西約55m、南北約80mの範囲内で掘立柱建物址、溝址、土坑などが多数検出された。特に調査区内では3本の大型溝が調査され、SD14→SD15→SD1の順で切り合う点が判明している。

SD14は調査区内で北東-南西方向を軸とする直線溝である。この溝に伴う明確な掘立柱建物址は検出されていない。但し、溝の北西側には土坑群が存在しており、何らかの建物址が存在した可能性もある。

SD15はL字形の溝であり、区画溝的性格が想定される。しかし、本溝により区画された内側では、掘立柱建物址を想定する土坑群は明確ではない。

SD1もSD15とほぼ同軸のL字形を呈し、区画溝的性格が想定される。溝内の遺物については土器片や馬形木製品、鉄釘などが、一定量出土している。本溝で区画された内側では、掘立柱建物址1棟(ST51)を復元した。この他にもSD1の内側において、幾つかの建物が想定できそうだが、何れも根拠が得られないため、推定される建物群を第192図に示した。またIIIK-22、III P-02、07、11グリッド付近には調査段階で4棟の建物址が想定されているもの(ST1、2、3、4)、掘立柱建物址とする明確な根拠は存在しない。

上記以外にも本地区の中世遺構については幾つかの注目点が存在する。SD1の区画外であるIII P-02、03、06、07グリッド付近においては、骨や古銭、鉄釘などの出土した土坑(SK103、107、149、3797)が検出された。骨の残存状態が悪く、人骨として認定されたのは2遺構(SK107、3797)にすぎないが、墓坑の可能性が高い。

また本遺跡では、羽山片や鉄滓などの製鉄関係の遺物が①-1地区に集中する傾向が見られ、本地区における製鉄や小鍛冶の可能性も浮上する。しかし、これらは1D層調査時における表探資料が大半を占め、中世の所産と断言できる例はほとんどない(第V章第6節3)。

①-4B・①-6地区 (第25図)

2棟の掘立柱建物址を検出した(ST503、526)。両建物址は約17m程離れて存在する。周辺では、他に中世と推測される土坑群や遺物はほとんど見られない。

以上中世遺構の存在する3地区を紹介した。これら地区間の距離は③-4地区と①-1地区の間で約600m、①-1地区と①-4B・①-6地区の間で約60m程離れている。遺物は①-1地区中心に出土し、

土器片は14～15世紀代の特徴を有する資料が多い（第V章第7節）。しかし他地区では遺物がほとんど出土しないので、3地区の時期的関係は推測できない。

2 掘立柱建物址

第51号掘立柱建物址 ST51（第193図）

位置：①-1B2 IIIK-09,10,14,15, III L-06,11

形態・規模：桁行10間、梁行5間、南北の両面に庇をもつ。18m×6.5m 面積117㎡

Pitの形状は、方形2基（P4、12）、残りの43基は円形～楕円形を呈する。覆土中に直径20cm前後の平石を置く柱穴は14基（P9、10、14、22、24、25、26、34、35、37、38、43、44、46）、柱根が確認できる柱穴は3基（P9、11、35）である。

主軸の方向：EW

出土状況：P11より換物の椀（163）が出土。

備考：本址はSKとして調査されたが、覆土中に礎石を持つ柱穴や柱根を残す柱穴がほぼ規則的に配列されたため、整理段階でSTとした。SD1で区画された地区には本址と同規模の建物の存在が窺える。

第503号掘立柱建物址 ST503（第194図）

位置：①-4B IV-12

形態・規模：桁行3間、梁行1間の側柱建物。3.4m×1.65m 面積5.61㎡

柱穴の形状は円形で、黒褐色土を覆土とする。

主軸の方向：N80E

出土状況：遺物の出土はなし。

備考：ST526北方で検出されたが、周辺には類似した遺構はない。

第526号掘立柱建物址 ST526（第194図）

位置：①-6 IV-23,24,25, IIIB-03,04,05

形態・規模：桁行4間、梁行2間と推測される。南側と北側の一部に庇をもち、西側にも付属屋を有する。東側および西側の柱列は、塙などの遮蔽物と考えられる。8.8m×5.5m 面積48.4㎡

柱穴の形状は円形で、柱根が確認できる柱穴は6基（P25、29、51、64、68、70）である。

ST503と共通する黒褐色土を覆土とする。

主軸の方向：EW

出土状況：遺物の出土はなし。

備考：北方のST503以外、周辺には同様の土坑は存在しない。

3 溝址

第1号溝址 SD1（第192図）

位置：①-3A1 IIIK-03～III Q-01

形態・規模：平面形状はL字形で、南北長は約38m、IIIK-23グリッド付近でほぼ直角に曲がり、東西

長は約27mを測る。溝の幅は約3m、確認された深さは約70cm。溝の両岸に幅約50cmのテラス状の段を有し、ほぼ溝の全域で確認されている。断面形状はすり鉢状を呈し、中世の黒褐色土を覆土とする。調査区内で溝が切れているが、土橋状の構造として認識している訳ではない。

主軸の方向：南北軸でN7E

出土状況：土器は、かわらけ、内耳鉢、すり鉢、青磁などが破片で出土（1~18）、木製品は馬形祭祀具（176）、曲物容器（143）、挽物容器（165）、鉄製品では鉄釘（22~24）と用途不明品（38）などが出土しているが、分布の詳細は不明。

第14号溝址 SD14（第182図）

位置：①-3A1 IIIK-05~III P-01

形態・規模：北東-南西方向の直線の溝で約60m程検出されている。IIIK-09、13グリッド付近でSD1により切られる。溝の幅は約1m、確認された深さは約30cm。断面形状は底部の平坦なすり鉢状を呈する。中世の黒褐色土を覆土とする。

主軸の方向：N41E

出土状況：遺物はほとんど出土していない。

第15号溝址 SD15（第182図）

位置：①-3A1 IIIK-02,07,08,09

形態・規模：覆土に黒褐色土層を含むことから中世の溝と認定したが、詳細は不明部分が多い。平面形状はL字形で、南北長は約14mを測り、IIIK-7グリッド付近ではほぼ直角に曲がる。東西長は約18mを測り、溝の幅は約1m、確認された深さは約50cm。断面形状は底部の平坦なすり鉢状を呈する。

主軸の方向：N5E

出土状況：かわらけ、内耳、すり鉢などの破片が若干出土している（1~3）。

備考：SD1の北西に位置し、SD1によって切られるが、南北、東西方向軸はほぼ一致する。

4 土坑

第5号土坑 SK5（第185図）

位置：①-1A III P-05

形態・規模：長径150cm、短径120cm、深さ65cmの楕円形の土坑。断面形状は底部が平坦なすり鉢状を呈す。

出土状況：覆土中より長さ4.6cm、幅6.1cm、厚さ1.0cmの用途不明の鉄製品が出土している。また、底部より角礫が2個検出されている。

第103号土坑 SK103（第185図）

位置：①-1A III P-06

形態・規模：長径150cm、短径70cm、深さ20cmのやや不整形な楕円形の土坑。断面形状はすり鉢状を呈す。

出土状況：覆土中より古銭3枚(65-67)と焼骨が出土している。焼骨は残存状況が悪く、人骨か獣骨か解明できなかった。

第107号土坑 SK107 (第195図)

位置：①-1A III P-07

形態・規模：長径90cm、短径67cm、深さ16cmのほぼ長方形を呈する土坑で、断面形状はタライ状を呈する。

出土状況：覆土中より人の歯(4才前後の乳歯)が出土した。

第149号土坑 SK149 (第195図)

位置：①-1A III P-03

形態・規模：長径230cm、短径145cm、深さ20cm前後の不整形な土坑。北側は円形、南側は方形を呈す。断面形状は底部が平坦なすり鉢状となる。

出土状況：覆土中より焼骨少量出土。残存状況が悪く、人骨か獣骨かは解明できなかった。

備考：底部に近いほど炭化物を多く含む。

第3557号土坑 SK3557 (第196図)

位置：①-1B2 III K-19

形態・規模：径130cm、深さ70cmのほぼ円形の土坑で、断面形状はタライ状を呈する。

出土状況：底部には4枚の板材を組み合わせた木枠と曲物が出土している。さらに覆土上部では長さ20~30cmの礫が多数検出されている。

備考：木枠を組み上げた井戸址と考えられ、覆土上部の礫は施絶時に投棄されたものか。

第3658号土坑 SK3658 (第197図)

位置：①-1B1 III K-11

形態・規模：長径57cm、短径44cm、深さ約20cmの楕円形で、断面形状は漏斗状を呈する。

出土状況：北側覆土中より板状鉄滓片(11)が出土している。

第3797号土坑 SK3797 (第198図)

位置：①-1A III P-02

形態・規模：平面プランは長軸120cm、短軸105cmの楕円形であるが、底部は径80cmの円形の土坑で、断面形状は深さ約40cmのタライ状を呈す。

出土状況：覆土より鉄釘が7本(13-19)、底部より人頭骨(18才前後、性別不明)が出土している。詳細は不明。

第4171号土坑 SK4171 (第198図)

位置：①-1B1 III K-08,13

形態・規模：径125cmの円形の土坑で、断面形状は、検出面からの深さ30cmのタライ状を呈する。

出土状況：北側に桶が埋め込まれ、その中心からは直径約30cmの曲物(161、162)が出土。

備考：桶と曲物を用いた井戸址で、曲物は砂礫層に埋め込まれた状態で出土した。桶の底部は検

出されていない。検出面から曲物の底部までの深さは約50cm。

第4520号土坑 S K 4520 (第197図)

位 置：①-3A1 III K-03

形態・規模：長径135cm、短径50cm、深さ6cmの不整形な土坑で、断面形状は皿状を呈する。

出土状況：覆土中より骨片が出土したが、残存状態が悪く、詳細は不明。

第7071号土坑 S K 7071 (第197図)

位 置：①-1C III L-16

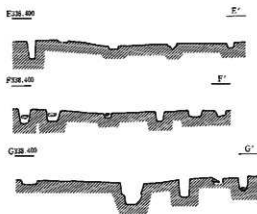
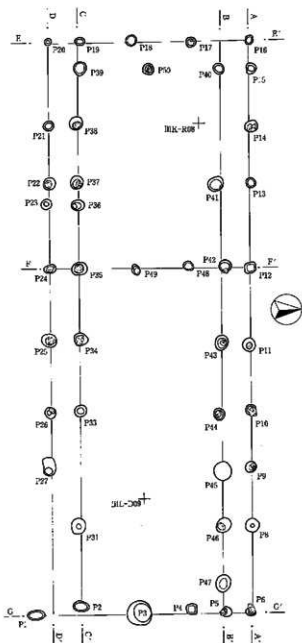
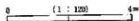
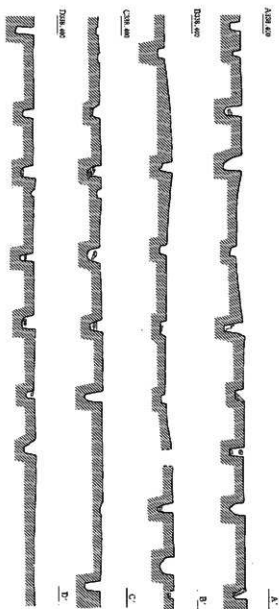
形態・規模：長径100cm、短径90cm、深さ33cmの楕円形の土坑で、断面形状はタライ状を呈する。

出土状況：底部より用途不明の木製品 (231) が単独で出土。



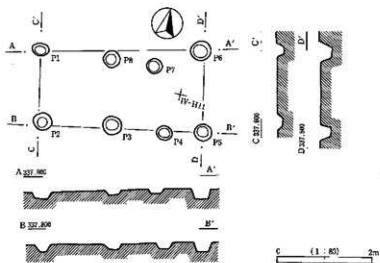
第192図 ①地区推定孤立柱建物址

ST51

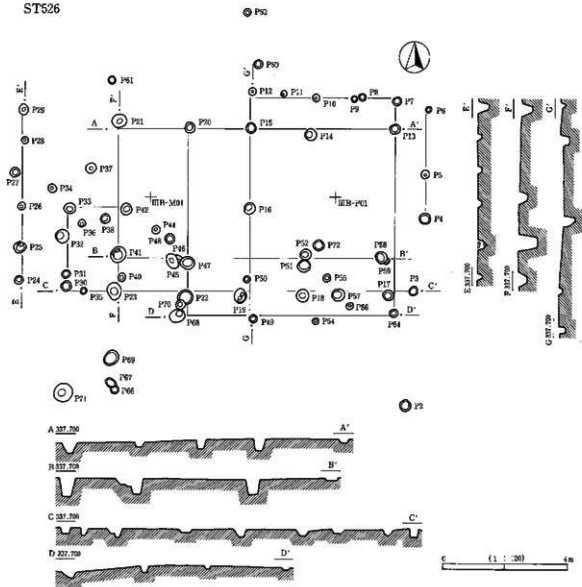


第193圖 ST51測圖

ST503

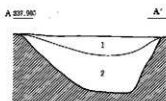
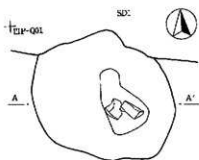


ST526



第194图 ST503・526実測图

SK5



1. 灰黄褐色土 炭化物混入
2. 黒褐色土 褐色ニアブロック・炭化物多量に混入

SK103



EIP-C27

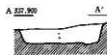


1. によい黄褐色砂質土 炭化物少量混入

SK107

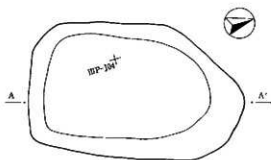


EIP-001



1. 黒褐色砂質土 炭化物少量混入

SK149



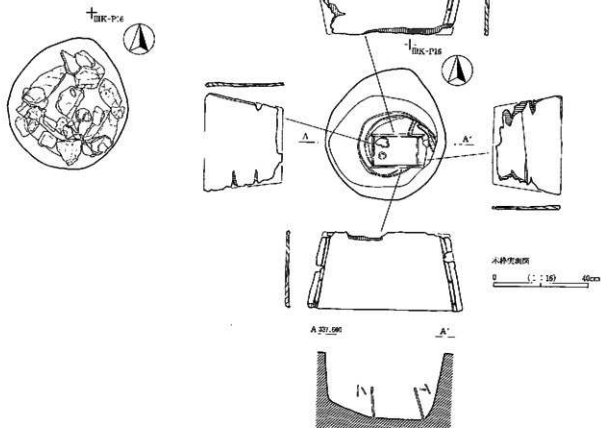
EIP-104



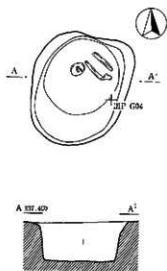
1. 暗褐色土 炭化物多量に混入

0 (1:40) 1m

SK3557

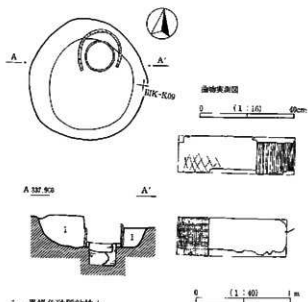


SK3797



1. 褐色砂質土

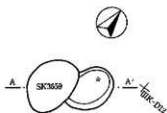
SK4171



1. 黒褐色砂質粘性土
オリブ褐色の砂をブロックで混入

第196図 SK3557・3797・4171実測図

SK3658



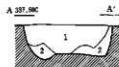
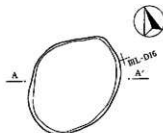
1. 黒褐色土

SK4520

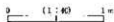


1. 褐灰色砂質土 黄褐色土ブロックで混入
底部は黒褐色土で炭化物を少量混入

SK7071



1. 黒色シルト
2. 黒褐色シルト 灰黄色砂ブロックで混入



第197図 SK3658・4520・7071実測図

第8節 近世・時期不明

1 概要

榎田遺跡ではI D層で調査した遺構の時期については、覆土中から主体的に出土する遺物の様相で判定を行っている(第III章第1節)。しかし覆土中の遺物が少量の場合は、混入遺物との区別が付かず、切り合い関係も重複が激しいので、遺構の時期を推測するのに困難な状況がある。

上記の事情で時期不明と判断した遺構数は竪穴住居址約290軒、溝址約140条、土坑1800基以上を数える。

本節では時期不明遺構の中でも、性格が判明した遺構(井戸、墓坑、特殊遺構)を中心に報告し、住居址については観察表(付表)で提示する。また出土遺物から近世と判断した遺構についても若干紹介したい。

2 近世

第22号溝址 S D 22 (第21図)

位置：②-2B・2C VIIA-18~VII B-21

形態・規模：調査区内を東西方向にやや蛇行して横断し、長さ約40mを検出した。幅は約5m、深さは約20cmを測る。断面形状は不明。溝の西端は調査区外で東端は自然に消滅する。

出土状況：木製品では、曲物(144)、用途不明品(217)、鉄製品では鉄鎌(9、10)、羅字キセル(44)、銭貨(63、64、69、70、71、74、75、80)などが出土しているものの分布状況は不明。

備考：本溝は周囲の大半の遺構を切り、遺物の様相も近世中心となることから、近世を中心とした時期に位置づけたい。S D 22周辺では弥生時代後期以降の溝が何本も発見されており、調査区内においても長期間不安定な地域であったと思われる。

第8452号土坑 S K 8452 (第188図)

位置：①-4B I V-11

形態・規模：長径370cm、短径300cm、深さ約40cmの楕円形の土坑で、断面形状はクライ状を呈する。北側は緩やかに落ち込み、底部はほぼ平坦である。

出土状況：北側には角礫が集中し、東側と南西側には丸木や板材が出土している。

備考：北側に3本、南側に1本縦杭が検出されているが、いずれも底部までしか達しておらず性格不明の土坑である。

3 時期不明

第501号焼土址 S F 501 (第200図)

位置：①-6 III B-23

形態・規模：長軸150cm、短軸130cm、深さ13cmのやや東西に長い楕円形で、断面形状はクライ状を呈する。壁線に沿って焼土が検出され、底部中央には焼土が集中する。南西方向はS B 1211によって切られる。

第3927号土坑 SK3927 (第199図)

位置：①-1B2 IIIK-24

形態・規模：長径198cm、短径52cm、深さ22cmの長楕円形で、断面形状はクライ状を呈する。

出土状況：頭部を北東に向け仰臥状態の人骨が出土。歯の鑑定により、年齢は15歳前後と推定された。

第7001号土坑 SK7001 (第199図)

位置：①-1C III L-02,07

形態・規模：長径112cm、短径62cm、深さ7cmの楕円形で、断面形状はクライ状を呈する。

出土状況：底部より馬歯、牛歯とともに、こぶし大の礫が出土。

備考：上部を削平されており、底部付近のみ残存。

第8273号土坑 SK8273 (第199図)

位置：①-4A IIIA-20

形態・規模：長径196cm、短径104cm、深さ30cmの楕円形で、断面形状は底部が平坦なすり鉢状を呈する。

出土状況：覆土中木片を含む2層を検出。木片は2×3cm前後のチップ状のものから、幅3cm、長さ20cmの短冊状のものまで様々の形態をもち、層状をなして出土している。また、桃の種10数点(第VI章第1節)と、底部付近より土器片が少量出土している。

備考：覆土は褐灰色土を主体とし、下位層は流理構造がみられることから自然堆積と考えられよう。その後の埋没段階で木片などの投げ込みがあったものではないだろうか。木片は取り上げられなかったため断定はできないが、加工痕や文字などは認められていない。

第8484号土坑 SK8484 (第200図)

位置：①-4A IIIB-12

形態・規模：直径約90～100cmの円形の土坑で、断面形状は検出面からの深さ45cmのクライ状を呈する。土坑中心には2段の曲物が井筒として用いられている。

出土状況：内側の曲物は高さ40cm、外側は高さ20cmで、いずれも二重構造で、合わせ目は樹皮で閉じられている。井筒内には20cm角の角礫と炭化木片が出土しているが、本址に伴うものかは不明である。

第401号不明遺構 SX401 (第201図)

位置：③-1 VIIK-06

形態・規模：60cm×65cmのほぼ方形の範囲に馬骨が出土。

出土状況：掘り方や明確なプランは認められず、馬骨のみが出土。

第506号不明遺構 SX506 (第201図)

位置：①-6 I L-24

形態・規模：長径165cm、短径150cm、深さ約30cmのやや東西に長い円形の土坑で、断面形状はクライ状を呈する。内側やや北寄りに直径90cmの円形のプランが認められ、底部には桶の一部と思われる木片が弧状に出土している。

出土状況：1層と2層の境界部分にこぶし～幼児の頭大の角礫が多数出土。

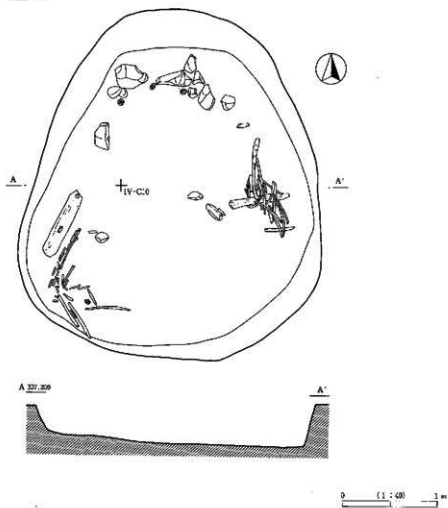
第508号不明遺構 SX508 (第201図)

位 置：①-6 IL-19,24

形態・規模：西側は調査区域のため検出されていないが、短径240cm、長軸280cm以上を測る隅丸長方形と思われる。断面形状は深さ50cmのトライ状を呈するが、北西壁は緩やかに立ち上がる。また、壁に沿ってスサ状の植物繊維が出土している。

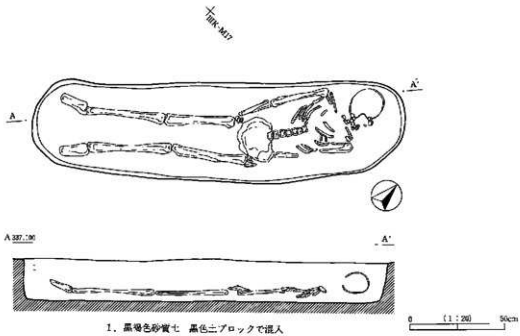
出土状況：底部より20~30cmの角礫が10点ほど出土。

SK8452



第198図 SK8452実測図

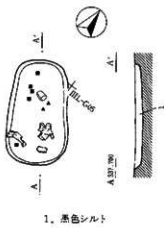
SK3927



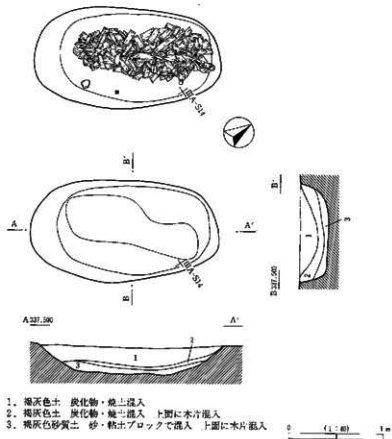
1. 黒褐色砂質土 黒色土ブロックで混入

SK8273

SK7001



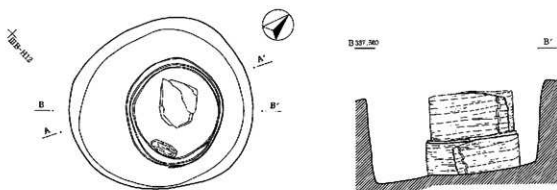
1. 黒色シルト



1. 褐灰色土 炭化物・焼土混入
 2. 褐灰色土 炭化物・焼土混入 上面に木片混入
 3. 褐灰色砂質土 砂・粘土ブロックで混入 上面に木片混入

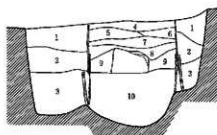
第199図 SK3927・7001・8273実測図

SK8484



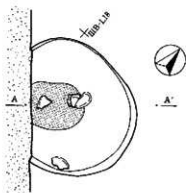
A 337.50

A'



1. 褐灰色土 2層の砂をブロック・焼土・炭化物を混入
2. 褐灰色土 焼土・炭化物混入
3. オリーブ灰色土 暗オリーブ灰色ブロック・焼土・炭化物混入
4. 灰褐色土
5. 細灰色土 粘土・炭化物混入
6. 灰黄褐色土 砂ブロックで混入
7. 褐灰色土 粘土・焼土・炭化物混入
8. 褐灰色土 砂・焼土・炭化物混入
9. 細灰色土 炭化物混入
10. 灰黄色-灰色砂

SF501



A 337.50

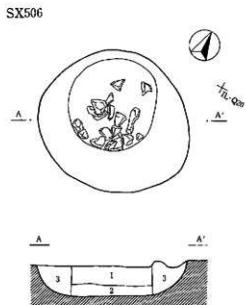
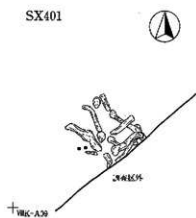
A'



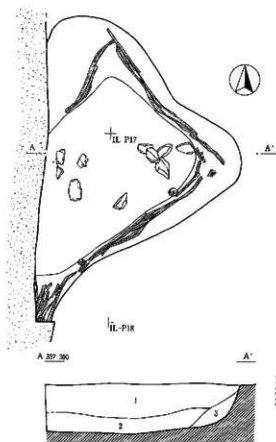
1. 黒褐色土 粘土・炭化物混入
2. 焼土層

0 (1:40) 1m

第200図 SK8484・SF501実測図



SX508



1. 灰黄褐色粘泥土
 2. 褐色粘泥土
 3. 灰黄褐色粘性土 黒褐色土・明黄褐色ブロックで混入

1. 褐色粘性土 灰白色土・黄褐色砂混入
 2. 暗褐色粘性土 灰白色土混入
 3. 明黄褐色砂質土 黒灰色土混入

0 (1:40) 1m

第201図 SX401・506・508実測図

第IV章 遺構考察

第1節 弥生時代中期の遺構について

住居の構造、住居址及び環濠等の遺構配置について若干の整理を行い、本遺跡に於ける弥生時代中期の集落像を展望したい。遺構は、栗林式後半期に所属するものであり、住居址には竪穴住居址と平地式住居址が存在する。

1 竪穴住居址

竪穴住居址は、③-3・4地区、②-3A・4・5地区で合計42軒が検出されたが、平面形態は多様であり、① 長軸と短軸の長さの差、② 壁の短辺の状態、といった観点から、以下の様に分類される(第202頁)。

I類：長軸と短軸の差が著しく、隅丸長方形または楕円形、不整楕円形を呈するもの

A：壁の短辺が二辺ともに直線的なもの

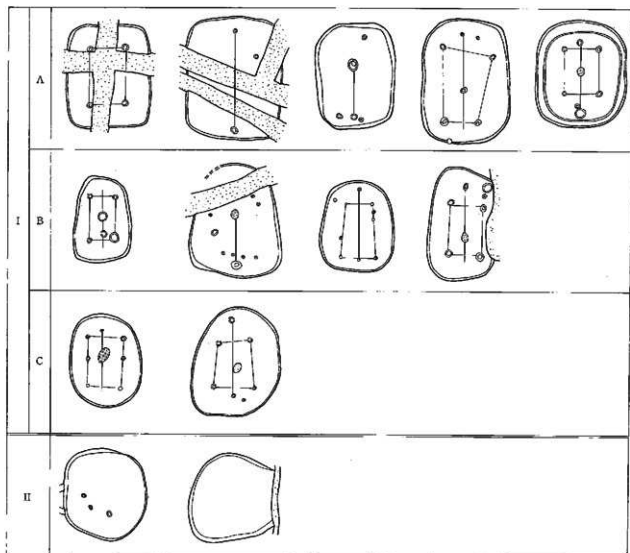
B：壁の短辺が、一辺は直線的、もう一辺はカーブを描くもの

C：壁の短辺が直線的でなく、カーブを描くもの

II類：長軸と短軸の差がI類ほど顕著でなく、不整円形を呈するもの

形態が確認された住居址は、I類が圧倒的に多く上記A～Cに分類できるが、BとCについてはその差異が不明確な住居址もある。I Aは、隅丸長方形で、コーナーが比較的角度を持つ住居址(S B 457・458等)と、丸みを帯びる住居址(S B 157・459・1474等)が存在する。I Bは、S B 113・1473・1484等を代表例とし、I AとI Cの中間的な形態をとり、隅丸の長方形に近いと言える。I Cに分類される住居址は、S B 1468・1482等で、楕円形あるいは不整楕円形を呈するが不整楕円形が多い様である。II類は、S B 837・1488等で不整円形を呈しており、隅丸正方形のものは見られない。この他に、形態が不整形となるS B 160・161が存在する。

以上の住居址には重複が認められ、特に②-4～5地区では密集して存在する等、ある程度の時間差が予想されるが、出土土器の様相では住居間に明確な時間差を指摘できない。このため、重複または密集は短期間内の所産と考えられ、同一時期に多様なプランの住居が共存したと言えよう。こうした状況は、長野市埋蔵文化財センターで調査された松原遺跡も同様であるが、円形の住居址出土土器が若干古い様相を持つ点が指摘され、松原遺跡では円形の住居がやや先行する可能性がある(寺島1993)。また、本遺跡に近接する長野市春山B遺跡では17軒の住居址が検出され、円形・方形の形態が確認されている(伊藤1990)(白野1997)。一方、長野市北部の状況はやや異なり、出土土器の様相が本遺跡と類似し同時期と思われる長野市中俣遺跡(千野1991)では、住居形態は全て円形を呈する。千野浩氏は、長野市域に於ける住居址の平面形態が、円形プランから隅丸長方形プランへ移行し、隅丸長方形プランに統一される以前に隅丸方



第202図 竪穴住居址の分類

形または長楕円形プランが出現する点を指摘した(千野1992)。本遺跡のⅠ類がⅡ類を圧倒し、Ⅰ類に多様な形態が見受けられる点は千野氏の指摘と一致し、長野市南部地域に於ける中期後半期の様相を良く示していると言えよう。円形プラン→隅丸長方形プランへの移行は、Ⅱ→ⅠC→ⅠB→ⅠA順へと大枠の中で変遷していく過程が想定される。また、長野市北部地域は、基本的に円形プランを採用し長野市南部地域と異なる小地域性を有するが(千野1992)、この傾向は飯山市や中野市に於いても認められ、長野盆地の北部と南部を画する地域性の存在が指摘されよう。

次に、竪穴住居址の住居内施設について触れたい。住居内施設として確認されたのは、柱穴・土坑・周溝・炉であり、これ等の施設が全く検出されなかった住居も存在する。

柱穴は、支柱穴と棟持柱等の支柱穴と想定されるものが検出され、S B 113・459・1468・1469・1474・1482・1484では全体の配置が明らかとなり以下に示す3通りが確認された。

- ①: 4基の支柱穴を長方形に配置するが支柱穴を持たない
- ②: 4基あるいは6基の支柱穴及び中心軸上に1基の支柱穴を配置する
- ③: 4基の支柱穴及び中心軸の上下に1基ずつの支柱穴を配置する

①はS B113等が該当し、I B類に確認される。②に所属するのは、S B459・1468・1469でI類A～Cに見受けられ、主柱穴がS B1468・1469の長方形配置とS B459の台形状配置がある。③はS B1474・1482・1484で、②同様にI類A～Cに例がある。主柱穴が、長方形配置のS B1474と、台形状配置のS B1482・1483が存在するが、台形状の配置となる住居は主柱穴間又は1基の主柱穴と支柱穴間に、1～2基の柱穴が更に配置される。II類は柱穴配置が明らかにされた例はないが、S B1488で3基の柱穴が検出され、その位置から壁に沿って多角形に配置された状況も想定される。

土坑は、中心軸から外れるものと、中心軸上に位置するものが存在する。前者はS B1469等で確認され、壁際に位置するが性格は不明である。後者は、主柱穴配置の内側に2基が検出されたS B113と、支柱穴および炉と共に1列に配置されるS B1473・1474が見受けられる。S B113の土坑は、1基は炉の位置で、もう1基はその下位に近接して検出された。両者ともに掘り込みが浅く、性格を推定する根拠はないが、炉の位置にある土坑は炉の可能性が高い。S B1473・1474の土坑は壁際の検出で、その位置から出入口施設に関係するとも思われ、特にS B1473は更に4基の柱穴が1列に並んでおり、両者の関係が注目される。同様の土坑は、松原遺跡でも多数の住居址で検出され、該期の住居構造の特徴となろう。すでに指摘されている出入り口施設として、「2本1対」の支柱があり、弥生時代中期後半～後期に存続する(青木1987)。本土坑を、出入り口施設と関連付ければ、構造の異なる出入り口施設が存在したと考えられよう。

周溝は、壁際に幅広の周溝を1周させるものがS B1474で検出されたが、住居址の掘り方を併せて掘り下げた可能性もあり、その詳細は不明である。

炉は、1住居につき1基の地床炉が検出された。中心軸上に位置し、中央に配置される場合とやや北側に偏って配置される場合がある。規模は、概ね径40～55cmだが、S B1482の炉は径60cmを超えてくる。また、S B157、459、1473の炉には、掘り込みが確認されるが、浅く若干窪む程度であり、焼けた底面上に薄い灰、炭化物が堆積する。

2 平地式住居址

本遺跡で検出された平地式住居址は、S B1481の1軒のみである。浅い周溝が円形に回り、その内部に5基の柱穴が配置されている。P1・3・4には柱根が残存したが全て板柱で、板柱の方向を見ると、P3とP4は直線的に結ばれ、P1はP2に向かって直線的となる。P2は柱根はないが、断面の柱痕からP1と直線的に結ばれる事が窺われ、P1・2とP3・4で逆ハの字状に板柱が配置される。全体配置は不明で想定の城を出ないが、S B457と重複する部分に1基の柱穴を仮定し、P5と直線的に結べば多角形の柱穴配置となる。板柱を用いる類例は、松原遺跡第206号住居址・山梨県金の尾遺跡第20号住居址(末木1987)等で確認され、主柱穴が長方形配置となる柱穴に、住居の短辺と平行する向きで板柱が検出されている。両者は、竪穴住居址である点、柱穴配置が対称構造である点、弥生時代後期前半に帰属する点が本住居址とは異なるが、板柱が弥生時代中期後半～後期前半を通して用いられた事が窺われ、柱穴配置の差異は住居の形態差、時期差等に起因するものであろう。また、集落内に於いて板柱を用いる住居は稀であり、本遺跡及び上述した2例はいずれも集落内で1軒の検出に止まり、板柱を用いる住居に特殊性が感じられる。

住居内施設としては、柱穴・周溝の他に炉が検出されている。炉は、中央よりやや北側に位置し、約10cmの掘り込みを持つ地床炉で、長径72cm、短径45cmを測り、竪穴住居址の炉より大規模で明確な点が指摘される。床面は、平土で、堅緻な部分や貼り床は見られず、検出面との明確な差異もない。

平地式住居址は、検出数及び調査範囲の問題はあるが、竪穴住居址と同一空間に共存した様である。松原遺跡では、長野市埋蔵文化財センターの調査地点及びそれに隣接する当センターの調査地点で平地式住

居址が多数検出され、特に、当センターの調査地点では多数の竪穴住居と重複関係にあり、竪穴住居と平地式住居で集落が構成された状況が窺われる。平地式住居は、北陸地方では一般的であり、「七坑タイプ」「広溝タイプ」「狭溝タイプ」に分類され(西本1997)、その分類を援用すれば本例は「狭溝タイプ」に近い。しかし、時期及び周溝の状態、柱穴配置等の住居構造に大きな差異が認められ、本例は同様な平地式住居址が200軒以上検出された松原遺跡の「松原型平地式住居」に類するもので、北陸地方の平地式住居とは区分されよう。

3 集落構成

住居址及びその他の遺構配置を見ると、第3章第2節で述べたとおり本遺跡では、②-3A・②-4地区と③-3～5地区に集落が存在する。前者は、竪穴住居・平地式住居・掘立柱建物址・溝・土坑で構成され、遺構が密集して遺構間の重複も頻繁に認められる。また、大型蛤刃石斧の製作工程を示す一連の資料が明らかになる等、手工業生産活動が行われた集落である。磨製石斧は、集落内の消費量を越えて生産されたと思われる、隣接する泰山B遺跡や松原遺跡等の周辺集落との供給関係が注目される。後者は、居住域を大形溝で囲んだいわゆる環濠集落で、内側の住居群及び土坑群を大形溝のSD81と並走するSD92・94が囲み、その外側に配置される弧状や環状の溝、土坑群を更に大形溝のSD97が囲んでいる。SD92またはSD94は、調査区域が攪乱を受けて不明確だが、③-4～5地区のSD57へ接続すると思われる。SD81は、③-4地区北端で断絶するが、この状況からSD97がSD59と同様の溝で、SD81と同様に③-4地区北端で断絶する事が想定される。また、SD81がSD59に切られるため、大形溝が魚鱗状に外側へ広がっていく状況が窺われる。内側の住居群は重複が稀で、その他の遺構も希薄である。更に、遺物出土量が僅かで、手工業生産に関係する資料も存在しない。この事は、②-3A、②-4地区の居住域より、集落自体の存続期間が短い、あるいは一時的利用がなされていたと言え、その理由として集落の性格および居住形態の差異が指摘されよう。約250mの距離を置いて存在する両住居群は、竪穴住居址出土土器の様相からほぼ同時期と想定される。両者を同一集落と捉えた場合、一時的利用ではないとすれば、環濠集落に居住するグループと環濠を持たない集落に居住するグループが存在する事になるが、それぞれが性格の異なる別の集落となる可能性もある。各住居群の全体像が明らかではないので確実でない点もあるが、環濠集落と環濠を持たない集落が一對となる状況は、本遺跡の大きな特徴と言える。周辺遺跡と比較すると、泰山B遺跡では環濠が検出されず、本遺跡②-3A・②-4～5地区と同様となる。また、いくつかの環濠が検出された松原遺跡では、本遺跡以上に遺構の重複が激しく、環濠集落及び環濠を持たない集落が一對となり、それ等が切り合う結果と考えられる。このため、菅光寺平に於ける弥生時代中期集落の在り方として、環濠を持たず集落を構成する場合と、環濠集落と環濠を持たない集落が一對となる場合の2パターンが予想されよう。

最後に、墓域について触れておく。本遺跡では、墓域が検出されず、居住域との関係は捉えられていない。栗林式前半期は、③-3地区に墓域が想定されるが集落域は存在せず、また、栗林式後半期は集落域が確認されたものの墓域が明らかではない。栗林式後半期の、②-3A・②-4～5地区の集落は、集落の主体部に調査が及んだと思われる、住居群が展開する一帯には墓域が存在しない可能性がある。また、③-3～5地区の環濠集落も同様で、環濠の内外で墓域が検出されていない。こうした状況から、墓域は居住域と明確に区別され、集落域の外側に位置すると考えておきたい。

参考文献

青木和明 1987 「長野古田高校グラウンド遺跡」 長野市教育委員会

- 青木一男 1996 『松原遺跡弥生層』整理中間報告 『紀要』5 長野県歴史文化財センター
 伊藤友久 1990 『春山・春山B遺跡』『年報』7 長野県歴史文化財センター
 白居直之 1997 『春山B遺跡』『年報』14 長野県歴史文化財センター
 末木 健 1987 『金の尾遺跡・無名遺(きつね塚)』山梨県教育委員会
 千野 浩 1991 『中俣遺跡・河津遺跡・樋田遺跡』長野市教育委員会
 千野 浩 1992 『善光寺平南部(長野市域)における弥生集落研究の現状』『中部高地における弥生集落の現状』長野県考古学会30周年記念大会資料集 長野県考古学会
 寺島孝典 1993 『松原遺跡III』長野市教育委員会

第2節 弥生時代後期以降の住居址について

榎田遺跡ではID層を中心に弥生時代後期～平安時代までの竪穴住居址が数多く調査されている。本節では、時期が確実に決定できて、残存状況が良好な竪穴住居址のみを用い、住居構造等に認められる特徴とその変化を検討する。なお床面積については掘立柱建物も含めて考える。

各時代の時期区分は、第V章第1節に準換する。本節で扱う各住居址のデータは観察表(第1分図付表)に記載した。

なお榎田遺跡は遺構の切り合いが激しく、プランの明確な遺構を抽出するのは困難であり、多数の住居址を扱う中には計測等に不統一が存在する可能性もある。

1 住居形態

長軸と短軸の比が1:1.1以内を正方形として、住居址の平面形態を次の3形態に分類した。A類:正方形、B類:縦長方形(すまたはカマドの中軸線が長軸)、C類:横長方形(すまたはカマドの中軸線が短軸)

弥生時代後期～古墳時代前期 128軒中、34軒を抽出した。A類:14軒(41%)、B類:20軒(59%)を数える。資料数が少なく、細分期毎の特徴は明らかでない。

古墳時代中期～後期 507軒中、158軒を抽出した。時期別の抽出軒数は、I期5軒、II期38軒、III期13軒、IV期23軒、V期79軒である。

I期はA類5軒(100%)、II期はA類31軒(81%)・B類6軒(16%)・C類1軒(3%)、III期はA類12軒(92%)・C類1軒(8%)、IV期はA類18軒(78%)・B類3軒(13%)・C類2軒(9%)、V期はA類57軒(72%)・B類11軒(14%)・C類11軒(14%)となる。

A類はI～V期を通して主体的に存在し、B類はII・IV・V期に少量見られる。横長方形のC類はIII期以降若干増加する傾向がある。

奈良時代～平安時代 36軒中、18軒を抽出した。A類11軒(61%)、B類1軒(6%)、C類6軒(33%)である。細分期毎の特徴は明らかでない。

2 床面積(第203図)

長軸×短軸で床面積を求めた。竪穴住居址は時代・時期毎に数えたが、掘立柱建物址は、中世以外は時期が判明せず(第III章第6節)、弥生時代後期～平安時代をまとめて扱うことになる。

弥生時代後期～古墳時代前期 36軒を抽出した。細分期毎は把握できない。5.87～67.4㎡のものがあり、15～25㎡が多い。このうち、10㎡以下の住居址S B81・1090と、45㎡以上の住居址S B107・1628・1650は何れもI期に存在する。しかし時期的特徴を示すのかは不明である。

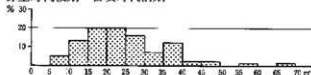
古墳時代中期～後期 143軒を抽出した。時期別の抽出軒数はI期5軒、II期32軒、III期12軒、IV期25軒、V期69軒である。特にI～III期は住居址規模を次のように4種類に分類し、時期別の傾向を把握する。

A類：住居址の1辺が8m以上を目安とし、床面積60㎡以上。B類：住居址の1辺が7m前後で、床面積45～50㎡。C類：住居址の1辺が6m前後で、床面積30～40㎡。D類：住居址の1辺が4.5m前後で、床面積15～25㎡。

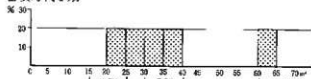
I期はA類がS B 361 (64.8㎡) 1軒(20%)・C類2軒(40%)・D類1軒(20%)。C・D類は20～40㎡の範囲に収まり、その差は不明瞭である。II期はA類5軒(15%)・B類3軒(9%)・C類7軒(22%)・D類15軒(47%)。A類はS B 354 (103.53㎡)を最大とし、以下S B 383 (77.38㎡)、S B 1093 (76.55㎡)、S B 380 (72.09㎡)、S B 284 (64.4㎡)と、半分の検出ながらA類相当の1軒(S B 808)がある。B類はS B 118 (49.35㎡)、S B 167 (47.57㎡)、S B 316 (46.15㎡)と、半分の検出ながらB類相当の1軒(S B 1203)がある。III期は半分の検出ながらB類相当の1軒(S B 635)と、C類5軒(42%)・D類5軒(42%)。IV期はC・D類の中間に当たる25～30㎡が最も多い。V期は15～20㎡が多く、IV期よりも縮小化傾向にある。

古墳時代中期～後期においては、大型住居址といえるA・B類はI・II期に存在し、住居址類型の明瞭な差は、III期以前にしか見られない。III期以降は、住居址規模の類型差が不明瞭となり、以後床面積は縮小化の傾向が見られる。この点は、遺跡内における大型住居址の分布と特殊品の所有にも関連する可能性があり、次節(集落の変遷)で触れる。

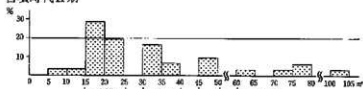
弥生時代後期～古墳時代前期



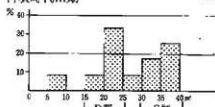
古墳時代I期



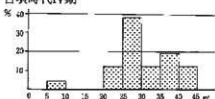
古墳時代II期



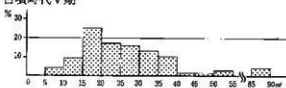
古墳時代III期



古墳時代IV期



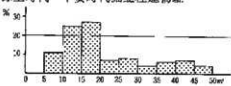
古墳時代V期



奈良時代～平安時代



弥生時代～平安時代獨立柱建物址



第203図 竪穴住居址・獨立柱建物址における床面積の推移

奈良時代～平安時代 22軒を抽出した。8.03～32.48㎡のものがあり、15～20㎡が最も多く、古墳時代より一層縮小化傾向にある。同様の傾向は松本平の調査例でも確認されている（望月1990）。

掘立柱建物址 弥生時代後期～平安時代の中で床面積の判明した74軒を抽出した。5.4～45.93㎡で、15～20㎡が最も多い。

3 炉・カマド（第204・205図）

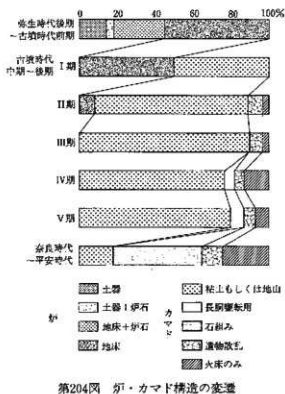
弥生時代後期～古墳時代前期 47軒を抽出した。炉の位置は中央北寄りが14軒、中央が9軒、北主柱穴間が8軒、中央南寄りが5軒、中央西寄りが5軒、その他6軒である。炉の構造が判明した住居址は、土器数炉のみ6軒、土器数炉と炉石2軒、地床炉のみ25軒、地床炉と炉石12軒を数える。時期的な傾向は不明である。

古墳時代中期～後期 177軒を抽出した。時期別の抽出軒数は、I期2軒、II期37軒、III期30軒、IV期22軒、V期86軒である。該期よりカマドが登場するもの、特徴が抽出できるのは、遺物として残る情報（芯材と支脚）が中心となる。

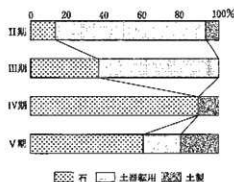
カマドの構造を次のように分類する。A類：袖の構築に芯材を用いない。B類：袖の芯材として長胴甕を用いる。C類：袖の芯材として石を用いる。D類：袖の構造は不明で、周囲に遺物が散乱。E類：袖の構造は不明で、火床のみ検出される。この他I・II期は地床炉も存在するので、カマドと合わせて、時期毎に割合で示したい。

I期は地床炉1軒（50%）・カマドA類1軒（50%）。II期は地床炉3軒（8%）・カマドA類30軒（81%）・D類3軒（8%）・E類1軒（3%）。III期はカマドA類27軒（90%）・D類2軒（7%）・E類1軒（3%）。IV期はカマドA類17軒（77%）・B類1軒（5%）・D類1軒（5%）・E類3軒（13%）。V期はカマドA類69軒（80%）・B類6軒（7%）・D類5軒（6%）・E類6軒（7%）。

上記集計結果によると、横田遺跡における炉からカマドへの変化は古墳I～II期に見られ、III期以降はカマドのみとなる。またII期はカマドが81%の住居址に存在しており、カマドが急速に普及したことが判明する。カマドの材質は、2種（粘土・地土の削り出し）の調査所見が残るものの、詳細は不明である。カマドの登場以来、A類が主体を占め、IV期以降B類が登場する。またC類（石組み）の明確な例は見られない。D・E類については、何らかの理由でカマドが人為的に破壊された例を抽出しようと試みた。しかし所見に不統一な部分もあり、カマド廃棄に関連する資料としては扱えない。



第204図 炉・カマド構造の変遷



第205図 古墳時代中期～後期のカマドにおける支脚

つぎに支脚の変遷を見たい。カマド内で支脚が確認されたのはII～V期までの81軒である。時期別の抽出軒数はII期15軒、III期11軒、IV期9軒、V期46軒である。

支脚は次のように分類し、時期毎に割合を報告する(第205図)。A類：石。B類：土器転用。C類：土製支脚。II期はA類2軒(13%)・B類12軒(80%)・C類1軒(7%)。III期はA類4軒(36%)・B類7軒(64%)。IV期はA類8軒(89%)・C類1軒(11%)。V期はA類28軒(60%)・B類9軒(20%)・C類9軒(20%)。(土製支脚は第V章第5節において集成している)

上記集計によると、A類はII期以降次第に増加する傾向が見られる。B類は、大部分が高坏の転用支脚である。特にII・III期は主体を占める。またB類はIV期に見られず、V期に存在する点も、各期における高坏の組成比率が影響したと推測される。一方、高坏転用支脚の中には、器面の荒れが少なく、カマドに伏せて置かれる例があり、カマド廃絶に伴う何らかの儀式で用いた可能性も存在する。この点について、高坏の器面の荒れと調査時の出土状況の検討を試み、そのような可能性のものを3例(SB183、595、1006)あげられるが、確実ではない。この他、B類には甕類の転用支脚が若干含まれる。甕の転用が明確に確認できたのは3軒(SB186-1、685-12、1401-7)である。C類についてはII・IV・V期に見られ、V期の出土例が目立つ。

この他、カマドについては何本の甕を懸けたかも、注意点の一つとして存在する。調査記録では、カマド内で1本出土する例は確認できる。しかし2本出土する例については不明瞭であるものの、その可能性のある住居址として7例(SB197、350、516、530、578、1086、1159)があげられる。該期の住居址では大小の長胴甕と甔が住居内で数本まとめて出土する例が見られる(第V章第1節3)。これら大小の甕を、カマドに2本、或いは3本懸ける例は他遺跡において確認されており(外山1989)、本遺跡でも可能性は存在する。

奈良時代～平安時代 17軒を抽出した。カマド構造は、A類3軒(18%)、C類8軒(47%)、D類2軒(11%)、E類4軒(24%)となる。時期的な傾向は把握できない。該期は、石組みカマドが主体となる可能性がある。しかし本遺跡では占墳時代の明確な石組みカマド例は抽出できない。石組みカマドの登場がいつなのか、また遺跡毎に異なるかは、今後の資料の増加を待ちたい。支脚については1軒(SB504)でA類が確認されたのみで、傾向は把握できない。

4 方位

竪穴住居址の方位は、炉・カマドの中軸線を基準に求めている(第1章第2節2)。

弥生時代後期以降、時期毎に特徴のある分布傾向は見られない。但し、時代にかかわらずN60E、それとはほぼ直行する形でN30Wの2方向をとる例が多い。この2方向に厳密に軸が設定されるわけではなく、平均からずれる住居址も多々存在するものの、同様の傾向は掘立柱建物址にも確認されている。

上記2方向が好まれる理由の一つとして、遺跡内における自然流路の方位が注意される。榎田遺跡には千曲川の旧河道の一部と推測される流路(SG2・3)が存在し、これらの方位は大方N50～60Eを向く。占墳時代中期以降はSG3周辺に遺構が集中する傾向がみられ、集落を形成する際、住居址の主軸が自然流路に影響されたかもしれない。この他、自然地形や風向の影響、信仰、集団の規制など別の理由が存在した可能性もある(方位については野村一夫氏より御教示をいただいた)。

参考文献

- 外山政子 1989 「群馬県地域の上層階級について」 『研究紀要』6 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 望月 味 1990 「古代の竪穴住居址」 『総論編』 中央自動車道長野野線遺跡文化財発掘調査報告書4
 堀 隆 1991 「住居廃絶時における、遺構体をめぐって」 『東海史学』25

第3節 榎田遺跡における集落の変遷

榎田遺跡では、弥生時代中期・弥生時代後期～古墳時代前期・古墳時代中期～後期・奈良時代～平安時代・中世の5期にわたり、断続して集落が存在した。本節では調査成果を基に各時期毎の集落変遷を把握し、榎田遺跡における集落の成立と展開の背景について若干検討を試みたい。

但し、榎田遺跡においては遺構の重複が激しいため、時期や性格の判明した遺構は非常に少なく（第III章第1節）、その大部分は住居址（S B）である。

なお、本節では各時代の時期区分は、第V章第1節に準拠する。また、遺構の分布を説明する際に、調査区内を南からA～Hの8地区に分けて記述する。

1 弥生時代中期（第206図）

榎田遺跡では弥生時代中期以前は縄文土器が数片発見されるのみであり、集落が成立するのはこの時期からである。

遺構数は竪穴住居址43軒、平地式住居址1軒、掘立柱建物址1棟、溝址10条、100以上の土坑を数える。

遺構は大きくA・Dの2地区に分布する。A地区は調査区南端にあり、S D81と97に囲まれた環濠集落が発見されている。この環濠の内側では7軒の住居址が確認されている。A地区では住居址と溝以外は時期差を有する土坑群が存在するのみで、出土遺物も少ない。

一方D地区は調査区の中央部にあり、35軒の竪穴住居址と、1軒の平地式住居址、1棟の掘立柱建物址が確認された。本地区はA地区よりも遺構の密度が高く、住居址の中にも切り合い関係が見られる。またD地区は焼失住居が目立つ点も注意される。本地区の範囲については、集落南端はC地区の溝址S D318、北端は、北側の河川址S G 3とする。またS G 3は住居址の一部を侵食しているため、集落が河道に近接して存在したと推測される。S G 3以北では中期面は存在しない。

本地区で特筆すべきは、大膽形磨製石斧の製作関連の未製品・原石を出土する住居址が多く見られる点である（S B837、1469、1473、1482、1484他）。その他、S B1468では炭化した織物片が出土した。

上記A・D両地区における竪穴住居址出土土器は栗林式後半期の様相を示しており、A地区の環濠集落と、D地区の環濠を持たない集落が対になり存在したと推測される。両地区は約250m離れており、間のB・C地区では土坑群と溝址が確認されるのみである。

この他、A地区において墓坑の可能性があるS K5495、5497が発見されている。出土した土器は栗林式前半期の様相を示しており、周辺に該期の墓域が存在したと考えられる。しかし栗林式後半期の墓域は調査区内では確認されていない。

弥生時代中期集落の成立については大きく2つの要因が推測される。第一にS G 3の存在である。S G 3は千曲川の旧河道の一部と考えられ、周辺には中州状の微高地と後背湿地が存在していた。栗林式後半期におけるD地区の集落はこのS G 3に近接して作られており、農耕に適した場所として選択された可能性がある。またA地区における環濠集落の南側は丘陵に接しており、これも集落立地に影響を及ぼしたかもしれない。第二に石器製作における石材の存在である。遺跡に近接する山は保科玄武岩類で形成されており、その中に変質安山岩や石英閃緑岩、ひん岩などの貫入岩帯も多く見られる。該期の集落はこれら豊富な石材が入手可能な場所としても好条件であったと思われる。また同時期には南方に泰山遺跡、松原遺跡などが存在しており（第II章第4節）、各遺跡との関係も集落の成立に影響を及ぼした可能性がある。これに対して栗林式前半期はA地区で土坑群が発見されるものの、居住域が確認されておらず、実態を明ら

かにすることはできない。

つぎに集落の廃絶について見ると、D地区における多数の焼失住居が注目される。いずれも遺物の出土状況から見て、偶然的な火事とは考えにくい。何らかの理由で火を入れた可能性がある。類似例は松原遺跡にも存在しており、今後更に性格が明らかにされてゆくだろう。

2 弥生時代後期～古墳時代前期 (第206図)

弥生時代中期以後、集落は一時断絶する。しかし弥生時代後期になると再び集落が登場し、以後古墳時代前期まで継続する。該期の住居址として128軒を認定しているが、切り合いと混入の激しさから、明確な時期を特定できた遺構は少ない。そのため、北部編年で提示されている段階を大きく3期に分け(第III章第3節1、第V章第2節)、各期に大方取まる住居址78軒を抽出して、調査区内でのおおまかな分布変遷を把握した。各期は3段階程度には細分されるべき時間幅を有しており、各期毎の住居址が何時存在したことを示す訳ではない。また、該期には周溝墓や土坑墓が多く検出されており、住居址の変遷と合わせて紹介したい。

I期(北部編年0段階以前～2段階) 住居址はA地区1軒、B地区4軒、C地区22軒、D地区8軒、F地区1軒、G地区4軒、H地区2軒の42軒を抽出した。墓址はA地区12基、F地区11基を抽出した。

I期は集城と居住域で構成される単位が調査区内の南北に存在する。南部はA地区(墓城)とB・C・D地区(居住域)である。北部はF地区(墓城)とG・H地区(居住域)である。

まず南部ではA地区の南端に円形周溝墓(SD63)が存在する。主体部は確認できないものの、周溝内から土器や管玉が出土している。この周溝墓より北に約60m程離れて土坑(SK5340、5341、5343、5490など)が存在する。覆土からは大小の壺のセットや小型壺などが出土しており、土坑墓群の可能性が高い。又、周囲にも円形周溝墓らしき遺構も幾つか存在しており、A地区では円形周溝墓群と土坑墓群をまとめて一つの墓域を形成したと思われる。この墓域から更に北に約60m程離れてB・C・D地区の住居址34軒が存在する。特にC地区には住居址が22軒と集中し、井戸址(SK16712)も見られるなど、該期における集落の中心部の一つと推測される。

つぎに北部を見たい。まずF地区に溝址や土坑(SD169、185、190、SK4421)が存在する。いずれも壺類の出土が目立ち、周溝墓の一部か土坑墓の可能性が考えられる。また、SD173(円形周溝墓)やSK3783(人骨と共にガラス玉出土)が存在し、SD173の西側でも人面土器の破片が3点出土するなど、周囲には未確認の周溝墓、墓坑が一定量存在したと推測され、北部の墓域を形成していたと思われる。この墓域から北に約40m程離れたG・H地区では6軒の住居址が存在する。これら住居址の北東端では、南北方向の溝であるSD551が存在し、溝内より土器が約100点出土した。G・H地区ではI期を過ぎると住居址軒数が減るが、本溝における土器集中もこの集落の動きと何らかの関係があるかもしれない。

また、H地区北端には自然流路と思われるSG2が存在しており、該期の遺物も若干出土している。H地区は住居址の数も少数であり、このSG2が村の北端の可能性が高い。

上記のとおり、I期においては居住域と墓域の単位が南北に確認できた。この2地区の間は約190m程離れており、SG3とE地区が存在する。SG3は当時自然流路であり南北の集川の境界の役割を果たしたと推測される。E地区は該期の遺構は抽出されておらず、空白地帯となっている。

II期(北部編年3～4段階) 住居址はB地区1軒、C地区9軒、D地区9軒、E地区1軒、G地区1軒、H地区2軒の23軒を抽出した。南北の居住域は存在するものの、住居軒数は減少傾向にある。

まず南部を見ると、A地区では集城の可能性のある遺構群は抽出できない。B・C・D地区は住居址19軒と減少するものの、C・D地区は依然南部の中心地として存在する。特にC地区では炭化米が約63kg出

土したSK16700が発見された。D地区においては、SB1441で北陸系の裝飾器台片などと共に入骨（壮年以上の男性、ほぼ全身）が出し、SB1447では人骨が3体出土した（1号は成人男性、2号は女生、3号は性別不明の成人?と推定）。特に2号人骨の首部分で勾玉、薬玉、管玉、ガラス玉など9点、3号人骨からも管玉2点が出上するなど、弥生時代後期～古墳時代前期の中で最も副葬品が出土した墓址となった。

つぎに北部を見ると、F地区では墓の可能性のある遺構はほとんど抽出できない。SX513も墓域に存在するが性格不明である。特に住居址はF・G・H地区合わせて4軒と減少する。

II期は住居址、墓域共に抽出軒数が減少している。特に墓域は南北とも明確な遺構は見えていない。この理由が墓域の減少を表すのか、調査区外に移動したのかは判断としない。

III期（北部編年5～7段階）住居址はC地区8軒、E地区4軒、H地区1軒を抽出した。

南部の居住域はC地区のみとなる。北部の居住域ではII期以降E地区に住居址が増加する。付近は次の古墳時代中期以降に住居址が増加するのだが、III期のSB478における土器様相は古墳時代中期の様相とは時間差が存在しており、本地区の住居址群が連続して中期以降に続いたとは想定していない。またH地区では住居址は1軒のみとなる。墓域については南部のA地区で方形周溝墓がI基確認された（SD62）。

以上弥生時代I～III期における住居址と墓域の分布を時期別に紹介した。

弥生時代後期の集落の成立については、本遺跡の立地が水田耕作に適した場所であった点があげられる。後期には調査区内にSG2・3が存在しており、集落を展開するに際し、水辺の微高地を選択した可能性がある。また、該期の住居址の軸方向がSG2・3の方向に近似した北東方向か、ほぼ直行する北西方向を向く傾向があり、自然流路が集落成立時に一定の役割を果たした可能性が推測される。

集落の規模は、I期が最も大きく、調査区内に大きく2つの単位が成立するものの、何れもII期以降に次第に減少していく様子が把握できそうである。

墓域についてはI期に円形周溝墓と土坑墓、II期に住居址を利用した墓、III期は方形周溝墓が確認された。しかしこれが時期変遷を示す傾向なのか、調査区内における偶然的傾向なのかは判断できない。特にII期のSB1447における豊富な玉類を所有した被葬者の墓は住居址であり、突出した墳墓が見られない状況が、この集落の性格を示している可能性がある。

この他の遺構については、1辺が3m以下の小型住居址が幾つか確認されているもの（SB81、830、1090、1091他）、残存状況が悪く、時期別変遷や通常の大サイズの住居址との関係は把握できなかった。

遺物については、北陸系土器の存在が注目される。これらは住居址内で集中的に出土する傾向は見られず、散発的に少量確認されるのみである。その他、時期不明で、銅鏃がC地区（SF6）とD地区（IVN-16グリッド）で出土した。

3 古墳時代中期～後期（第207・208図）

古墳時代中期～後期の遺構については521軒の住居址（SB）を認定し、その中で時期が明確に判明した261軒を用いて分布傾向を調べた。しかし該期の溝址・土坑・掘立柱建物については一部を除いて実態を把握することが困難な状況にある。

また、住居址については時期による規模の格差が存在し（第IV章第2節2）、出土遺物についても、特に須恵器（第V章第1節4）と玉類（第V章第2節2）は若干分布傾向が見られるので、共に紹介したい。ただし住居址内で該期の遺物と明らかに時期差が見られる場合は除外した。

I期 弥生時代後期～古墳時代前期まで続いた集落は一旦途絶えるものの、古墳I期に入り、再び住居址が増加し始める。I期は9軒の住居址を抽出した。この中でI期古相に属する住居址はC地区のSB1608と1627である。I期新相になるとC地区でSB83と91、D地区でSB361と310、E地区でSB355と828、

G地区でSB1246が見られ、特定の場所に集中せず分布する。A・B・F・H地区では住居址は確認されない。

この他、SB91でが、SB83でカマドが確認されている。しかし、他の住居では遺構の残存状況が悪く、確認することができない。

床面積については、大型住居址であるA類がD地区（SB361）に存在する。またE地区には、半分の検出ながらA類相当のSB828が存在する。このD・E地区の境にはSG3が存在しており、II期以降、周辺において住居軒数が増加するなど、該期の集落が展開する際の中心部となる。ここにI期新相の段階から大型住居址が見られることは、集落の成立時期を推測する上で重要と思われる。

II期 住居址は爆発的に増加し、68軒を抽出した。時期的には5世紀中葉～後葉を日安とする。まず住居址全体の分布傾向を見ると、C地区9軒、D地区17軒、E地区24軒、F地区12軒、G地区6軒となり、SG3周辺のD地区とE地区に住居址が集中する傾向がある。A・B・II地区では住居址は抽出されていない。II期になると確認できた住居址の8割以上にカマドが確認され、炉を持つ住居址はほとんど見られない（第IV章第2節3）。

床面積については、大型住居のA・B類に若干分布傾向がある。A類はD地区に1軒（SB284）とA類相当の1軒（SB808）、E地区に3軒（SB354、380、383）、G地区に1軒（SB1093）見られ、B類はC地区に1軒（SB118）、D地区で1軒（SB316）、E地区で1軒（SB167）G地区にB類相当の1軒（SB1203）が存在する。これら大型住居は、各地区に分散して確認されるものの、D・E地区は軒数が目立つ。一方床面積C・D類は何れの地区にも分布する。

遺物分布についても若干傾向が見られる。まず須恵器が出土した住居址は、D地区3軒（SB281、806、1404）、E地区2軒（SB322、354）、G地区1軒（SB1093）となり、D・E地区での出土が目立つ。玉類についてはC地区2軒（SB108、1644）、D地区2軒（SB806、1427）、E地区6軒（SB322、383、477、813、818、825）で出土した。特にSB825では白玉が約151点、SB477では白玉と須恵器の模倣赤土類が出土した。また時期不明を含めると、D・E地区に勾玉と管玉の出土が多い点が注目される（第V章第2節2）。

一方D・E地区に挟まれたSG3では、I～II期を中心とした土器と木製品が大量に出土している。ここではII期を中心とした土器集中区が確認され、大型の壺類がまとまって出土するなど、何らかの祭祀行為が行われた可能性がある。他にも初期須恵器・玉類・銅釧・鹿角切断品なども少なからず存在する。木製品の中では、鉄刃の装着部を有する耕作具が一定量見られ、武器・馬具や紡織具・篋具そして建築部材なども出土した。また木製品の中には未製品や木屑が存在する点から、周辺に木器の製作集団が存在した可能性も推測される（第III章第4節6）。

上記の様々な分布傾向からは、1期新相以降にD・E地区で大型住居が作られる時期はSG3で大量の遺物出土する時期と一致し、同時期に周辺一帯で特殊品が集中的に出土する様相が見えてくる。

これら住居址の主軸方向については前時代同様に、北東と北西を向く傾向があり、SG2・3の流路方向が該期の住居址にも影響を与えた可能性がある（第IV章第2節4）。以後、主軸方向の傾向はV期まで共通して存在する。

また、SD85、413、SG1などからも若干の遺物が出土しており、以後V期まで存在していたと推測される。

III期 34軒を抽出した。C地区2軒、D地区2軒、E地区11軒、F地区11軒、G地区8軒である。

A・B・H地区では住居址は確認できない。III期以降はほとんどの住居址でカマドが存在する。

住居址の分布傾向を見ると、II期に見られたSG3周辺における集中範囲が消滅する。D地区ではSG3よりやや南に移動したC・D地区の境に数件確認されるのみとなる。E地区はSG3からやや北に集中

範囲がある。F・G地区はII期から継続して住居址が存在するものの、分散傾向にある。

床面積については、II期に存在した大型住居址は、F地区で推定B類が1軒（SB635）存在するのみで、C・D類主体となる。

出土遺物については、勾玉がC地区1軒（SB1611）、須恵器はE地区2軒（SB172、327）、F地区2軒（SB625、702）で出土した。

IV期 44軒を抽出した。B地区10軒、C地区6軒、D地区5軒、E地区6軒、F地区14軒、G地区2軒、H地区1軒である。本時期よりB地区とH地区にも住居址が確認される。住居址の分布傾向を見ると、B地区、そしてC・D地区の境に集中傾向が見られるものの、E・F・G地区は分散する印象がある。

この他、B・C地区の境にあるSG4においては大量の土器が出土し、須恵器も少なからず見られる。性格は不明であるが、B地区に居住域が広がる動きと関連性があると思われる。

床面積についてはC・D類の差も消えて、25～30㎡の住居址が最も多い。

出土遺物については管玉がC地区（SB69）・D地区（SB127）で出土している。須恵器はB地区2軒（SB46、50）、C地区3軒（SB69、74、84）、D地区1軒（SB141）、E地区1軒（SB375）F地区3軒（SB501、578、742）と各地区に分散する傾向がある。

V期 106軒を抽出した。I～V期を通して最も住居軒数が増加する時期である。

B地区1軒、C地区5軒、D区9軒、E地区20軒、F地区36軒、G地区19軒、H地区16軒である。住居址の分布傾向を見ると、B地区は住居址の減少傾向が目立つ。この地区は従来から住居址が少ない場所であり、流路が付近に存在するなど不安定な場所であったと推測される。この他、C・D地区は住居址があまり集中せず、E・F地区は両地区の境に集中する傾向がある。またG・II地区はそれぞれの中でまとまりが存在する。特にH地区はIV期以降住居址が増加したようである。

床面積についてはIV期より更に縮小し、15～20㎡の住居址が最も多い。

出土遺物については玉類がD～G地区の13軒で出土した。須恵器は宝珠つまみと返りの付いた蓋や無台の坏などが見られ、C地区1軒、D地区2軒、E地区6軒、F地区8軒、G地区1軒、H地区2軒で出土した。玉類・須恵器とも特定地区に集中せずに分散する傾向が見られる。

この他特記事項として、F地区SB645では羽口が2本、カマドの手前の土坑から出土した。本址は床面積86㎡と該期の住居址の平均床面積を遙かに超えている。またG地区SB1219とH地区SB1262において人骨が出土しており、家屋墓の可能性が考えられる。

覆田遺跡では該期の住居址が最も多く存在するものの、V期を過ぎると調査区内では住居址が見られなくなる。しかしV期占相から新相にかけて住居址が減少する様相は確認できず、V期新相直後に急激に住居址が消える印象がある。

この他古墳I～V期に収まるものの、明確に時期比定ができない遺構や遺物が幾つかあげられる。遺構では、E地区SK2936（古墳III～V期）内から鹿の頭蓋骨が出土した。獸骨は住居址や土坑でも多く見られたが、時期が確定し、遺構の記録が残る例は非常に限られ、傾向をつかむことはできない。

玉類については上記で紹介した管玉・勾玉の分布以外は時期的な傾向はつかめない。特に白玉類はミニチュア土器と共に現状では特定の分布傾向は見られない。紡錘車も同様である。左記の製品については住居址における祭祀面からも追求する必要がある（第V章2節2・3）。耳環については（第V章第6節1）、A地区SD65で2点、II地区SD511では女性の可能性がある人骨と共に2点が出土した。この他、調査区内で5点出土するものの、いずれも明確な時期は不明である。鉄製品・鍛冶関係では（第V章第6節2）、E地区SG3で高坪A類の脚部を転用した羽口、F地区SB1103で袋状鉄斧、などが出土している。また、C地区SB78で方形動・鍛先が出土し、形状から弥生時代後期～古墳時代II期に属すると推測される。

以上古墳時代Ⅰ～Ⅴ期における住居址の分布を時期別に紹介した。

該期ではⅠ期に住居址が少数登場した後、Ⅱ期に入り急激に軒数が増加する。その中心はD・E地区であり、両地区には床面積A・B類の大型住居址も集中し、須恵器や玉類の出土も目立つなど、村の中核地として位置づけられる。一方C・F・G地区においても大型住居址が分散しており、集落の展開時にグループごとに住居址群が作られた可能性がある。Ⅱ期は住居址に一齐にカマドが登場する点も重要である。

これら集落の急激な展開の背景には、SG3に見られる特殊品を所有できた地元の有力者層が介在したと考えられる。また特殊品を生産・所有し、地元の有業者層に分配できる上位の有業者層との特別な関係も推測可能である。特に鉄刃を有する農具は、Ⅱ期における居住域や生産域の開発に威力を発揮したと推測される。農具を含め、木製品からみた榎田遺跡の意義は、別項において指摘されている(第Ⅴ章第3節)。

榎田遺跡は千曲川旧河道の中州状の微高地上にあり、後背窪地も近接するなど農耕に適した場所である。また流路としてSG2やSG3も存在した。古墳Ⅱ期中心の開発は上記の条件を有する地域だからこそ進められたと推測できる。その際、新技術として導入されたのは、鉄刃を有する農耕具、カマドを有する住居址、そして坏と鉢・長胴甕と甔を使う新しい食文化や須恵器などである。

一方、該期の有力者像については推測が難しい。この問題を探る上で最も重要なのは古墳の存在である。本遺跡における開拓期に比較的重なるのは、北に約3～5km離れた須坂市の榎石塚古墳群(第Ⅱ章第4節)である。しかし近隣の集落との関係は不明である。現状では古墳Ⅱ期における当地の有力者像とその開拓範囲、居館などの位置については明らかにできない。今後の資料の増加を待ちたい。

つづいてⅢ期以降の集落の動向を見ると、大型住居址のA・B類が見られなくなり、床面積C・Dの住居址のみとなる。またⅣ期になるとC・D類の区別もなくなり、以後は床面積の縮小化の方向が見られる。居住区域もSG3周辺から離れ、D・E地区の特殊性は次第に薄れる。Ⅲ期以降は住居址と居住区域についての格差の縮小(均一化)の方向性が推測される。

同様の傾向は特殊遺物にも見られる。須恵器・玉類は、Ⅱ～Ⅲ期に特定地区への集中(所有の格差)がみられるものの、Ⅳ期以降は出土地区の分散(均一化)の方向性が存在する可能性がある。この点は土師器の器種組成において、須恵器の模倣品がⅡ～Ⅲ期に一定量見られるものの、Ⅳ期になるとほぼ消滅する事からも推測できる(第Ⅴ章第1節3・4)。

上記動向については、地元有力者と村との関係が、地域および集落内での社会構成だけでなく、全国的な政治動向とのかかわりも含めて、Ⅲ期以降変化したことを推測させる。

最後にⅤ期以降の集落の動向について若干触れたい。榎田遺跡ではⅤ期直後に住居址がほとんど確認できない時期が存在する(7世紀第4四半期～8世紀第1四半期を目安)。土器様式的には、須恵器環類が食器の主体となる様式の完成直前と推測される。

現状では榎田遺跡の人々が近接地区に移動したのか、遠方に移動したのかは推測できない。但し松本平では8世紀に入り、古墳時代に未開発地域であった地点に新たに集落が展開する傾向も見られ(原1996)、本遺跡における集落の消滅の時期と一致するのは興味深い。今後、周辺における該期の集落域や生産域の調査が増加し、集落の移動と消長の傾向が判明するのを待って検討を行いたい。

参考文献

原 明秀 1996 「伊藤における奈良・平安時代の集落展開」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』7

4 奈良時代～平安時代 (第208図)

榎田遺跡では奈良時代前葉に遺構・遺物がほとんど確認できない期間が存在する。しかし、奈良時代中葉以降に再び遺構が散見されるようになる。

I～II期(8世紀第2四半期～9世紀第2四半期を中心)は南部のA地区で溝址1条(SD79)、B地区で住居址1軒(SB49)、北部のF地区で住居址6軒(SB11、511、687住)が確認された。しかし上記以外に明確な遺構が存在せず、遺物についても目立つ物は少ない。

III期(9世紀第3～4四半期を中心)になると、前時期と比べて遺構数が増加し、南部と北部の性格に差異が表れる。まず南部のA地区では住居址1軒と溝址2条(SD47、79)そして焼土址2基(SF2、12)、B地区では溝3条(SD33他)と焼土址1基(SF1)、C地区では溝1条(SD31)と住居址1軒(SB76)が発見された。一方北部のF地区では住居址が約20軒と木棺墓SK4100が発見された。

出土遺物は南部において特殊遺物が集中する傾向がある。まずA地区、SD47で緑釉陶器が13片と破片多数、墨書土器が約200片、埴輪容器、皇朝十二銭(渡笠神寶)が出土し、その周辺では丸柄も発見された。

特に墨書土器は「鼠」と書かれた物が大半を占め、筆跡にも幾つかのパターンが存在することが判明した(第V章第8節2)。この他SF2の覆土上部で帯金具の丸柄、SF12で緑釉陶器が発見されている。またB地区のSD33においても緑釉陶器と記録木簡(第V章第8節1)、C地区でもSD31周辺で墨書土器と皇朝十二銭(長年大寶)が出土するなど、官衙的性格まで含めて考慮する必要がある。一方、北部のF地区ではSB9で緑釉陶器片1、SB76で墨書土器が1片、SB512で鳥形須恵器片、SD189付近で円面硯が発見された程度で、特殊品は非常に少ない。

つぎに遺構の主軸方向について見ると、北部の住居址はI～III期を通じて主軸方向に統一性は見られない。これは弥生時代後期～古墳時代後期と若干異なる可能性がある。一方南部の溝址については、SD47は調査区内の自然流路であるSG2やSG3、SD22などとほぼ同軸である。SD33も下部には古墳時代前期の流路SD418が存在しており、SD31も周囲に古墳時代の同方向の溝(SD30、85)があるなど、該期以前より存在する流路方向に影響された可能性が存在する。

奈良時代～平安時代は、I～II期に北部のF地区に少数の住居址が見られるものの、III期になると増加傾向が見られる。同時に、南部のA～C地区では溝址が目立つようになる。遺物についても、北部F地区は土器類が中心であるのに対し、南部A～C地区では特殊品が多く見られ、地区間で遺構や遺物の性格に差異が見られることが判明した。

南部C地区と北部F地区は約200m程離れており、この間のD・E地区と遺跡北端のG・H地区では該期の遺構は確認されていない。

一方榎田遺跡を含む榎田遺跡群に目を向けると、近年、奈良時代～平安時代の集落が幾つか調査され始めており(第II章第4節)、住居址軒数で見ると高野遺跡で100軒以上、南条遺跡で数百軒、岩崎遺跡でも数軒確認されている。遺物についても、緑釉陶器や帯金具が高野遺跡で出土し、墨書土器に関しては岩崎遺跡、南条遺跡、榎田遺跡で異なる文字が見られるなど、興味深い点がある。

5 中世(第208図)

中世の遺構はA・F・Gの3地区で検出された(第III章7節)。

A地区では長軸約13m×短軸約8mの範囲内で土坑群が検出され、孤立柱遺物が存在したと考えられる。長軸方向はN12Eを測る。

F地区では区画溝と推定されるL字形の溝SD1(長軸はN7E)が調査され、その内側ではST51や、

掘立柱建物址を想定できそうな土坑群が幾つか発見されている。このSD1が成立する以前にはSD14・15が存在しており、同地区で遺構の変遷が3回確認される。また周辺ではSK3797など土坑墓群も存在する。この他SD1周辺では鉄滓が若干出土している。鍛冶関連遺構は明確なものが存在せず、中世以前の所産の可能性もあるが、遺跡の中では本地区での出土例が多い(第V章第6節2)。

G地区では2棟の掘立柱建物址が確認された。特にST526は長軸約13m、短軸約7mの範囲内で、ほぼ長方形にまとまる土坑群が検出された。主軸はEWである。

上記A・F・Gの3地区間の距離はA～F間で約600m、F～G間で約60m程離れている。各地区の時期的関係について見ると、F地区で少量の土器片が出土しており、14～15世紀代を中心とする資料が多いもの(第V章第1節7)、A・G地区ではほとんど出土しないため、明確にはならない。またF地区内の遺構の変遷についても時間差を明確にすることはできない。

遺跡周辺では井上氏関連の遺跡・城址などが幾つか存在しており、本遺跡も何らかの関連が存在すると思われる。周辺では前山田遺跡(平成10年度報告書刊行予定)の整理作業が行われており、本遺跡を含めた中世の様相が明らかになりつつある。

小結

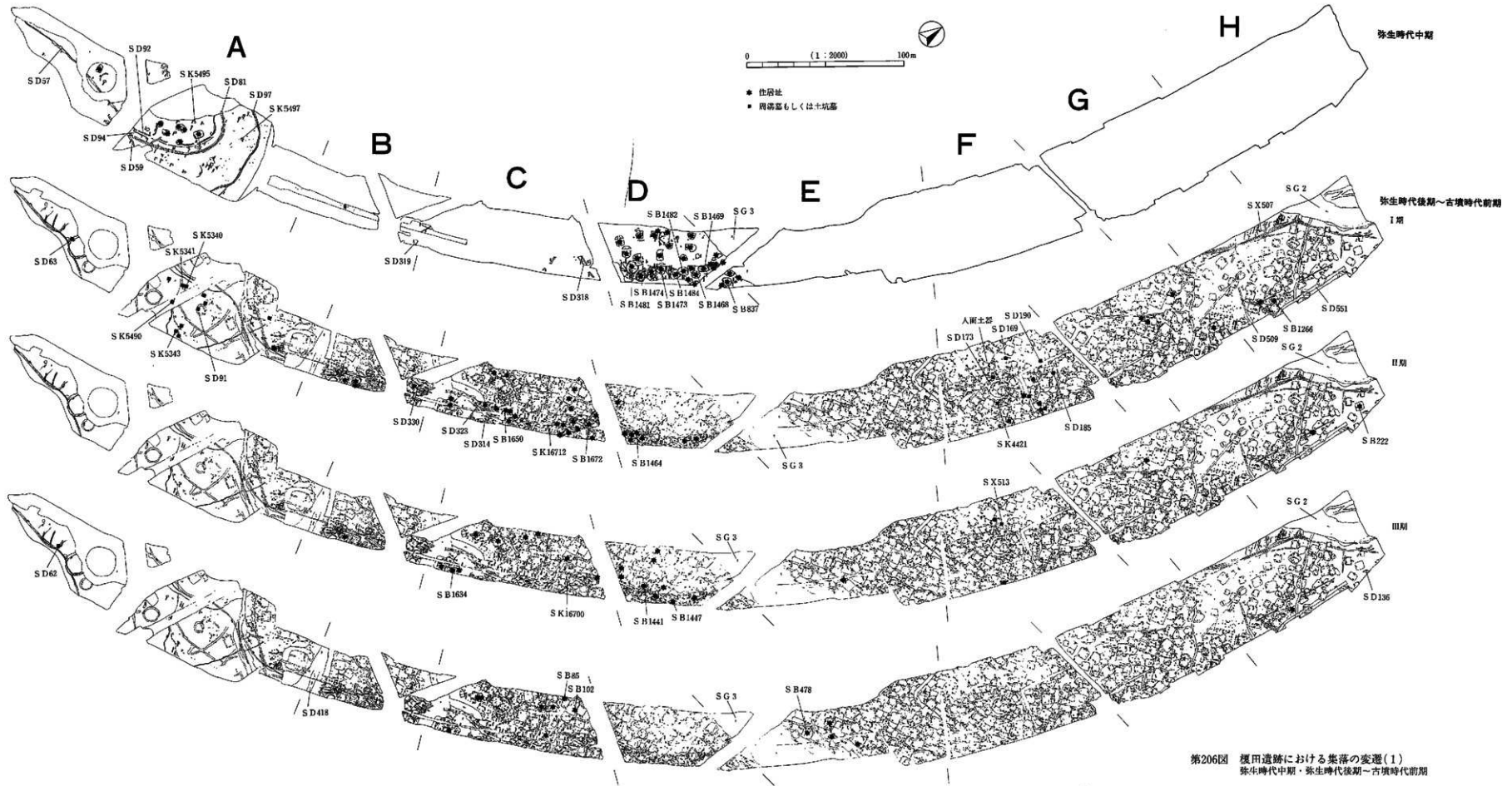
以上、覆田遺跡における集落の変遷を時期別に紹介した。変遷に関しての把握は、時期が明確な住居址を基にしており、その数は住居址全体の1/3程度である。また他の遺構を用いる事が困難な状況にあることは何度も触れたとおりである。各種の遺構・遺物の特徴についても、統計的に見た傾向であり、極めて限られた情報に過ぎないことを了解されたい。

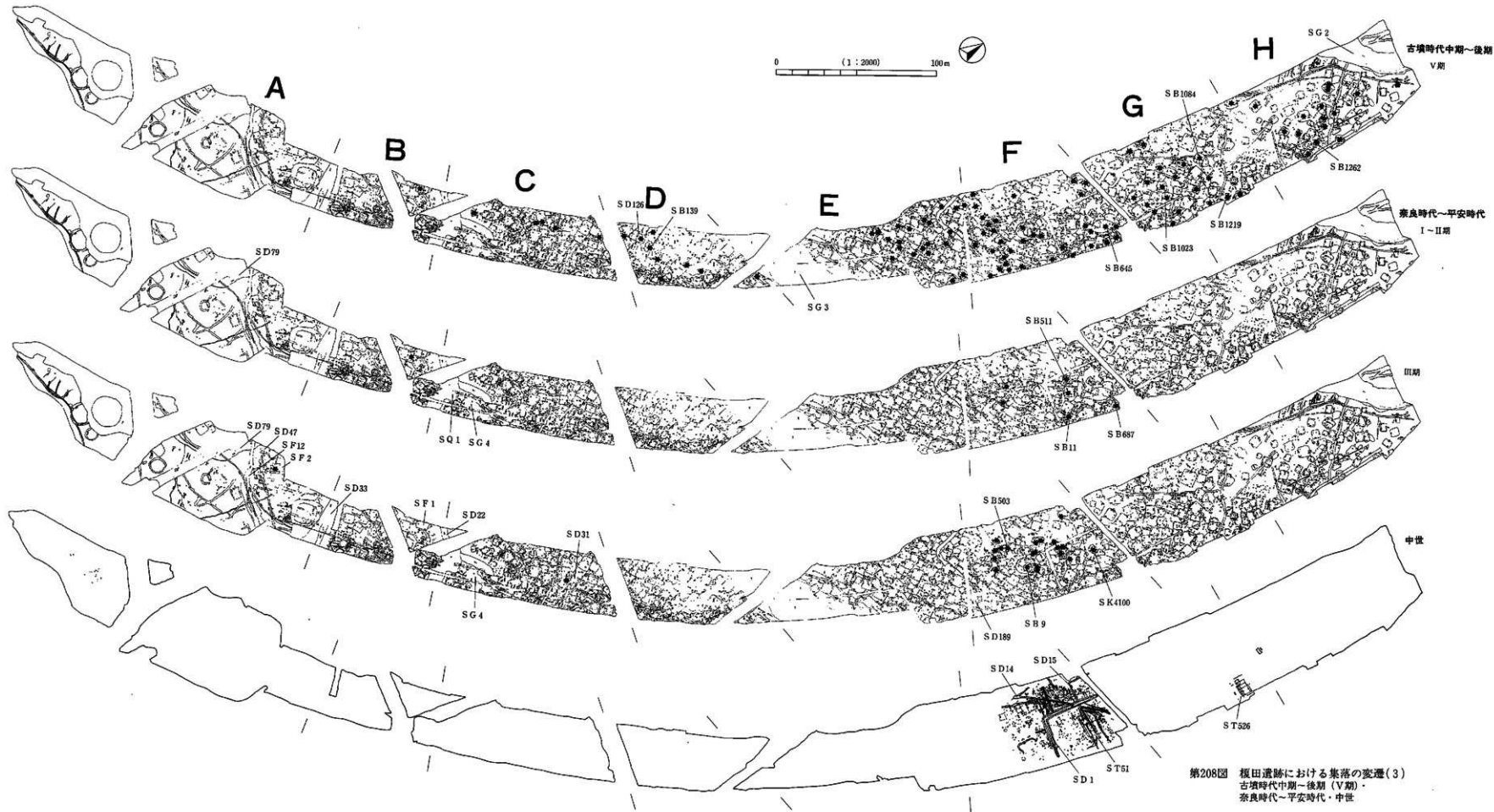
覆田遺跡は千曲川旧河道の中州と推定される微高地と周辺の後背湿地を利用した集落であり、極めて安定した土地というわけではない。しかし弥生時代においては上記の条件だからこそ、近接地を耕作して集落が展開した可能性がある。また弥生時代中期の集落については、石器の素材が入手可能な地域ということも立地条件に含まれたとも推測できる。

一方古墳時代中期以降は、なぜ長期間同じ場所に住み続け、居住域を拡大したかが問題となる。これについては、立地条件や生産性以外にも、何らかの規制が存在した可能性が考えられる。特に古墳Ⅱ期中心の住居址床面積の差異と須恵器や玉類に見られる所有の差異の可能性も含めて、有力者層による集落形成および集落構成に対する規制については今後検討する必要がある。

奈良時代～平安時代は、本遺跡の南部地区における特殊品の出土量が注目される。しかし、遺跡の性格について論及することは、今後の周辺遺跡の調査成果を待つ必要があろう。

この他、竪穴住居址と掘立柱建物址との関連、集落内での祭祀、周囲の古墳との関連等、本項で触れられなかった多くの問題が存在する。これらに関しては筆者の力量不足でほとんど追求することが出来なかった。





第208図 板田遺跡における集落の変遷(3)
古墳時代中期～後期(V期)・
奈良時代～平安時代・中世

附表 弥生時代後期以降遺構観察表

遺構名	プラン	地区名	時代	時期	山名方面	規模	埋蔵物	発掘者	発掘年	調査者	位置	発見品	分類	備考	頁数
S B75	IV A15	②-2 C	古墳中期-後期	V	N25E	5.0 × 3.55	10.65	337.58	C	3	北海道中央			1, 12	113
S B76	IV B11	②-1 C	奈良-平安	III	N64W	3.65 × 3.0	11.55	337.5							20
S B77	IV F 6	②-1 B	時期不明												22
S B78	IV A16	②-2 C	時期不明			(4.20) × (3.90)		337.66						9	21
S B79	IV F 2	②-2 C	古墳中期-後期	IV	N50E	5.95 × 5.55	33.02	337.45	B		道東			13	29
S B80	IV F 3	②-2 C	時期不明		N60E	5.25 × 5.20	(27.3)	337.5							29
S B81	IV W1	②-2 C	弥生後期-古墳前	6前	NS	2.95 × 2.95	8.7	337.29	A					2, 4, 12	54
S B82	IV B 2	②-2 C	弥生後期-古墳前	6	N45W	4.95 × 4.50	24.5	337.41	A	1, 3	中央			4	21
S B83	IV W 11	②-2 C	古墳中期-後期	1	N35E	5.40 × (5.80)	31.32	337.46	A	2	道東中央			1	114
S B84	IV V 9	②-2 C	古墳中期-後期	IV		(6.60) × (3.40)		337.4						1	20
S B85	IV F 14	②-2 C	弥生後期-古墳前	6	N45W	5.70 × 5.55	31.94	337.2	A	1, 3	中央北部			3	55
S B86	IV V 13	②-2 C	弥生後期-古墳前	7		4.70 × (2.80)	(13.16)	337.13							30
S B87	IV W 1	②-2 C	古墳中期-後期	II	N38E	5.15 × (4.80)	(24.72)	337.46							30
S B88	IV B 2	②-2 C	古墳中期-後期		N60E	4.90 × (3.4)	(14.7)	337.5		7	道東			1	21
S B89	IV B 2	②-2 C	古墳中期-後期	II		5.20 × (3.50)	(18.2)	337.47							31
S B90	IV A19	②-2 C	古墳中期-後期	1	N50E	4.99 × 4.55	29.33	337.58	A	1, 3	中央西部	S B92		31	
S B95	IV B 7	②-2 C	時期不明			6.90 × 5.90	(40.71)	337.45							21
S B96	IV B 8	②-2 C	時期不明			4.75 × (3.20)	(18.2)	337.46							21
S B97	IV F 23	②-2 C	古墳中期-後期	V	N32W	1.300 × 1.70		337.44	B	3	道西中央				21
S B98	IV F 25	②-2 C	古墳中期-後期	V	N43W	5.60 × 4.45	24.92	337.46	B	3	C 道東中央			3	21
S B100	IV V 4	②-2 C	古墳中期-後期	V	N50E	4.75 × 5.05	23.99	337.42	A	2	C 道東中央				21
S B101	IV F 4	②-2 C	弥生後期-古墳前	4, 7		(3.10) × (2.15)		337				S B1676		12	20
S B102	IV F 6	②-2 C	弥生後期-古墳前	6, 7		6.05 × (4.10)	(20.7)	337.3						1	38
S B 103	IV N22	②-3	時期不明		N47E	(3.25) × 3.95	(12.84)	337.75			道東中央				23
S B 104	IV N17	②-3	奈良-平安	III	N52W	5.85 × 5.60	32.48	337.75	A						23
S B105	IV M20	②-3	時期不明			5.55 × (4.10)	(22.80)	337.62							23
S B107	IV V 5	②-2 C	弥生後期-古墳前	C	N55W	8.65 × 6.70	57.02	337.15	B	1, 3	中央北部				20
S B108	IV F 7	②-2 C	古墳中期-後期	II	N52E	4.65 × 3.30	17.94	336.95	B					2, 4	30
S B109	IV R 7	②-3	時期不明		NSW	(2.3) × 4.35	(16.0)	337.62							23
S B110	IV N11	②-3	時期不明			5.85 × (4.90)	(26.95)	337.74			道西				23
S B111	IV N21	②-3	時期不明		N18E	3.95 × 3.80	15.21	337.67							23
S B112	IV R 4	②-3	時期不明		NSW	6.75 × 6.15	(41.21)	337.52							23
S B114	IV N21	②-3	時期不明		N38E	4.05 × 3.75	(14.99)	337.48	A						23
S B115	IV F 20	②-2 C	古墳中期-後期	II	N35E	3.85 × 4.15	16.77	337.46	A	3	道東中央				21
S B118	IV V 14	②-2 C	時期不明		N42E	4.85 × 4.45	23.44	337.5			道東中心				21
S B117	IV F 24	②-2 C	古墳中期-後期			4.95 × (3.20)	(15.84)	337.35							21
S B118	IV F 24	②-2 C	古墳中期-後期	II	N38E	7.10 × 6.95	49.35	337.33	A	3	道東中央			11, 12	114
S B119	IV F 18	②-2 C	古墳中期-後期	V	N37W	6.30 × 5.55	(34.41)	337.51	B	7	道西中央			2, 12	31
S B120	IV F 14	②-2 C	時期不明			4.0 × (0.80)	(3.2)	337.4							21
S B121	IV F 6	②-2 C	弥生後期-古墳前	6前		6.35 × (6.85)	(38.42)	337.12			中央西部				30
S B122	IV B 7	②-2 C	弥生後期-古墳前	6	N15W	5.85 × 5.0	29.6	337.3	B	1	中央	S B189		17	56
S B123	IV B 6	②-2 C	弥生後期-古墳前	6	N30W	5.85 × 3.85	14.82	337.3	A	2	中央北部			4	21
S B124	IV B 1	②-2 C	弥生後期-古墳前	4	N12W	4.40 × 3.25	14.3	337.77	B	2	道西				56
S B125	IV B11	②-2 C	弥生後期-古墳前	6		(4.85) × (3.70)		337.33							21
S B126	IV R13	②-3 A	古墳中期-後期	V	N45W	5.25 × 5.50	28.6	337.36	A	3	道西中央			1, 4, 12	22
S B127	IV R13	②-3 A	古墳中期-後期	IV	N44W	5.60 × (5.60)	(31.36)	337.3	A					4, 12	20
S B128	IV R15	②-3 A	古墳中期-後期	IV	N38W	(6.15) × 6.00	(30.5)	337.4			道西中心				20
S B129	IV A15	②-2 A	古墳中期-後期	V	N27W	4.25 × 4.85	(17.01)	337.44	A	D	道西中心			8, 12	30
S B131	IV M4	②-3 A	時期不明			4.35 × (2.85)	(15.36)	337.44							30
S B130	IV R 10	②-3 A	古墳中期-後期	V-V	N16W	(4.65) × 6.05	(27.83)	337.5	A	3	D	道西中心		2, 8	26
S B135	IV M25	②-3 A	時期不明			6.55 × (4.50)	(29.43)	337.5							20
S B136	IV R 5	②-3 A	古墳中期-後期	C	N7W	5.95 × 5.85	31.36	337.57	A	3	道西中心	1			30
S B137	IV R18	②-3 A	古墳中期-後期	V	N62E	(4.85) × (3.35)		337.47			道東				30
S B138	IV M24	②-3 A	古墳中期-後期	II	N27W	6.85 × 6.15	(41.82)	337.34	B						30
S B139	IV R14	②-3 A	古墳中期-後期	V	N47W	5.75 × 5.60	32.2	337.4	A	3	道西中心			1, 2, 4, 12	20
S B140	IV R15	②-3 A	古墳中期-後期	V	N47W	4.45 × 4.45	19.8	337.34			道西中心			6	20
S B141	IV R20	②-3 A	古墳中期-後期	IV	N26W	8.40 × (7.80)	(66.36)	337.3			道西中心			1, 12	20
S B142	IV R18	②-3 A	古墳中期-後期			(5.90) × (2.25)		337.44							20
S B143	IV R19	②-3 A	古墳中期-後期	IC		(5.15) × (4.30)									30
S B144	IV R19	②-3 A	時期不明			(5.25) × (4.80)		337.4							30
S B145	IV R18	②-3 A	弥生後期-古墳前			(5.95) × (3.40)		337.48							30
S B146	IV S 6	②-3 A	古墳中期-後期	II	N45E	6.0 × 5.45	32.7	337.4	B		道東中央			2	30
S B147	IV R16	②-3 A	古墳中期-後期	IV	N16W	5.10 × 5.10	26.01	337.3	A	3					30
S B148	IV R 9	②-3 A	古墳中期-後期	II	N65E	6.70 × 6.65	(45.05)	337.48			道東中央				30
S B149	IV R13	②-3 A	時期不明		N64W	(4.65) × (4.40)		337.35							30

表題名	プロジェクト	地区名	時代	時期	建築方式	規模	原価概算	完成高	完成年	竣工	位置	設計者	台帳	備考	備考	
S B159	IV R 8	③-3A	古墳中継-後継	II-V	N2W	7.0 × 6.70	(46.9)	337.25	A	3					20	
S B161	IV R 9	③-3A	古墳中継		N2NE	6.6 × 5.80	34.8	337.4		3	北原中央				26	
S B162	IV R 8	③-3A	古墳中継-後継	V	N2NE	5.25 × 4.85	(25.46)	337.36	A						20	
S B163	IV R10	③-3A	時期不明			5.01 × (4.70)		337.32							29	
S B164	IV S 5	③-3A	古墳中継-後継	II	N2W	10.30 × 7.30	(45.99)	337.33			北平中央				30	
S B165	IV S 7	③-3A	古墳中継-後継	II		(4.90) × (4.20)		337.03							29	
S B166	IV V18	③-2C	古墳中継-後継	III	N2E	4.79 × (470)	(22.29)	337.4			北原	S B165, 251	4		20	
S B167	IV V19	③-2C	古墳中継-後継	IV	N2E	6.13 × 5.95	(36.3)	327.46	A	3	北原中平町		2, 12		115	
S B168	IV V20	③-2C	古墳中継-後継	II	N2E	2.70 × 2.80	7.96	327.27	A	3	北平中央				115	
S B169	IV U19	③-2C	古墳中継-後継	V	N2E	4.65 × 4.80	(22.39)	337.02	A		真中尖		1		116	
S B170	IV U21	③-2C	古墳中継-後継	II	N2W	7.10 × 6.70	47.57	336.9	A	3	E 北原中央				115	
S B171	IV U8	③-2C	古墳中継-後継	V	N17W	4.66 × 4.50	(20.25)	337.15					1, 3		18	
S B172	IV U14	③-2C	古墳中継-後継	V	N2E	4.86 × 4.80	23.04	337.31	A	3	北原中央				18	
S B173	IV A 1	③-2C	古墳中継-後継	III	N2W	5.0 × 4.80	24.0	336.5	A				1		18	
S B174	IV U15	③-2C	古墳中継-後継	N2W	5.60 × 5.25	29.4	337.05	A	3		北原中平山				117	
S B175	IV U12	③-2C	古墳中継-後継	III	N2W	6.75 × 6.25	39.44	337.12	A	3	E 北原中平町		1, 2, 3		116	
S B176	IV U16	③-2C	古墳中継-後継	N2E	4.25 × 4.56	19.13	337.2		3	C	真中央				18	
S B177	IV U17	③-2C	古墳中継-後継	N2E	3.35 × 3.40	12.07	337.19		3	D	真中央			6	18	
S B178	IV U21	③-2C	古墳中継-後継	V	N2E	6.50 × 6.80	37.7	336.98	A	3	C	北原中央			18	
S B179	IV U15	③-2C	古墳中継-後継	N2W	4.90 × 4.80	23.52	336.8				北平中央				18	
S B180	IV U13	③-2C	古墳中継-後継	III	N2W	10.30 × 7.35	(49.96)	337.04		2	北平中央	S B126			18	
S B181	IV U8	③-2C	古墳中継-後継	II	N2W	(4.95) × (4.30)	(25.86)	337.34							119	
S B182	IV U22	③-2C	古墳中継-後継	II	N3W	9.26 × 6.90	49.13	336.54	C	3	C	北原中平山			119	
S B183	IV V15	③-2C	古墳中継-後継	V	N2NE	5.65 × 5.25	31.36	336.83	A	3	C	北原中央			119	
S B184	IV A 1	③-2C	古墳中継-後継	II	N3W	3.00 × 3.20	11.52	336.65					1		120	
S B185	IV A 2	③-2C	古墳中継-後継	III	N2NE	5.10 × (4.90)	(28.91)	336.63		3		北原			120	
S B186	IV U22	③-2C	古墳中継-後継	N2E	4.90 × 4.45	(23.25)	336.66		3		北平中央		4		18	
S B187	IV A 2	③-2C	古墳中継-後継	V	N2E	(1.80) × (1.30)		336.72							18	
S B188	IV U15	③-2C	古墳中継-後継	V	N2E	4.95 × 5.0	24.75	336.25	A	3	E	北原中央	1		120	
S B189	IV U15	③-2C	古墳中継-後継	III	N17W	7.36 × (6.80)	(45.63)	337.06	A	7		北平中央		S B188, 415	18	
S B190	IV U16	③-2C	古墳中継-後継	II	N2E	6.30 × 6.20	39.69	336.76	A	3		北原中平山	S B177	12	18	
S B191	IV A 3	③-2C	時期不明			(3.85) × (3.75)		336.36							18	
S B192	IV U21	③-2C	時期不明		N2NE	5.90 × (4.55)	(26.65)	336.8			北原				18	
S B193	IV V19	③-2C	築込後継-古墳前	S-E	N4E	4.96 × 4.25	21.04	337.36		1	B	中央北町			21	
S B194	IV V20	③-2C	時期不明			3.75 × (1.66)	(6.18)	337.42							21	
S B195	IV V18	③-2C	築込後継-古墳前			(4.80) × (4.30)		337.42							21	
S B196	IV V23	③-2C	築込後継-古墳前	C-2	N2E	5.20 × 5.16	(25.52)	337.49	A						21	
S B197	IV U22	③-3B	古墳中継-後継	V	N4E	6.0 × 5.70	36.0	336.94	A	3	C	北原中央		1	121	
S B198	IV E 2	③-3B	古墳中継-後継	N2E	8.20 × 7.80	(65.94)	336.8				北原中央			1, 2, 3, 12	18	
S B199	IV E 3	③-3B	古墳中継-後継	N2W	4.26 × 4.08	16.4	336.83				北原				18	
S B200	IV E 7	③-3B	古墳中継-後継			4.26 × (3.00)	(14.45)	336.8					6		18	
S B201	IV E 3	③-3B	古墳中継-後継	N4E	5.55 × 4.50	(26.25)	336.86								18	
S B202	IV E 7	③-3B	古墳中継-後継	V	N3W	5.60 × 6.00	39.36	336.6	A	3	C	北原中央			121	
S B203	IV E 8	③-3B	古墳中継-後継	V	N1W	4.20 × 4.25	(17.83)	336.76	A	3		北平中央			18	
S B204	IV E12	③-3B	古墳中継-後継	II-V	N2E	(4.80) × (3.90)		336.64							18	
S B205	IV S 9	③-3B	古墳中継-後継	II	N4E	4.55 × 4.55	22.52	336.6	A					S B204	18	
S B206	IV R17	③-3B	古墳中継-後継	II	N1E	4.70 × 3.75	17.63	336.6	B	3	C	北原中央			18	
S B207	IV E15	③-3B	古墳中継-後継	II		6.30 × (4.30)	(27.09)	336.37							18	
S B208	IV E 28	③-3B	古墳中継-後継	II-III	N2E	5.83 × 5.90	34.52	336.04	A						18	
S B209	IV E 9	③-3B	古墳中継-後継	III-IV	N2E	4.45 × 4.55	(20.25)	336.7		3		真中央			18	
S B210	IV R14	③-3B	古墳中継-後継	IV	N1W	5.26 × 5.25	31.24	336.56	C	3	D	北平中央			18	
S B211	IV E16	③-3B	古墳中継-後継	III	N2W			336.62		3	C	北平		S B201	18	
S B212	IV E 9	③-3B	古墳中継-後継	V	N4E	4.26 × 4.0	18.3	336.73	A	3		北原中央		15	18	
S B213	IV R 4	③-3B	古墳中継-後継	V	N2E	5.45 × (5.0)	(25.25)	336.9	A	7					18	
S B214	IV E12	③-2C	古墳中継-後継	II	N2E	6.15 × 6.6	39.9	336.50	A					S B192	18	
S B215	IV V29	③-2C	時期不明			6.85 × (4.85)	(28.54)	337.42						S B194	12, 2, 3, 5, 11, 12	21
S B216	IV V18	③-2C	築込後継-古墳前	4 T		4.90 × (3.00)	(10.70)	337.32							21	
S B217	IV V18	③-2C	築込後継-古墳前			4.90 × (3.00)	(10.70)	337.32							21	
S B218	I L 4	③-5	古墳中継-後継	V	N2W	3.30 × 2.50	8.25	336.97	B	3	C	北原中央			18	
S B219	I L 1	③-5	時期不明			3.20 × (2.75)	(8.8)	337.64							18	
S B220	I L 5	③-5	古墳中継-後継	N2W	4.20 × 5.25	20.71	336.87		3		北原中央		4		15	
S B221	I L 5	③-5	時期不明			(4.00) × (3.0)		336.93							15	
S B222	I L 9	③-5	築込後継-古墳前	3	N1E	5.16 × 4.70	23.97	336.96	A						17	
S B223	III U11	③-3C	古墳中継-後継	IV	N2E	6.55 × 6.25	44.21	337.15	A	3	C	北原中央		2	18	
S B224	III Y15	③-3C	古墳中継-後継	II-III	N2E	5.10 × 5.20	(26.60)	337.1	A		C	北平中央			18	
S B225	III U13	③-3C	古墳中継-後継	II	N2E	7.20 × 6.50	(46.8)	336.89		3		北原中央			18	

品名	フリット	地区名	時代	時期	品名	規格	単位	価格	数量	合計	備考	備考			
S B203	IV 21	②-1-C	初期不明		N83W			337.44	3	北京		20			
S B307	IV 8 18	②-1-C	野生植物-心納骨			(8.25) × (2.80)		327.08				20			
S B308	IV 8 6	②-2-C	内装中期-後期					327.36				20			
S B309	IV 8 5	②-2-C	内装中期-中期	4	N88E	4.70 × 4.45	20.92	337.33	A	1	B	中央北東	20		
S B310	IV 14	②-2-C	古墳中期-後期	I	N85E	4.80 × 4.40	(21.12)	337.18					20		
S B311	IV 2 9	②-2-C	時期不明		N41E	5.15 × 4.80	24.96	337.4	A			4	20		
S B312	IV 8 25	②-3-C	野生植物-心納骨	3		(4.80) × (3.50)		337.68				S B301	20		
S B314	IV 5 6	②-3-C	古墳中期-後期					337.26		1	B		20		
S B315	IV 2 4	②-2-C	時期不明					337.4					20		
S B316	IV 5 6	②-3-A	内装中期-後期	II	N45E	7.10 × 6.50	46.15	337.05	A	1	B	中央北東	20		
S B317	IV 4 4	②-3-A	内装中期-後期		N62E	5.60 × 5.85	(32.76)	337.17				S B1428	20		
S B318	IV 4 4	②-3-A	野生植物-心納骨	3-4									20		
S B319	IV 4 4	②-3-A	野生植物-心納骨		N90E	4.40 × 4.15	(18.25)	337.24	A				20		
S B320	IV 4 9	②-3-A	野生植物-心納骨			4.50 × (4.40)	(19.50)	337.18					20		
S B321	IV 2 22	②-3-B	古墳中期-後期	II	N35E	5.20 × (4.07)	(20.8)	336.5		3	北東		20		
S B322	IV 21 1	②-3-B	古墳中期-後期	II	N34E	10.20 × (7.30)	(78.11)	336.48		6	北東		20		
S B323	IV 8 8	②-3-B	古墳中期-後期		N77E	7.70 × 5.45	(41.97)	336.5			1		20		
S B324	IV 8 8	②-3-B	時期不明			6.45 × (1.85)	(11.83)	336.72					18		
S B325	IV 8 4	②-3-B	古墳中期-後期	IV				336.72					18		
S B326	IV 8 9	②-3-B	古墳中期-後期	II	N78E	(3.80) × (2.40)		336.82		3	北東		18		
S B327	IV 12 3	②-3-B	古墳中期-後期	III	N82E	6.15 × 5.70	34.77	336.83	A	3	北東中央		18		
S B328	IV 12 3	②-3-B	時期不明			(7.07) × (4.40)		336.71					18		
S B329	IV 12 3	②-3-B	古墳中期-後期			(2.35) × (1.50)		336.67				S B206	18		
S B331	IV 19 10	②-3-C	古墳中期-後期	II	N58E	3.66 × 4.25	(15.51)	337.14		3	北東中央		18		
S B333	IV 23 2	②-3-C	内装中期-後期	IV	N66E	5.20 × 4.0	(20.8)	336.64				5	18		
S B335	IV 2 8	②-3-C	時期不明		N5			337.24		3	北		18		
S B336	IV 13 3	②-3-C	古墳中期-後期		N13W	5.20 × 4.90	(25.48)	336.9		3	C	北中央	18		
S B337	IV 15 1	②-3-C	時期不明		N21W	(2.15) × 6.15	(11.07)	337.13					18		
S B338	IV 5 8	②-3-C	内装中期-後期		N26W	3.10 × 3.25	10.08	337.1		3	C	北中央	18		
S B339	IV 14 1	②-3-C	古墳中期-後期	V	N56E	6.70 × 4.45	(29.52)	337.25	A	3	北東中央		18		
S B340	IV 20 9	②-3-C	古墳中期-後期	IV				336.85					18		
S B341	IV 24 1	②-3-C	古墳中期-後期	V	N45W	5.20 × 3.75	30.48	336.9	A	3	北東中央		18		
S B346	I 11 7	②-3-B	内装中期-後期	IV	N82E	5.20 × 5.20	27.04	337.1	A	4	北東中央	2	129		
S B348	I 11 13	②-3-B	時期不明		N5	2.80 × 2.60	(7.28)	337.29					15		
S B349	I 1 12	②-3-B	古墳中期-後期		N41E	3.10 × 3.10	9.61	336.94		3	C	北東中央	15		
S B350	I 1 8	②-3-B	内装中期-後期		N26E	3.65 × 4.70	17.16	337.09		3	3	北東中央	15		
S B354	IV 16 16	②-3-B	内装中期-後期	II	J49E	12.15 × 10.25	103.53	336.58	A	3	F	北東中央	127		
S B355	IV 22 1	②-3-B	古墳中期-後期			(5.43) × (3.80)		336.47				2.3	127		
S B361	IV 19 19	②-3-A	古墳中期-後期	I	N19W	8.10 × 4.0	44.8	337.1	A			S B1425	3.12	129	
S B371	IV 18 1	②-3-C	古墳中期-後期	IV-V	N66W	3.85 × 3.20	9.76	337.1	A	3	北東中央		18		
S B373	IV 14 1	②-3-C	古墳中期-後期		N87E	6.70 × 5.25	(35.04)	337.23				1	18		
S B374	IV 13 1	②-3-C	古墳中期-後期		N78W	(5.30) × (3.85)		336.84		3	北東		18		
S B375	IV 23 2	②-3-C	古墳中期-後期	IV	N24W	6.50 × 6.10	(39.65)	337	A	6	北東中央	2.4	18		
S B376	IV 12 1	②-3-C	内装中期-後期		N68E	(3.60) × (4.60)		337		3	C	北東	18		
S B377	IV 9 1	②-3-C	内装中期-後期	V	N58E	5.40 × (5.50)	(29.70)	337.2	A	4	北東中央	1.8	126		
S B378	IV 24 1	②-3-C	時期不明			(2.90) × (4.95)		336.96				S B334.413	18		
S B379	IV 12 1	②-3-C	古墳中期-後期	III		6.20 × (3.35)	(20.87)	337.1					18		
S B380	IV 1 1	②-3-B	内装中期-後期	II	N58E	8.20 × 4.10	72.09	336.47	B	3	F	北東中央	2.3	130	
S B381	IV 23 2	②-3-B	野生植物-心納骨	6	N62E	(4.90) × (2.80)		336.08					130		
S B383	IV 16 10	②-3-B	古墳中期-後期	II	N25W	9.25 × 8.55	77.38	336.4	A			1	S B387	1.2, 4	132
S B384	IV 2 7	②-3-B	野生植物-心納骨	6	N46E	6.25 × 5.75	35.51	336.34	A				19		
S B385	IV 17 17	②-3-B	時期不明			(3.50) × (1.30)		336.33					19		
S B386	IV 5 5	②-3-C	古墳中期-後期	III	N37E	(7.80) × (5.50)		337.3		3	北東		18		
S B389	IV 14 1	②-3-C	古墳中期-後期	III-IV	N24W	(4.40) × (4.0)		337.18		6			S B258	18	
S B390	IV 20 10	②-3-C	古墳中期-後期	V	N24W	3.50 × 3.50	11.66	337.3	C	3	北中央		18		
S B391	IV 4 4	②-3-C	内装中期-後期	V	N5	4.8 × 3.75	15.0	337.28	A	2	北中央	1.2	18		
S B392	IV 1 1	②-3-C	古墳中期-後期	IV-V	K13W	(2.80) × 5.20	(14.57)	337.3		3	北中央	1.2	18		
S B394	IV 15 1	②-3-C	古墳中期-後期		N68E	4.50 × 4.85	(21.83)	337.2		3	北東中央		18		
S B396	IV 24 1	②-3-C	内装中期-後期	V	N51E	5.20 × 5.10	(26.52)	337.26		6	C	北東中央	1	18	
S B398	IV 17 10	②-3-C	古墳中期-後期	IV	N29W	(3.50) × 5.48	(19.16)	337.26				北東中央	18		
S B399	IV 17 10	②-3-C	古墳中期-後期	IV		4.20 × (3.10)	(13.33)	337.26					18		
S B398	IV 17 10	②-3-C	時期不明										18		
S B399	IV 9 1	②-3-C	古墳中期-後期	IV	N44E	5.85 × 7.15	(41.83)	337.2		7	C	北東中央	S B1425	18	
S B400	IV 5 5	②-3-C	時期不明		N96E	4.50 × (4.80)	(21.6)	337.30				北東	16		
S B401	IV 5 5	②-3-C	古墳中期-後期		N62E	5.20 × 5.85	30.31	337.24		6	北		18		

附表 弥生時代後期以降遺構觀察表

遺構名	プラン	地区名	時代	時期	面積(㎡)	規模	床面積	埋藏深	位置	形状	方位	備考	図号	
S R402	IV 3	③-C	古墳中期-後期	II-V		4.30 × (4.20)	(18.40)	227.24					18	
S R435	III 6	③-C	時期不明				227.3					5	18	
S B491	II Y 5	③-C	古墳中期-後期	IV-V	N33W	4.35 × (4.0)	(17.4)	227.2		3	C	東西	18	
S B495	II Y 14	③-C	古墳中期-後期		N50E	3.0 × (1.60)		227.21					18	
S R406	II T23	③-C	古墳中期-後期			4.0 × (2.50)	(10.0)	227.18				S R427-430	18	
S B407	II T25	③-C	時期不明			(4.45) × (3.40)		227.21				S B244	18	
S R409	II T 5	③-C	時期不明			(4.90) × (3.2)		227.14					18	
S R410	II T20	③-C	古墳中期-後期	NS		4.90 × 3.0	(24.5)	227.28		3	北中央		18	
S B411	IV 4	③-C	時期不明										18	
S B412	II Y 18	③-C	古墳中期-後期	N46E		3.16 × 4.16	(12.7)	227.08			北東		18	
S B414	II Y 25	③-C	時期不明			(1.30) × (1.20)		226.74					18	
S R415	II T19	③-C	時期不明			(3.0) × (0.80)		227.16			北西		18	
S B417	II Y19	③-C	古墳中期-後期	N29W		(2.0) × (4.0)		226.48		7	北東		18	
S B418	II Y 2	③-C	時期不明			(2.70) × (1.05)		226.94					18	
S B419	II Y 18	③-C	古墳中期-後期			5.30 × (4.45)	(23.99)	227.1					18	
S B426	II Y 28	③-C	時期不明			(3.13) × 2.90	(9.2)	227.14					18	
S B421	II T45	③-C	時期不明			5.79 × (2.20)	(12.74)	227.31					18	
S B422	II T15	③-C	古墳中期-後期	NS		3.19 × (3.55)	(12.25)	227.25		7	北	1	18	
S R423	II Y 18	③-C	時期不明			(2.90) × (1.20)		227.17				S B447	18	
S B424	II Y 17	③-C	時期不明					227.13					18	
S B425	II T24	③-C	古墳中期-後期			6.99 × (4.20)	(29.78)	227.1					18	
S B445	II T19	③-C	時期不明			(4.90) × (2.10)		227.27					18	
S B449	II Y 18	③-C	古墳中期-後期			4.66 × (3.60)	(16.7)	227.08					18	
S B450	II Y 13	③-C	古墳中期-後期	V				227.2					18	
S R452	II Y 9	③-C	古墳中期-後期	N46E		(3.95) × (3.60)		227.09		3	北東		130	
S B411	II Y 8	③-C	時期不明					227.18					18	
S B472	II Y 8	③-C	古墳中期-後期			(5.20) × 5.10	(27.02)	227.11					18	
S B474	II Y 13	③-C	時期不明			(2.25) × (1.20)		227.25				S B473	18	
S B477	IV 1	③-B	古墳中期-後期	II	NS	5.00 × 4.80	24.0	226.33		A			133	
S R478	IV 7	③-B	弥生後期-古墳期	7	N46E	6.09 × 6.15	40.59	226.29				S B352	59	
S B479	IV 2	③-1	古墳中期-後期	V	N15W	4.40 × 3.88	(18.72)	227.3				北西中央	8	17
S B490	IV P 3	③-1	奈良-平安	III	N25E	(3.10) × 3.15	(11.0)	227.58		7		北西中央	S B485	17
S B481	IV P 2	③-1	時期不明		N26W	4.25 × 3.95	16.97	227.43					17	
S B482	III Q 2	③-1	古墳中期-後期	V	N20E	4.16 × 4.10	16.81	227.2		A	3	北東中央	1, 2, 5, 12	133
S B487	III Q 6	③-1	古墳中期-後期	IV-V		4.75 × (3.10)	(14.73)	227.16					17	
S B501	III P13	③-1A	古墳中期-後期	V	N17W	5.96 × 4.70	27.73	227.4		B	3	北中央	1, 5	17
S B502	III P 9	③-1A	古墳中期-後期	V	N26E	4.76 × 4.65	(22.36)	227.3		A	3	北中央		17
S B503	III P 5	③-1A	奈良-平安	III	N73W	4.50 × 4.50	20.25	227.4		A	3	西中央		175
S B524	III P 7	③-1A	奈良-平安	III	N24E	4.65 × 5.20	(24.21)	227.46		A	3	北中央		175
S B505	III P 9	③-1A	時期不明		N29W	4.40 × 6.25	27.1	227.19		A	3	北西中央	5号724	17
S B506	III P 7	③-1A	時期不明		N44E	3.3 × 3.40	11.2	227.2				北東中央		17
S B507	III P13	③-1A	古墳中期-後期		N18W	(2.85) × 2.75	(7.89)	227.25					3	17
S B508	III Q25	③-1A	古墳中期-後期		N22E	3.0 × 3.6	10.8	227.2		3		北西中央	12	17
S B509	III T4	③-1A	古墳中期-後期		N32E	4.29 × 4.6	(19.8)	227.25					1	17
S B510	III T 3	③-1A	時期不明		N27W	5.40 × 5.70	(31.09)	227.12						17
S B511	III K14	③-1 B 2	奈良-平安	II	N41W	4.20 × 3.95	16.46	227.5		B	3	北西中央		176
S B521	III K19	③-1 B 2	奈良-平安	II-V	N24W	(4.25) × 3.25	(13.8)	227.49						17
S B513	III K18	③-1 B 2	奈良-平安	III	N126E	4.46 × 4.6	(17.6)	227.44						176
S B514	III K13	③-1 B 2	奈良-平安	III	N45W	3.55 × (2.40)	(8.52)	226.4						17
S B515	III K20	③-1 B 2	奈良-平安	III	N38E	5.20 × 5.80	30.16	227.33				北東中央		177
S B516	III K15	③-1 B 2	古墳中期-後期		N36E	3.90 × 3.10	(12.09)	227.25						17
S B517	III K28	③-1 B 2	奈良-平安	III	N52W	3.90 × 4.35	16.86	227.29		C	7	北西中央		17
S B518	III K25	③-1 B 2	時期不明		N2E	(5.60) × (5.30)		227.41				北	S B 711	17
S B519	III K26	③-1 B 2	古墳中期-後期	IV-V	N39E	3.30 × 4.10	13.53	227.15		C	3	北西中央		17
S B520	III K24	③-1 B 2	時期不明			5.85 × (5.60)	(32.76)	227.48						17
S B521	III K19	③-1 B 3	奈良-平安	III	N38E	3.90 × 3.49	13.36	227.45						17
S B522	III K23	③-1 B 1	古墳中期-後期	II	N28E	6.25 × 6.49	40.0	227.15		A	3	北東中央	S B524, 567	17
S B523	III K10	③-1 B 2	古墳中期-後期	IV-V		5.79 × (5.40)	(31.29)	227.27						17
S B525	III K15	③-1 B 2	古墳中期-後期		N69W	3.25 × (1.80)	(5.87)	227.28						17
S B526	III P16	③-2	古墳中期-後期	V	N13E	4.35 × 4.85	21.1	227.25		C	3	北西中央	2	181
S B527	III P11	③-2	古墳中期-後期		N27E	(3.60) × 3.85	(13.80)	227.27		3	C	北東中央		18
S B528	III P23	③-2	奈良-平安	I-III	N7E			227.54				北		18
S B529	III T15	③-2	時期不明		N17W	5.35 × 3.46	28.69	227.35		6	C	北中央	2, 4	17
S B530	III P21	③-2	古墳中期-後期		N4W	(4.70) × 4.80	(22.56)	227.3		3		北中央		18
S B531	III P16	③-2	古墳中期-後期	V	N38E	3.85 × 4.45	17.38	227.33		C	3	北東中央	S B535	180

透視名	Plan	地區名	時代	時期	坐落方位	範圍	高面積	樓頂高	自然樓高	戶數	編	區	用途	公設	備註
S B532	四 F 2	①-2	古蹟中區-後期	V	N25W	3.30 × 4.56	17.75	337.2	A	3	C	北港中中心		1.8	18
S B534	四 P 17	①-2	特殊不明		N96E	5.70 × 4.05	(21.39)	337.28				東中中心			18
S B536	四 P 22	①-2	古蹟中區-後期	V	N31W	(3.40) × 4.20	(14.28)	337.3		3		北港中中心			18
S B537	四 P 17	①-2	特殊不明		NS	5.95 × 5.90	(35.12)	337.27							18
S B538	上 T 15	①-2	古蹟中區-後期		N72E	4.20 × 4.43	(18.40)	337.15		3		北港中中心			18
S B540	四 P 25	①-2	古蹟中區-後期	V	N11E	6.20 × (4.50)	(27.9)	337.27		4	C	東			1335
S B544	四 P 23	①-2	時期不明		N4E	3.25 × 3.30	(10.6)	337.24					自備註		18
S B545	四 P 21	①-2	特殊不明		N17E	3.95 × (3.50)	(13.6)	337.27				北中央			18
S B546	四 P 21	①-2	特殊不明		N13E	4.65 × 4.75	21.51	337.30				北中中心			18
S B547	四 P 21	①-2	時期不明		NS	(9.30) × (1.65)		337.32				北			18
S B548	四 P 22	①-2	古蹟中區-後期	II-IV	N10E	5.36 × 4.30	23.26	337.27				北中中心		1	18
S B549	四 P 17	①-2	古蹟中區-後期	V	N21W	(2.40) × 5.20	(12.48)	337.3		6		北港中中心			18
S B550	四 T 20	①-2	古蹟中區-後期	IV-V	N44E	(9.26) × (7.2)		337.3		3		北港中中心	S B561		18
S B551	四 T 20	①-2	時期不明			(2.90) × (1.80)		337.3							18
S B553	四 P 12	①-2	時期不明		N90E	(2.80) × (1.65)		337.59				東			18
S B553	四 P 12	①-2	古蹟中區-後期			4.50 × (2.50)	(11.25)	337.43						1	17
S B554	四 P 17	①-2	時期不明			(2.70) × (2.40)		337.48							17
S B556	四 P 12	①-2	古蹟中區-後期	IV-V	N31W	(9.25) × 4.30	(11.0)	337.27		3		北港中中心			18
S B557	四 P 12	①-2	特殊不明		N10W	7.2 × (2.25)	(16.2)	337.27						12	17
S B558	四 P 17	①-2	古蹟中區-後期	V	N64E	4.98 × 5.15	25.49	337.2	A	3	C	北港中中心		4.12	17
S B559	四 P 17	①-2	古蹟中區-後期	V	N69E	4.56 × 4.35	19.24	337.2	A	3		北港中中心		4	17
S B560	四 T 25	①-2	時期不明		N50W	3.25 × 3.30	10.4	337.22							18
S B560	四 T 25	①-2	特殊不明			3.05 × (1.30)	(4.12)	337.19							18
S B563	四 P 12	①-2	特殊不明		N18W	(5.52) × (2.60)		337.22				北港中中心			18
S B564	四 T 13	①-2	古蹟中區-後期		N11E	(5.92) × (5.0)		337.2				北		1	18
S B566	四 P 19	①-2	古蹟中區-後期	IV	N25W	6.30 × 4.70	29.61	337.13							18
S B567	四 P 19	①-2	特殊不明		N43W	(1.20) × (2.50)	(3.00)	337.2				北港	S B578		17
S B568	四 P 12	①-2	時期不明			3.75 × (2.65)	(9.94)	337.17							18
S B569	四 P 21	①-2	時期不明			4.25 × 4.15	(17.64)	337.24							18
S B572	四 P 21	①-2	古蹟中區-後期	II-IV	N33E	(5.75) × (2.50)		337.2		7					18
S B573	四 P 22	①-2	古蹟中區-後期	IV		(7.3) × (2.20)		337.19					S B594(578)		18
S B576	四 K 25	①-1 R 1	時期不明		N45W	5.15 × 5.40	27.81	337.3				北港中中心			17
S B577	四 K 16	①-1 B 1	空汙-平安	III	N13W	3.85 × 3.50	(13.48)	337.52		5					17
S B578	四 K 16	①-1 B 1	古蹟中區-後期	IV	N23E	5.65 × 5.65	31.26	337.14	A	3	C	北港中中心			136
S B579	四 K 16	①-1 B 1	古蹟中區-後期	III	N51W	(5.20) × 6.00	(31.45)	337.2		3		北港中中心			17
S B580	四 C 25	①-1 B 1	特殊不明			(4.50) × (2.25)		337.22							17
S B581	四 C 25	①-1 B 1	古蹟中區-後期			4.50 × (2.15)	(9.6)	337.18							17
S B582	四 C 25	①-1 B 1	特殊不明			4.30 × (2.50)	(10.75)	337.06						4	17
S B583	四 C 25	①-1 B 1	古蹟中區-後期		N88E	4.00 × 3.85	(15.4)	337.1		7		北			17
S B584	四 K 12	①-1 B 1	古蹟中區-後期			4.95 × (4.60)	(22.7)	337.33							17
S B586	四 K 16	①-1 B 1	古蹟中區-後期	IV	N47E	5.55 × 4.60	25.53	337.1	B			北港中中心		4	17
S B587	四 K 11	①-1 B 1	時期不明			4.25 × (1.25)	(6.6)	337.2				北港中中心			17
S B587	四 K 6	①-1 B 1	時期不明			5.60 × (3.60)	(20.16)	337.31				北港			17
S B588	四 K 11	①-1 B 1	空汙-平安	III		4.80 × (2.65)	(12.72)	337.32							17
S B589	四 K 12	①-1 B 1	特殊不明		N43E	4.55 × 4.75	21.61	337.4				北港中中心		9.12	17
S B590	四 K 7	①-1 B 1	古蹟中區-後期	V	N66E	4.30 × 4.50	(19.35)	337.2	A	3	C	北港中中心			17
S B591	四 P 5	①-1 B 2	特殊不明	2											17
S B592	四 C 4	①-1 B 2	古蹟中區-後期		N36E	(6.30) × 5.50	(34.6)	337.23		3	R	北港中中心			17
S B593	四 P 5	①-1 B 2	時期不明		NS	4.25 × 4.30	(18.2)	337.3							17
S B596	四 P 3	①-1 B 2	古蹟中區-後期	II	N48E	4.65 × 5.0	23.25	337.15	A	3		北港中中心		1.3	137
S B596	四 P 4	①-1 B 2	時期不明		N25W	3.10 × 3.80	11.78	337.13				北港中中心		12	17
S B598	四 K 15	①-1 B 2	古蹟中區-後期	II-IV	N23W	(1.15) × (2.0)		337.58		5		北港			17
S B601	四 P 2	①-1 A	古蹟中區-後期		N50W	3.65 × 3.80	13.87	337.28		3		北港中中心			17
S B602	四 P 3	①-1 A	古蹟中區-後期	II		(4.50) × (3.3)		337.3							17
S B603	四 P 7	①-1 A	時期不明		N71W	4.25 × 3.20	13.79	337.25							17
S B604	二 F 5	①-1 A	古蹟中區-後期		N77E	7.50 × (5.50)	(41.25)	337.32		3	E	北		12	17
S B605	四 P 1	①-1 A	古蹟中區-後期	V	N62E	7.25 × 7.45	54.76	337.2	A	4	E	北港中中心		1.12	17
S B606	四 P 5	①-1 A	特殊不明		N68W	3.70 × 3.60	(13.32)	337.27				北港中中心		12	17
S B608	四 P 6	①-1 A	古蹟中區-後期		N18E	3.40 × 3.30	11.22	337.34		3		北港中中心	S B633		17
S B619	四 K 8	①-1 B 1	古蹟中區-後期	V	N33E	4.70 × 4.85	(22.8)	337.2	A	3	C	北港中中心			17
S B617	四 K 16	①-1 B 1	古蹟中區-後期			5.35 × (4.55)	(24.54)	337.15							17
S B618	四 K 17	①-1 B 1	特殊不明		N47E	5.25 × 4.0	(21.0)	337.39				北港中中心			17
S B620	四 K 12	①-1 R 1	特殊不明			(3.30) × (3.30)		337.35							17

行章 斃生時代後期以降遺構觀察表

観測番号	形式	期名	時代	時期	築造方向	面積	坪面積	埋蔵量	土質	状況	位置	地所	合表	備考	
S B 626	田 K 6	④ 1-2	時期不明			(3.50) × (3.20)	337.38							17	
S B 621	田 K 14	④-3 A 1	古墳中期一後期		N30W	5.55 × 5.10	(28.33)	337.7		3	北西中央			17	
S B 622	田 L 11	④-3 A 1	古墳中期一後期		N35W	(5.23) × 5.86	(30.33)	337.3		3	北西中央	S K 7137	1, 4, 12	17	
S B 623	田 K 9	④-3 A 1	古墳中期一後期		N72E	5.30 × 5.90	(31.27)	337.3	A	3	北西中央		2	17	
S B 625	田 X 5	④-3 A 2	古墳中期一後期		N15W	4.70 × 4.65	19.53	337.3	C	3	北西中央		1, 2	138	
S B 625	田 Y 2	④-2	古墳中期一後期		N20W	(2.55) × (3.50)	337.37				北西			138	
S B 627	田 P 17	④-2	時期不明				337.32							17	
S B 629	田 P 17	④-2	時期不明				337.32							17	
S B 629	田 P 28	④-2	時期不明				5.06 × (2.75)	(13.89)			S B 668			17	
S B 631	田 P 10	④-1 A	時期不明		N24W	(3.30) × (2.45)		337.14			北			17	
S B 632	田 T 5	④-1 A	時期不明					337.22						17	
S B 634	田 F 7	④-1 A	古墳中期一後期		N22E	5.0 × 5.0	25.0	337.33					12 A 分 (備)	139	
S B 635	田 Y 5	④-1 A	古墳中期一後期		N	7.15 × 7.05	(50.35)	337.1		3	E	北西中央	1	139	
S B 636	田 P 6	④-1 A	古墳中期一後期		N23E	3.62 × 3.86	(13.66)	337.22				北西中央		17	
S B 637	田 P 6	④-1 A	古墳中期一後期		N13E	4.15 × 4.36	(17.85)	337.32	A	3	西側中央			17	
S B 638	田 T 10	④-1 A	古墳中期一後期		N41E	(5.60) × 5.25	(29.43)	337.18		3	北東中央		4	17	
S B 639	田 T 5	④-1 A	古墳中期一後期		N13E			337.1		3	北東			17	
S B 640	田 P 6	④-1 A	古墳中期一後期		N36W	5.30 × 5.35	(28.36)	337.35	C	3	北中央	S B 554	17, 13	17	
S B 641	田 K 10	④ 3 A 1	古墳中期一後期		N23W	4.45 × 4.25	(18.66)	337.25	A	3	北西中央		8	142	
S B 642	田 L 6	④-3 A 1	古墳中期一後期		N45W	(4.35) × 4.23	(18.37)	337.15		3	北西中央			17	
S B 643	田 L 11	④-3 A 1	古墳中期一後期		N43W	7.95 × 7.45	59.6	337.1	A	3	D	北西中央	S B 665	1, 2, 8	140
S B 644	田 L 1	④-3 A 1	古墳中期一後期		N18E	6.10 × 6.05	(36.91)	337.1	A	3	C	北東中央	1	5, 12	140
S B 645	田 L 1	④ 3 A 1	古墳中期一後期		N43E	9.10 × 9.45	(86.01)	337.05	A	3	C	北東中央	S B 690	2, 5, 9	141
S B 646	田 P 22	④-2	古墳中期一後期				4.15 × (2.85)	(11.88)						18	
S B 647	田 P 21	④-2	古墳中期一後期		N20E	(5.50) × (5.0)					北			26	
S B 648	田 P 21	④-2	時期不明		N35E	(1.80) × (3.95)		337.23						18	
S B 652	田 P 6	④-1 A	時期不明			(3.20) × (1.20)		337.29						17	
S B 653	田 T 5	④-1 A	時期不明					337.13						17	
S B 656	田 P 18	④-2	時期不明			(2.30) × (1.55)		337.31						17	
S B 657	田 P 17	④ 2	古墳中期一後期			(4.75) × (4.20)		337.2						17	
S B 661	田 K 7	④-3 A 2	古墳中期一後期		S	(2.60) × (4.60)		337.3		2	北			17	
S B 662	田 K 2	④-3 A 2	古墳中期一後期		N5	(4.30) × (2.35)	(10.29)	337.5	A	3	北西中央			17	
S B 663	田 K 3	④-3 A 2	古墳中期一後期		N56E	3.85 × (4.40)	(16.94)	337.2		3	C	北東中央	2, 3	142	
S B 664	田 K 3	④-3 A 2	古墳中期一後期			(3.20) × (2.60)		337.22					8	17	
S B 665	田 L 3	④-2	古墳中期一後期		N25W	4.65 × 4.70	(21.89)	337.34			北西中央			18	
S B 671	田 K 4	④-3 A 2	奈良一平安		N25E	(2.50) × (1.90)		337.3		4	北東			17	
S B 672	田 K 4	④ 3 A 2	奈良一平安		T-J	(2.75) × (2.35)		336.33				S B 668		17	
S B 673	田 K 4	④-3 A 2	古墳中期一後期			4.80 × (4.60)	(21.40)	337.17						17	
S B 674	田 K 3	④-3 A 2	古墳中期一後期		N65W	4.40 × 3.55	15.83	357.2			D		8	17	
S B 675	田 K 3	④-3 A 2	古墳中期一後期			9.20 × (5.40)	(49.68)	357.1					2	17	
S B 676	田 K 3	④ 3 A 2	時期不明			4.40 × (3.35)	(14.74)	337.09						17	
S B 677	田 K 4	④-3 A 2	古墳中期一後期		N50E	(3.75) × (5.60)		337.36		3	E	北東	2	17	
S B 678	田 K 4	④-3 A 2	時期不明			3.50 × (2.80)	(9.8)	337.33						17	
S B 679	田 X 5	④-3 A 2	古墳中期一後期		N25E	2.80 × 3.50	9.8	337.24	C	3	C	北西中央		17	
S B 683	田 L 2	④ 3 A 2	古墳中期一後期		N24W	6.30 × 5.30	(33.39)	337.04	B	3	北西中央	S B 720	2, 3	17	
S B 684	田 G 22	④-3 A 2	古墳中期一後期			(4.75) × (3.50)		336.9						17	
S B 685	田 G 21	④-3 A 2	古墳中期一後期			(4.50) × (3.50)		337.02					2	17	
S B 694	田 Y 2	④-3 A 2	時期不明			4.65 × (2.18)	(10.49)	337.6						17	
S B 695	田 L 2	④ 1 C	古墳中期一後期		N38E	7.40 × (6.85)	(50.7)	337.3		4	E	北東	1, 2, 5	142	
S B 696	田 L 3	④ 1 C	古墳中期一後期		N18E	5.35 × (3.20)	(17.13)	337.25		4	北		5	17	
S B 697	田 L 3	④ 1 C	奈良一平安			(4.55) × (2.70)		337.42						17	
S B 698	田 L 2	④ 1 C	時期不明			(4.50) × (2.45)		337.38					3	17	
S B 699	田 L 7	④ 1 C	古墳中期一後期		N38E	4.85 × 4.58	(22.07)	337.2	A	3	C	北東中央		17	
S B 699	田 L 7	④ 1 C	古墳中期一後期			(2.40) × (2.35)		337.07						17	
S B 699	田 L 8	④ 1 C	古墳中期一後期			4.80 × (2.30)	(6.34)	337						17	
S B 697	田 L 16	④ 1 C	時期不明		N28E	3.15 × 5.86	(11.97)	337.38			北東中央			17	
S B 698	田 L 22	④-1 C	古墳中期一後期		N35W	(2.60) × 5.6	(14.56)	337.26		3	北東中央		1, 2	17	
S B 699	田 L 17	④-1 C	古墳中期一後期		N30W	3.75 × 3.55	(13.31)	337.27						17	
S B 700	田 L 17	④-1 C	古墳中期一後期					337.28						17	
S B 701	田 L 17	④ 1 C	古墳中期一後期			2.60 × (1.95)	(5.17)	337.25						17	
S B 702	田 L 17	④ 1 C	古墳中期一後期		N50E	6.40 × (6.40)	(40.96)	337.08		3	北東中央	1	1, 8, 12	143	
S B 703	田 L 12	④ 1 C	古墳中期一後期					337.22				1		17	
S B 704	田 L 21	④ 1 C	古墳中期一後期		N34E	4.30 × 5.20	(22.32)	337.22		3	北東中央			17	
S B 705	田 L 21	④ 1 C	古墳中期一後期		N4W	(3.70) × 4.79	(17.49)	337.26		3	C	北西中央		2, 4, 8	17
S B 706	田 L 18	④-1 C	古墳中期一後期		N68E	5.70 × (5.35)	(30.5)	337.17		3	E	北東中央	S B 600	17	

漢名	西文	漢名	時代	時期	主編者	開本	頁數	定價	內容	出版	印數	備註	備註	備註	備註	備註
S B797	田L16	①-1 C	古漢中期-後編		N6AE	9.56 × 6.35	41.28	337.2		3	北京中央		S B799			17
S B798	田L19	①-1 C	時期不明		N6AE	4.6 × 3.29	13.18	337.41								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			2.70 × 2.50	(6.25)	337.21								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AE	4.56 × 4.80	(22.68)	337.21					北京中央			17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	III	N6AW	2.75 × 2.80	7.15	337.2	A	3	北京中央					17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			2.95 × (2.60)	(7.67)	337.22								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編		N6AW			337.30					北京			17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	III	N6AE	4.95 × 4.95	24.5	337.2	A	3	北京中央					17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AW	3.10 × 2.66	8.22	337.22					S B799			17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	IV	N6AE	(1.50) × (3.75)		337.2		3	北京					17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			(2.50) × (2.40)		337.47								5
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	IV-V	N6AE	6.88 × 6.15	(42.15)	337.2					S B799			2
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			(4.76) × (2.50)		337.29								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編		N6AE	(6.20) × 5.75	(36.28)	337.33		3	北京中央					17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			(2.60) × (1.50)		337.21								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AE	9.05 × 5.56	(27.78)	337	A	3	北京中央					17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			(1.00) × (1.20)		337.15								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			5.3 × (3.15)	(11.75)	337.12								1.3
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	II	N6AE	5.05 × (5.10)	(25.76)	336.9	A				北京			3.12
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	III	N6AE			337.15					1			17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	III-V	N6AE	(5.70) × (6.30)		337.23								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AW	3.50 × 5.40	34.22	337.14					北京中央			18
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	II	N6AE	3.56 × (3.10)	(10.85)	337.68		3	北京					18
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	IV	N6AE	5.0 × (4.80)	(24.0)	336.80								1.2
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			4.85 × (4.60)	(22.31)	337.2								43
S B799	田L19	①-1 C	時期不明					337.18								5
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編		N6AE	5.80 × 5.50	(31.9)	337.69					北京中央			28
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AE	5.3 × 5.25	(28.28)	336.75	A	3	北京中央					18
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AW	(2.75) × 2.80	(7.7)	337.24					北京中央			17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AE	5.30 × 6.10	(32.33)	337.2	C	3	北京中央					2.13
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			3.55 × (3.3)	(11.65)	337.34								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			4.65 × (2.25)	(10.43)	337.25								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			(2.50) × (1.60)		337.11								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AW	3.80 × 4.40	16.77	337.28	B	7	北京中央	1			1,2,3	144
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AE	7.55 × (2.65)	(5.5)	337.25	C	3	北京					17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AE	3.79 × 3.45	(12.77)	337.15								17
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AW	4.15 × 4.10	(17.02)	337.27	A	3						2
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	V	N6AE	(3.3) × 3.50	(7.5)	337.2		5	北京中央					2.4
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AE	(5.80) × (7.80)		337.25					北京中央			18
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AW	4.20 × 5.60	(23.52)	337.66		3	北京中央					3
S B799	田L19	①-1 C	時期不明					337.24								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明					337.37								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			(2.60) × (3.28)		337.28								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明		N6AW	4.0 × 4.35	13.4	337.1								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			4.10 × (5.20)	(21.40)	337.17								17
S B799	田L19	①-1 C	時期不明					337.1								5
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編	IV-V		(2.90) × (2.50)		337.1								5
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編					337.65								18
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			3.50 × (3.50)	(12.25)	336.95					1			18
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			5.0 × (4.70)	(23.5)	337.15		4	北京中央					2
S B799	田L19	①-1 C	古漢中期-後編			5.0 × (4.10)	(20.5)	337.14								18
S B799	田L19	①-1 C	時期不明					337.22								18
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			3.30 × (6.60)	(1.98)	337.15								18
S B799	田L19	①-1 C	時期不明			3.45 × 2.80	9.52	337.08								18
S B799	田L19	①-5	時期不明			5.80 × (4.45)	(25.81)	337.16								18
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	V	N6AE	5.0 × 4.90	24.5	337.2	A				北京中央			3.4,5
S B799	田L19	①-5	時期不明					337.18								1
S B799	田L19	①-5	時期不明			4.70 × (3.20)	(15.04)	337.1								19
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	II	N6AW	(1.80) × 5.55	(19.15)	336.9		3	北京中央	1	S B799			1,4,12
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	IV-V	N6AW	9.25 × 8.85	19.97	337	C	3	北京中央					19
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	II	N6AW	8.0 × 8.30	(66.4)	336.98	A	6	北京中央					12
S B799	田L19	①-5	時期不明			3.69 × (3.55)	(13.78)	337.14								19
S B799	田L19	①-5	時期不明					337.61								19
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	V	N6AE	5.80 × (4.13)	(22.96)	336.56		3	北京中央					4
S B799	田L19	①-5	古漢中期-後編	II	N6AE	4.85 × 4.90	22.31	336.35	A	1	北京中央	1				4

付表 弥生時代後期以降遺構観察表

遺跡名	ブティック	地区名	時代	時期	上層方向	規模	床面積	床積高	勾配	中々	用途	状況	方位	備考	階別	
S B4C	IV F10	②-5	時期不明			N40E	4.35 × 2.85	0.2, 0.3	330.35						18	
S R815	V A 5	②	時期不明			N92E	(6.35) × 7.75	(6.86)	336.74			東			18	
S R316	V A 5	②-5	時期不明			N33E	3.60 × (7.50)	(3.20)	335.55			南東中中右			18	
S B817	V A 5	②-5	時期不明				(3.50) × (2.10)		336.40						18	
S R818	V A 5	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ		N32W	(5.20) × 6.70	(35.51)	336.45			3 E, 北西中央		4	147	
S B419	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ		N30W	(5.20) × 5.60	(55.12)	336.42	A	3	北西中央			18	
S B820	V A 6	②-5	時期不明				(3.50) × (2.10)		336.64						18	
S R821	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ		N66E	5.15 × 3.95	(50.34)	336.54			1 B 中央			18	
S B822	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ			(9.90) × (6.50)		336.6						18	
S B823	IV E15	②-5	時期不明				(1.20) × (6.85)		336.61						18	
S B825	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ		N14W	5.55 × 5.80	32.77	336.4	A	1	北中中左	2, 4		148	
S B826	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ			(2.50) × (1.50)		336.28						18	
S R827	V E24	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ		N49E	3.90 × 3.55	(13.85)	336.29	A	1		2		18	
S B828	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ			3.0 × (6.80)	(54.4)	336.4						18	
S B829	IV E15	②-5	古墳中期-後期	Ⅱ			7.90 × (2.0)	(35.8)	336.61						18	
S B830	IV F19	②-5	弥生前期-古墳前	6			2.58 × (2.10)	(6.36)	336.36						90	
S R831	IV O1	③	時期不明				(3.20) × 3.10	(9.30)	337.06						9	
S B835	IV O1	③-5	弥生前期-古墳前				(4.95) × (4.45)		337.15						9	
S B1001	III F22	①-3 B	時期不明			N44W	3.45 × 3.45	(11.9)	337.14						27	
S B1002	III F34	①-3 B	時期不明			N42E	5.0 × 5.9	25.0	337.12			北西中中右			27	
S R1003	III F24	①-3 B	時期不明			N38E	5.25 × 4.75	(24.68)	337.18						27	
S B1004	III F33	①-3 B	時期不明			N38E	4.20 × 4.05	17.02	337.15						27	
S B1005	III F18	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N61E	5.0 × (2.70)	(14.5)	336.36			5	北東		27	
S B1006	III F18	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N22W	5.0 × 6.15	36.9	337.36	A	3	北中央			148	
S B1007	III F15	①-3 B	弥生-平安	Ⅱ		N17E	3.25 × 2.75	8.94	337.22	A	3	北中中左			18	
S B1008	III F20	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N20E	5.80 × 5.25	30.45	337.17	A	3	北東中央		3	27	
S B1009	III F20	①-3 B	時期不明			N37E	4.15 × 4.25	14.05	337.17			北東中中左			27	
S B1010	III F19	①-3 B	時期不明			N39W	5.55 × 5.65	(36.08)	337.17			北中中左			27	
S R1011	III F19	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N72E	4.80 × (3.60)	(18.24)	337.11			7	北東		27	
S B1012	III F19	①-3 B	時期不明			N3E	4.80 × 4.80	(23.04)	337.14						27	
S B1013	III F15	①-3 B	古墳中期-後期	V		N96W	6.90 × 6.15	(89.36)	337.25	A	3	北中央	13		27	
S B1014	III F14	①-3 B	古墳中期-後期	V		N32E	4.50 × 4.25	19.15	337.3	A	3	北中中央			16	
S B1015	III A25	①-4 A	古墳中期-後期	V		N65E	4.50 × 4.00	20.7	337.17	A	3	北東中央			149	
S B1016	III F10	①-4 A	古墳中期-後期	Ⅱ-IV		N37E	6.30 × 6.2	(37.8)	337.1	A	3	北東中央		3	16	
S B1017	III F5	①-4 A	時期不明			N35W	5.0 × 5.25	26.25	337.03			北西中中左			27	
S B1018	III F14	①-3 B	弥生-平安			N3E	5.65 × 5.70	32.21	337.2	A	3	北中央			16	
S B1019	III F13	①-3 B	古墳中期-後期			N36E	4.10 × 5.0	20.5	337.18			3	北東中中右		17	
S B1020	III F12	①-3 B	古墳中期-後期			N15W	6.25 × 5.90	(36.88)	337.17			北西中中左			17	
S B1021	III F12	①-3 B	古墳中期-後期			N54W	6.50 × 6.50	(42.0)	337.25			3	北西中中左	1	17	
S R1022	III F9	①-3 B	古墳中期-後期			N30E	(3.20) × 6.10	(16.62)	337.18						16	
S B1023	III G2	①-4 A	古墳中期-後期	V		N37E	6.0 × 6.60	(39.6)	337.15	A	3	D 北東中央	2, 4, 5		149	
S B1024	III G4	①-4 A	時期不明			N41E	5.60 × 4.65	26.64	337.36						16	
S B1025	III G7	①-3 B	古墳中期-後期	IV-V		N84E	6.65 × 6.65	40.23	336.91	A	3	南中左	4		16	
S R1026	III G6	①-3 B	時期不明			N6E	6.90 × 6.70	(42.78)	337.15						16	
S B1027	III G2	①-4 A	古墳中期-後期	Ⅱ		N49E	5.10 × 5.30	21.93	337.87	B	3	北東中央	2		150	
S B1028	III F3	①-4 A	古墳中期-後期	Ⅱ		N13E	5.65 × 5.25	(29.65)	337.3			3	北中左		150	
S B1029	III F3	①-4 A	古墳中期-後期	Ⅱ-IV		N37W	6.10 × 5.05	(36.91)	337	A	6	C 北西中中左			16	
S R1030	III F7	①-4 A	古墳中期-後期	V		N38E	3.80 × 3.50	9.8	337.18	C	3	C 北東中中右			16	
S B1031	III F9	①-4 A	古墳中期-後期			N57W	5.65 × 4.80	(27.12)	337.39			南西			16	
S B1032	III G11	①-3 B	古墳中期-後期	V		N29E	6.35 × 6.15	39.36	337	A	3	B 北東中央	1, 2		151	
S B1034	III G11	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N45W	4.50 × 5.0	(22.5)	337.1	A	3	C 北西中左	2		151	
S R1035	III G7	①-3 B	古墳中期-後期	Ⅱ		N27E	(5.75) × 6.45	(37.08)	337.15			3	北東中左			15
S B1036	III G1	①-4 A	古墳中期-後期	V		N30E	6.60 × 6.50	41.58	337.67			3	北西中左			16
S B1037	III F8	①-4 A	古墳中期-後期			N6E	3.25 × 3.40	11.05	337.9						2	
S B1038	III F8	①-4 A	古墳中期-後期			N28E	6.10 × (5.50)	(33.85)	337.1			3	北東		16	
S R1039	III G2	①-3 B	古墳中期-後期	V		N22E	4.30 × 4.80	(21.67)	336.96			3	北東中左		16	
S B1040	III F14	①-3 B	古墳中期-後期			N38E	7.35 × 7.25	(53.66)	337.1						13	
S B1041	III C17	①-3 B	時期不明												27	
S B1042	III F8	①-4 A	時期不明			N30E	2.75 × 4.10	11.28	337.17						2	
S R1043	III F2	①-4 A	時期不明				4.40 × 4.10	(18.04)	337.15						16	
S B1044	III F2	①-4 A	古墳中期-後期	V		N29W	4.8 × (4.6)	(16.6)	337.31						152	
S B1045	III F6	①-4 A	古墳中期-後期				4.90 × (4.20)	(20.58)	337.15						16	
S B1046	III A23	①-4 A	古墳中期-後期	Ⅱ			6.60 × (5.80)	(35.64)	337.05						4	
S R1047	III F20	①-4 A	時期不明				4.80 × (1.85)	(7.63)	337.18						16	
S B1048	III F5	①-4 A	時期不明			N38E	2.80 × 3.20	8.96	337.25						16	

道線名	アワサ	地区名	形式	時期	区画方位	規模	床面積	床積比	2階建	2階建率	用途	地積率	合意	備考	面積
S B1048	田 F 2	田 4 A	雑草不明		N33E	3.29 × 2.50	19.280	537.12							16
S B1050	田 F 5	田 4 A	古墳中期-後期		N20E	5.45 × 5.15	280.070	337.12							16
S B1051	田 G 2	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅲ	N26E	3.50 × 3.56	122.61	337.05		3	北東中央				15
S B1052	田 A 10	田 4 A	雑草不明		N25W	5.40 × 5.15	277.61	337.12							16
S B1053	田 A 12	田 4 A	雑草不明		N33E	3.20 × 3.05	9.76	337.57							16
S B1054	田 F 5	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅲ-Ⅳ	N30E	(4.50 × 5.90)		337.1		3	北東中央				16
S B1055	田 A 10	田 4 A	古墳中期-後期		N44W	5.15 × 3.80	(5.77)	337.07		3	西中央				16
S B1056	田 A 25	田 4 A	古墳中期-後期		N25W	4.70 × 5.45	(31.07)	337.1							16
S B1057	田 A 22	田 4 A	古墳中期-後期		N27W	6.05 × 5.65	44.25	337.1		7	北東				16
S B1058	田 B 21	田 4 A	古墳中期-後期	V		4.00 × 14.00	(38.95)	337.15							16
S B1059	田 F 17	田 3 B	雑草不明			4.80 × 14.20	(49.32)								17
S B1060	田 A 20	田 4 A	古墳中期-後期		N56E	5.75 × 5.65	32.49	337.2		7	北東				16
S B1061	田 B 16	田 4 A	雑草不明		N38W	(4.80 × 5.60)	(26.88)	337.57							15
S B1062	田 A 20	田 4 A	古墳中期-後期	V	N47W	4.70 × 4.80	22.56	337.15	A	3	北東中央				16
S B1063	田 B 16	田 4 A	古墳中期-後期		N37W	5.10 × 5.20	26.52	337.15		3	北東中央				16
S B1064	田 B 17	田 4 A	雑草不明		N43E	5.0 × 4.95	(24.75)	337.31							16
S B1065	田 B 11	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅳ-V	N17E	7.10 × 7.10	50.41	337.1	A	3	北東中央				16
S B1066	田 F 8	田 4 A	雑草不明		N12W	5.70 × 5.55	31.32	337.3							15
S B1067	田 A 18	田 4 A	古墳中期-後期		N25W	5.05 × 5.0	(25.25)	337							15
S B1068	田 A 23	田 4 A	古墳中期-後期		N61E	5.13 × 5.0	(25.65)	337			C	北東中央			15
S B1069	田 A 22	田 4 A	古墳中期-後期		N16W	4.50 × 4.60	21.20	336.9		3	北東中央				16
S B1070	田 B 16	田 4 A	古墳中期-後期		N59E	5.30 × 5.15	(27.3)	337.3							16
S B1071	田 B 11	田 4 A	雑草不明		N25W	(9.25) × (6.50)		337.16							16
S B1072	田 F 6	田 4 A	雑草不明			3.00 × (4.05)	(22.28)	337.22							16
S B1073	田 B 17	田 4 A	雑草不明			5.15 × (4.00)	(20.60)	337.22							15
S B1074	田 B 17	田 4 A	古墳中期-後期		N48E	6.05 × 6.25	37.81	337.18							16
S B1075	田 B 12	田 4 A	雑草不明		N42E	(1.90) × 5.50	(10.45)	337.2			1				15
S B1076	田 F 21	田 3 B	雑草不明		N48E	4.45 × 4.55	20.25	337.23							15
S B1077	田 F 16	田 3 B	雑草不明		N26E	(1.45) × (4.60)		337.19							17
S B1078	田 F 12	田 3 B	古墳中期-後期	Ⅲ	N7E	7.35 × 17.15	(126.84)	337.16		6	北				17
S B1079	田 F 7	田 3 B	古墳中期-後期	Ⅳ	N43E	6.30 × 5.70	(35.94)	337.22	A	3	北東中央				15
S B1080	田 F 12	田 3 B	雑草不明			3.90 × (25.3)	(9.75)	337.21							17
S B1081	田 F 21	田 3 B	雑草不明		N45W	4.90 × 4.40	(19.8)	337.2							17
S B1082	田 A 24	田 4 A	雑草不明			4.90 × (1.90)	(9.31)	337.62							18
S B1083	田 B 6	田 4 A	古墳中期-後期		N33E	5.70 × 5.45	31.07	337.2							18
S B1084	田 B 6	田 4 A	古墳中期-後期	V	N58E	6.15 × 5.95	36.59	337.06	A	D	北東				15
S B1085	田 F 2	田 4 A	雑草不明			(2.75) × (22.0)		337.06							16
S B1086	田 B 17	田 4 A	古墳中期-後期	V	N46E	4.22 × 4.50	18.9	337.1	A	3	北東中央	S B1128			18
S B1087	田 B 12	田 4 A	古墳中期-後期	V	N26E	3.40 × 3.75	12.75	337.16	A	3	北東中央				15
S B1088	田 A 22	田 4 A	雑草不明												15
S B1089	田 A 23	田 4 A	雑草不明		N33E	5.05 × 4.95	26.45	336.97							16
S B1090	田 A 20	田 4 A	衛生線前-内側	0番	N43E	7.35 × 2.50	(5.87)	336.98	A						15
S B1091	田 A 20	田 4 A	衛生線前-内側	0番		2.60 × (1.70)	(4.42)	337							16
S B1092	田 A 14	田 4 A	古墳中期-後期		N45W	4.65 × 3.75	35.19	336.95							16
S B1093	田 A 9	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅱ	N37W	8.85 × 8.65	76.56	336.85	A	3	北東中央	1.12			15
S B1094	田 A 12	田 4 A	雑草不明		N20W	7.70 × 7.70	59.29	336.85							15
S B1095	田 A 10	田 4 A	古墳中期-後期		N48W	5.15 × 5.20	26.78	337.07		3	北東中央	1			15
S B1096	田 A 5	田 4 A	古墳中期-後期		N18W	5.40 × 5.70	30.78	337.14		5	北東中央				16
S B1097	田 B 1	田 4 A	古墳中期-後期		(5.40) × 4.80	(26.16)	337.15								15
S B1098	田 A 13	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅳ-V	N34E	5.85 × 5.85	(46.92)	336.6	A	3	北東中央	13			16
S B1099	田 A 4	田 4 A	雑草不明		(4.60) × 4.25	(29.29)	337.07								16
S B1100	田 A 3	田 4 A	古墳中期-後期		N32E	5.75 × 5.95	34.38	336.45							16
S B1101	田 A 4	田 4 A	衛生線前-内側	0番	N42E	4.0 × 2.25	(3.0)	336.95	B	1	北東中央				15
S B1102	田 A 5	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅲ	N19E	3.95 × 3.60	(14.4)	337							16
S B1103	田 A 3	田 4 A	古墳中期-後期		(3.80) × 3.95	(5.61)	336.63								16
S B1104	田 A 5	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅱ	N58W	(2.30) × 3.35	(7.71)	336.9		5	北東中央				16
S B1105	田 B 6	田 4 A	古墳中期-後期	Ⅲ	N26E					2					16
S B1106	田 A 4	田 4 A	雑草不明			(2.40) × (1.90)		337.07							16
S B1107	田 A 12	田 4 A	雑草不明			(4.90) × (1.60)		336.75							16
S B1108	田 A 17	田 4 A	雑草不明			(2.80) × (2.60)		336.8							16
S B1109	田 A 19	田 4 A	雑草不明			(1.30) × (0.95)		336.99							16
S B1110	田 A 19	田 4 A	雑草不明												16
S B1111	1 U 24	田 4 B	古墳中期-後期		N21W	6.25 × 6.0	37.5	336.88		3	北東中央	13			16
S B1112	1 U 24	田 4 B	古墳中期-後期		N51W	(5.30) × 5.0	(26.5)	337							16
S B1113	1 U 9	田 4 B	雑草不明			4.60 × (3.85)	(17.71)	337.12							16
S B1114	1 U 24	田 4 B	衛生線前-内側		N4W	1.45 × 3.70	(16.26)	336.92		1	北東中央				16

通称名	グリッド	地区名	時代	時期	非基方向	規模	床面積	坪単価	建築費	坪単価	用途	位置	用途	合意	備考	面積	
S B1200	II G12	①-6	古墳中期-後期	II	N98E	(5.45) × (7.00)	336.30				3	E	北東			16	
S B1201	II G13	①-5	古墳中期-後期			(5.12) × (2.60)	316.82									16	
S B1207	III C 7	①-5	埴輪不明			5.30 × (4.85)	257.71									15	
S B1208	III G 8	①-6	古墳中期-後期	II	N35W	5.40 × 5.25	284.33	336.99							3	16	
S B1209	III G10	①-6	古墳中期-後期	II		5.60 × (2.50)	(14.26)	337.62				I	S B1220			17	
S B1210	III B23	①-6	古墳中期-後期		N32E	5.75 × 5.0	28.75	337.34								16	
S B1211	III B22	①-6	古墳中期-後期		N50E	7.46 × 7.19	56.54	337.15				3	北東中心			4	
S B1212	III B34	①-6	古墳中期-後期	I	N22W	5.85 × 5.50	32.18	337			A	3	北西中心	1		2	
S B1213	III B25	①-6	埴輪不明			4.80 × 4.65	(22.32)	337.13								16	
S B1214	III B31	①-6	埴輪不明		N42E	2.85 × 4.15	11.55	337.34								16	
S B1215	III B22	①-6	古墳中期-後期		N22E	4.75 × 4.75	22.56	337.15			3		北東中心			25	
S B1216	III G 3	①-6	古墳中期-後期	V	N45E	5.50 × 5.86	(37.19)	337.3			A	3	北東中央			16	
S B1217	III B14	①-6	古墳中期-後期	V	N37W	5.50 × 5.10	(28.53)	337.1			7		北西			26	
S B1219	III B 5	①-6	古墳中期-後期	V	N38E	3.10 × 4.0	12.4	337.25			C	3	北東中央		1.17	人替ノ様	169
S B1220	III B 9	①-6	古墳中期-後期			(5.40) × 2.56	(12.07)	337.4			3		北東中心			16	
S B1221	III G 4	①-6	古墳中期-後期	IV-V	N50W	4.70 × 5.19	(23.57)	337.2			A	3	北東中央			16	
S B1222	III B23	①-6	古墳中期-後期	IV-V	N50W	5.45 × 5.50	30.52	337.15			A	3	北東中央		3.7		16
S B1223	III B18	①-6	埴輪不明		NS	3.75 × 2.85	10.69	336.89								26	
S B1224	III G10	①-6	埴輪不明			(2.60) × (1.80)		339.73								16	
S B1225	III B23	①-6	埴輪不明			3.90 × (3.50)	(13.65)	337.34								16	
S B1236	III B 5	①-6	古墳中期-後期	V	N54W	(5.10) × 5.0	(25.5)	337.2			B	3	北西中心			18	
S B1237	III B 4	①-6	埴輪不明		N25E	3.60 × 3.45	12.42	337.35								15	
S B1238	III B 4	①-6	埴輪不明		N30W	4.30 × 3.90	(17.36)	337.45								16	
S B1239	III B 3	①-6	奈良-平安	II-III	N20W	2.30 × 3.25	8.15	337.32			6		南西中心			16	
S B1241	III B 3	①-6	古墳中期-後期		N38E	3.90 × 3.30	20.67	337.25								2	
S B1232	III G 4	①-6	埴輪不明			4.0 × (3.50)	(14.0)	337.35								16	
S B1233	III B14	①-6	古墳中期-後期	III-IV		5.70 × 5.65	(39.21)	337.3			A			1		15	
S B1235	I V24	①-6	古墳中期-後期		N56E	2.60 × (3.80)	(13.48)	337.39			3					15	
S B1237	III B24	①-6	埴輪不明			(2.45) × (1.55)		337.26								16	
S B1239	III B 9	①-6	古墳中期-後期	V	N44E	4.65 × (3.80)	(19.36)	336.94				D				4	
S B1240	III G14	①-6	古墳中期-後期		N60W	(1.40) × 5.56	(7.7)	336.95								16	
S B1241	III B14	①-6	古墳中期-後期	II-III	N16W	6.50 × 5.50	(35.75)	337.16			B	3	北西中心			16	
S B1242	III B19	①-6	古墳中期-後期			(2.50) × (2.0)		337.1								16	
S B1244	III B14	①-6	奈良-平安	N37E	3.65 × 2.35	(8.58)	337.2									15	
S B1245	III B10	①-6	埴輪不明			(3.60) × (3.70)		337.29								15	
S B1246	I V19	①-6	古墳中期-後期	I	N92E	5.00 × 4.95	25.25	337.17			A					2	
S B1247	III B 5	①-6	埴輪不明			(2.40) × (1.70)		337.25								16	
S B1248	I V23	①-6	奈良-平安	I	N37E	6.55 × 5.75	(37.67)	337.18			B	I	北東		S B1237, 1234, 1226	16	
S B1250	I V14	①-6	埴輪不明		N38W	5.65 × 4.90	(27.69)	337.34								16	
S B1251	I V14	①-6	埴輪不明		N56E	(1.85) × (1.35)		337.45								16	
S B1252	III B 5	①-6	埴輪不明			3.30 × (1.55)	(5.12)	337.1								15	
S B1256	III B 5	①-6	埴輪不明			(4.20) × (4.10)		337.96								1	
S B1258	I V 4	①-6	埴輪不明		N52W	5.50 × 4.50	(23.4)	337.25								16	
S B1261	I V 6	①-6	古墳中期-後期		N36E	2.50 × 2.65	6.63	337.34			3		北東中心			15	
S B1262	I Q19	①-6	古墳中期-後期	V	N41W	3.0 × 3.15	9.77	337.2			A	3	北西中心		2.12	人替ノ様	182
S B1263	I Q25	①-6	古墳中期-後期	V	N12W	5.10 × 5.0	25.5	337.44			A	3	北東中央			182	
S B1264	I Q10	①-6	古墳中期-後期	V	N33E	8.25 × 5.15	37.55	336.9			A	3	北東中央			163	
S B1265	I Q15	①-6	古墳中期-後期		N36W	6.15 × (4.50)	(23.16)	337								15	
S B1266	I Q14	①-6	奈良-平安	2	NS	5.75 × 4.85	(27.89)	336.99			B	I	北西			5	
S B1268	I Q 4	①-6	奈良-平安	S-5	EW	5.20 × 4.95	(25.79)	337.12								5	
S B1270	I Q 5	①-6	奈良-平安	S	N20W	6.50 × 3.80	(24.7)	337.30			B					15	
S B1272	I Q 9	①-6	奈良-平安	S	NS	4.60 × (4.45)	(24.52)	337.06			B	I	A	北東中央		64	
S B1275	I Q 4	①-6	奈良-平安	3	T	4.15 × (2.55)	(10.59)	336.94								16	
S B1301	IV S17	①-6	古墳中期-後期	V	N40E	3.60 × 5.0	(20.4)	337.4			3	3	E	北東		5.6	
S B1302	IV S12	①-6	古墳中期-後期	IV-V	N52E	2.95 × (2.80)	(8.26)	337.29			A	3	C	北東中央		20	
S B1303	IV N19	①-6	古墳中期-後期		NS	5.75 × 3.40	(31.05)	337.14								12	
S B1304	IV N24	①-6	古墳中期-後期	II	N35W	(4.90) × (5.15)		337.2			7		北西		S B1400	1.25	
S B1306	IV N19	①-6	古墳中期-後期	V	N59W	3.20 × (2.60)	(8.36)	337.07			6					19	
S B1307	IV N26	①-6	埴輪不明			(2.85) × (1.35)		337.18								19	
S B1309	IV N24	①-6	古墳中期-後期	IV	N55E	5.12 × 4.80	24.48	337.25			A	7		北東中央		15	
S B1311	IV N22	①-6	埴輪不明			(4.90) × (4.55)		337.12								30	
S B1312	IV S 4	①-6	古墳中期-後期	V	N19W	5.70 × 5.40	(30.78)	337.3			3		北東中央			25	
S B1315	IV S17	①-6	埴輪不明		N21W	4.30 × 4.25	(18.7)	337.46								16	
S B1317	IV S12	①-6	古墳中期-後期		N73E	(5.90) × (4.70)		337.25								20	
S B1318	IV S 7	①-6	古墳中期-後期	V	N48W	(4.55) × 4.35	(20.79)	337.35								1.0	20

遺構名	プラン	所在地	時代	種類	宇線方向	規模	埋置体	床板高	基礎	開口	開口幅	開口高	台成	備考	図号	
S B1520	[YW18]	①-1A	弥生前期-古墳前	0前	N25E	5.90 x 4.70	(27.73)	337.05	B	2	B	北志社六郎	S B1574	12	20	
S B1561	[YW17]	①-1B	弥生後期-古墳前	0前	N25E	5.90 x 4.70	(27.73)	337.05	B	2	B	北志社六郎	S B1574	12	79	
S B1562	[YW18]	①-1A	弥生後期-古墳前	0前	N25E	7.75 x (2.30)	(33.50)	337.05	1	A	A	中央西谷			71	
S B1584	[YB 7]	②-1A	弥生後期-古墳前	3 ?		7.65 x (3.20)	(34.48)	337.02					S B1533	5	31	
S B1585	[YB 22]	②-1A	弥生後期-古墳前	3-4		4.20 x 4.0	(16.8)	337.13	A	1	A	中央			21	
S B1586	[YB 22]	② : A	時期不明			(2.95) x (2.10)		336.75							21	
S B1541	[YW25]	②-1B	弥生後期-古墳前	7 ?	N42E	4.05 x (4.30)	(19.50)	337.14							20	
S B1542	[YW22]	②-1B	時期不明			(2.25) x (1.40)		337.31							21	
S B1544	[YB 1]	②-1B	古墳中-後期	II	N32E	5.95 x 5.9	29.8	337.1			3	B	北東中心	S B1582	3, 4, 12	158
S B1545	[YB 10]	②-1B	弥生後期-古墳前	1 ?		2.55 x (1.6)	(4.08)	337.24							21	
S B1548	[YB 10]	②-1B	弥生後期-古墳前	0前	N65E	4.0 x 3.30	13.2	337.20	B						21	
S B1549	[YB 5]	②-1B	時期不明		N87E	3.10 x 2.55	7.75	337.2				北東中心			21	
S B1550	[YB 5]	②-1B	弥生後期-古墳前	0前	N13E	8.30 x 5.85	48.56	337.1	B	2	A	北町	1 ?	4, 5, 11, 12	72	
S B1551	[YB 14]	②-1B	弥生後期-古墳前			(4.85) x (4.30)		337.13						3	21	
S B1552	[YB 14]	②-1B	時期不明			(5.3) x (3.6)		337.14							21	
S B1553	[YB 16]	②-1B	弥生後期-古墳前	2		5.10 x (4.75)	(24.25)	337.05							21	
S B1554	[YB 18]	②-1B	弥生後期-古墳前			(6.65) x (3.90)		337.1						3	21	
S B1556	[YB 16]	②-1B	古墳中-後期	IV	FW	5.20 x 4.90	(25.75)	337.5							21	
S B1557	[YB 21]	②-1B	弥生後期-古墳前	0前		(6.70) x (6.0)		337.04							21	
S B1558	[YB 21]	②-1B	弥生後期-古墳前		N72E	3.80 x 5.2	(11.78)	337.1							21	
S B1559	[YB 17]	② : B	時期不明			(4.20) x (2.75)		337.01					S B1555		21	
S B1560	[YB 2]	②-1B	時期不明			5.3 x (1.30)	(6.9)	337.35							21	
S B1561	[YB 3]	②-1B	弥生後期-古墳前	2 ?	N81E	4.20 x 3.85	(16.29)	337.16	A					3	21	
S B1562	[YB 15]	②-1B	弥生後期-古墳前		N37W	4.90 x 4.40	(21.24)	337.2	A				S B1523		21	
S B1563	[YB 2]	② : B	時期不明			5.45 x (4.0)	(21.8)	337.06							21	
S B1564	[YB 10]	② : B	時期不明			(1.30) x (1.15)		338.98							21	
S B1570	[YB 6]	②-1B	古墳中-後期	1-山	N25W	5.90 x (6.15)	(26.47)	337.22				宇倉宗孝		2	21	
S B1572	[YB 5]	②-1B	弥生後期-古墳前	0前	N19W	4.40 x 4.05	18.43	337.02	B	1	B	北志社六郎			72	
S B1573	[YB 15]	②-1B	弥生後期-古墳前	1		(2.70) x (2.50)		336.97						12	21	
S B1575	[YB 17]	②-1B	弥生後期-古墳前			(5.55) x (3.75)		337			1	B	中央		30	
S B1578	[YB 8]	②-1B	弥生後期-古墳前		N61E	5.19 x 4.95	(25.21)	337							50	
S B1579	[YB 13]	②-1B	弥生後期-古墳前	0前	N59W	4.75 x 3.75	17.81	337.04	B	1	B	中央西谷		3	20	
S B1580	[YB 8]	②-1B	時期不明					337.02							20	
S B1592	[YB 21]	②-1B	弥生後期-古墳前					337.15							21	
S B1603	[YB 21]	② : B	時期不明					337.03							21	
S B1801	[NK 1]	① : 1	弥生後期-古墳前	2 ?		4.50 x (2.15)	(4.18)	337.25							74	
S B1802	[NK 5]	① : 1	弥生後期-古墳前	0前		5.30 x (4.30)	(22.7)	337.38							22	
S D1803	[NK 1]	①-1	弥生後期-古墳前	2	N34W	5.20 x 4.35	(22.60)	337.1	B	1	B	北志社六郎			75	
S B1804	[NK 6]	①-1	弥生後期-古墳前	3-4	N38W	5.90 x 3.70	24.84	337.24	B	1	B	北志社六郎		5	75	
S B1805	[YD 5]	① : 1	時期不明			(4.85) x (2.25)		337.56							23	
S B1806	[YD 1]	②-1	弥生後期-古墳前			(3.25) x (2.20)		337.23							22	
S B1807	[YO 21]	① : 1	時期不明					337.21							22	
S D1	[NK 3]	① : 3A	中世												193	
S D3	[NK 22]	① : 1A	中世											13	98	
S D7	[NK 5]	① : 3A 1	中世												94	
S D12	[NK 7]	① : 1B 1	中世												2	
S D13	[NK 17]	① : 1	中世												5	
S D14	[NK 5]	① : 3A 1	中世												193	
S D15	[NK 2]	① : 3A 1	中世												192	
S D22	[WA 20]	① : 2C	近世										S D21	6, 9, 13	21	
S D24	[YJ 19]	① : 2A	時期不明											12	22	
S D30	[YV 7]	① : 2C	古墳中-後期											1	20	
S D31	[YV 5]	① : 2C	奈良-平安	Ⅱ											9, 2	
S D33	[YD 1]	① : 1	奈良-平安	Ⅲ								S D45, 47, 51, 57, 61	16	178		
S D37	[YN15]	① : 2	奈良-平安	Ⅲ										16	22	
S D39	[YN15]	① : 2	奈良-平安	Ⅲ											22	
S D43	[YV 11]	① : 3	時期不明												12	
S D47	[YV 19]	① : 3	奈良-平安	Ⅱ											3, 4, 6, 9, 12	
S D58	[YU 24]	① : 5	時期不明												24	
S D60	[YU 22]	① : 5	弥生後期-古墳前	5-6									S D61		76	
S D63	[YU 25]	① : 4	弥生後期-古墳前	1-2										4	77	
S D65	[YQ 17]	① : 4	古墳中-後期												4, 9, 12	
S D72	[YV 22]	① : 2C	弥生後期-古墳前	0-2										5	21	
S D77	[YK 15]	① : 3	弥生後期-古墳前	2 ?											76	

付章 弥生時代後期以降遺構観察表

遺構名	グрупп	施設名	時代	時期	法線方向	施設	用途	埋蔵層	用途	形状	位置	面積	台成	備考	図録
S D79	VIM24	②-3	奈良-平安	Ⅱ-Ⅲ										3,6,10	20
S D85	VIV14	②-2 C	古墳中期-後期										S D322	2	21
S D88	VIV5	②-3	弥生後期-古墳前												78
S D89	V.V6	②-3	弥生後期-古墳前												78
S D90	V.I20	②-3	弥生後期-古墳前	1-2											78
S D114	V.I16	②-3 C	古墳中期-後期											4	16
S D115	V.I22	②-4	弥生後期-古墳前												76
S D122	V.I22	②-3 B	古墳後期											3,6	19
S D123	V.I18	②-3 B	古墳中期-後期												19
S D125	V.I21	②-3 B	古墳中期-後期												19
S D126	I.L10	②-5	弥生後期-古墳前	6											15
S D161	I.K19	②-1 B 2	弥生後期-古墳前	0-2											79
S D165	I.P11	②-2	弥生後期-古墳前	0-2											79
S D169	I.K21	②-1 B 1	弥生後期-古墳前	2											79
S D172	I.H23	②-1 A	弥生後期-古墳前	0-2									S D74		79
S D180	I.H26	②-1 A	弥生後期-古墳前	2											17
S D186	I.H16	②-1 B 2	弥生後期-古墳前	1-2											80
S D188	I.H19	②-1 C	奈良-平安	Ⅲ										4	18
S D190	I.H13	②-1 B 1	弥生後期-古墳前	2										S D185中心分断	80
S D262	V.S23	②-3 A	時期不明												12
S D268	V.N24	②-4	時期不明												12
S D323	V.H22	②-1 A	時期不明												12
S D324	V.W5	②-1 A	古墳中期-後期											4	20
S D341	V.H14	②-1 B	弥生後期-古墳前												21
S D344	V.H19	②-1 A	弥生後期-古墳前	0										12	21
S D322	V.H18	②-1 B	弥生後期-古墳前	1									S D301,306	1	21
S D326	V.H29	②-1 B	弥生後期-古墳前												21
S D330	V.H29	②-1 B	弥生後期-古墳前												21
S D413	V.O24	②-1	古墳中期-後期											1	22
S D418	V.O28	②-1	弥生後期-古墳前	6											78
S D609	V.V7	②-4 B	弥生後期-古墳前	2									S D547		16
S D511	I.K20	②-4 C	古墳中期-後期												2,9,12人骨1体
S D562	I.L20	②-6	弥生後期-古墳前	0-2											81
S D586	I.L20	②-6	弥生後期-古墳前	0-2											25
S F1	V.H22	②-2 B	奈良-平安	Ⅲ											19
S F2	V.H12	②-3	奈良-平安	Ⅲ										5,9	78
S F6	V.V14	②-2 C	弥生後期-古墳前											9	83
S F7	V.V18	②-2 C	弥生後期-古墳前												83
S F12	V.N20	②-3	奈良-平安	Ⅲ									S F3		179
S F303	V.G2	②-1 A	弥生後期-古墳前	1-2											83
S F304	V.G2	②-1 A	弥生後期-古墳前												83
S F401	V.O10	②-1	奈良-平安	Ⅲ											22
S F501	I.H23	②-6	時期不明												200
S G1	V.H25	②-1 B	古墳中期-後期											2,3	21
S G2	I.K1	②-5	古墳中期-後期											1,3,6,7	16
S G3	V.V24	②-2A-2D	古墳中期-後期											1,2,3,4,5,6,8,10,11	19
S G4	V.H22	②-1 B	古墳前期中心											1,2,3,4,5,6,8,10	21
S K1	I.H19	②-2	時期不明											10	17
S K5	I.H16	②-1 A	中世											9	195
S K103	I.H16	②-1 A	中世											9	195
S K107	I.H17	②-1 A	中世											12人骨(編)	195
S K109	I.H17	②-1 A	奈良-平安												17
S K117	I.H21	②-1 A	中世												26
S K149	I.H13	②-1 A	中世												195
S K315	I.H20	②-1 B 2	中世												26
S K329	I.H16	②-1 B 2	時期不明											3	17
S S611	I.P5	②-1 A	奈良-平安												17
S S605	I.K22	②-1 A	中世							9				9	26
S K676	I.K22	②-1 A	中世							9					26
S K702	I.H19	②-1 B 2	弥生後期-古墳前	2-3											84
S K718	I.H16	②-1 B 1	中世												26
S K1321	V.V16	②-2 A	弥生後期-古墳前	0-2											22
S K1442	V.O25	②-2 A	弥生後期-古墳前	3-											22
S K1324	V.H17	②-2 C	弥生後期-古墳前	0-1											21
S K1344	V.H17	②-2 C	時期不明												21

漢字名	フリック	地名	時代	時期	上巻内容	巻数	扉面額	厚薄高	対紙高	寸寸	綴	位置	紙組	合紙	備考	備考
S K1585	VB 4		②-2 C	時期不明										12		71
S K1635	VB A19		②-2 C	弥生後期-古墳前												21
S K1712	IVW 7		②-2 C	弥生後期-古墳前	0											20
S K1897	VB 8		②-2 C	弥生後期-古墳前												21
S K1939	VB 8		②-2 C	時期不明										12		21
S K2137	VB 2		②-2 C	弥生後期-古墳前												21
S K2137	VB 4		②-2 C	弥生後期-古墳前	0-2											21
S K2397	IVW 6		②-1 C	弥生後期-古墳前	0-2											20
S K2272	VB 2		②-1 C	弥生後期-古墳前	0-2											21
S K2300	IVV 21		②-2 C	時期不明										12		21
S K3303	VB 3		②-2 C	古墳中期-後期										2		21
S K3327	VB 3		②-2 C	時期不明										12		21
S K2407	IVV 2		②-2 C	時期不明												21
S K2561	VB 4		②-1 C	弥生後期-古墳前	0											24
S K2745	IVY 23		②-3 B	時期不明										12		18
S K2883	IV 3		②-2 A	時期不明										12		20
S K2936	IVY 4		②-3 C	古墳中期-後期										12		170
S K3062	IVN17		②-3 A	弥生後期-古墳前	0											19
S K3557	III K19		①-1 B 2	中世												139
S K3603	III K 7		①-1 B	時期不明										12		17
S K3658	III K11		①-1 B 1	中世										10		187
S K3781	III P 4		①-1 A	弥生後期-古墳前										12人骨1枚		85
S K3783	III P 4		①-1 A	弥生後期-古墳前												85
S K3797	III P 2		①-1 A	手紙										9,12人骨(南)		196
S K3875	III K18		①-1 B 2	弥生後期-古墳前	0											85
S K3927	III K24		①-1 B 2	時期不明												139
S K4100	III K12		①-2 B 2	平安	□									12人骨1枚		183
S K4127	III K 3		①-1 B 1	中世										12人骨(人骨)		183
S K4226	III K19		①-1 B 2	時期不明										6		196
S K4506	III P18		①-2	古墳中期-後期										9		17
S K4421	III P14		①-1 A	弥生後期-古墳前	0									4		18
S K4520	III K05		①-3 A 1	中世												85
S K5182	VI N25		②-3	弥生後期-古墳前	0									12		197
S K5231	VI W 6		②-2	弥生後期-古墳前	0											22
S K5340	VI R18		②-3	弥生後期-古墳前	1-7											85
S K5341	VI R18		②-3	弥生後期-古墳前	1-3											85
S K5343	VI W10		②-3	弥生後期-古墳前	0											85
S K5344	VI X 1		②-3	弥生後期-古墳前	0											87
S K5367	VI R22		②-3	弥生後期-古墳前	0											87
S K5414	VI R15		②-3	時期不明												23
S K5465	VI X14		②-3	弥生後期-古墳前	0											87
S K5496	VI W 3		②-3	弥生後期-古墳前	0											87
S K6006	VI O10		②-1	弥生後期-古墳前	0											22
S K7001	VI L 7		②-1 C	時期不明										12		159
S K7071	III L16		②-1 C	中世												197
S K7078	III I.21		②-1 C	弥生後期-古墳前	0									6		88
S K7147	III L21		②-1 C	弥生後期-古墳前	0											88
S K7149	III L21		②-1 C	弥生後期-古墳前	0-2											88
S K7152	III Q11		②-1 C	弥生後期-古墳前	0											88
S K7236	III Q11		②-1 C	弥生後期-古墳前	4-7											88
S K8273	III A28		②-4 A	時期不明												88
S K8959	IV V11		②-4 B	中世												159
S K9484	III B32		②-4 A	中世												198
S K9646	III G18		②-6	古墳中期-後期												200
S K9944	IV V24		②-6	弥生後期-古墳前												173
S K10130	IV E30		②-5	古墳中期-後期												16
S K10132	IV F34		②-5	古墳中期-後期												28
S K10495	IV S.2		②-4	弥生後期-古墳前	0-2									4		18
S K10440	IV N14		②-4	時期不明												20
S K14229	IV S19		②-4	弥生後期-古墳前	0									12		19
S K14226	IV S17		②-4	時期不明												20
S K14567	IV S 3		②-4	弥生後期-古墳前												20
S K14523	IV S12		②-4	時期不明										12		20
S K16266	IV B21		②-1 A	弥生後期-古墳前	0-2											21
S K16267	IV C 5		②-1 A	弥生後期-古墳前	0-2									3		21

付章 弥生時代後期以降遺構観察表

遺構名	グループ	地区名	形状	時期	方位	規模	床面積	基礎	土器	瓦	土	石	鉄	骨	その他	合計	備考	備考
SK1527	IVWC	①-13	不明													12		21
SK1631	III A	①-2 C	特殊不明													12		21
SK1572	III B	①-1 B	特殊不明													12		21
SK1689	III B	①-1 B	特殊不明													12		21
SK1670	IVF14	②-1 B	特殊不明															21
SK1670	IVW13	①-1 B	弥生後期-古墳前			3-4										12		69
SX1672	IVW22	①-1 A	弥生後期-古墳前			6												91
SQ1	IVG1	①-1 B	奈良-平安			I												90
SX401	IVK6	①-	特殊不明													12		201
SX506	IL24	①-6	特殊不明															201
SX507	IP5	①-4 C	弥生後期-古墳前			1-2												91
SX508	IL24	①-6	特殊不明															201
SX509	IL25	①-6	弥生後期-古墳前			1-2												91
SX510	IV5	①-5	弥生後期-古墳前															91
SX511	IV4	①-6	弥生後期-古墳前			1-2												91
SX513	III P	①-1 A	弥生後期-古墳前			3-4									S B32			92
SX514	IVS12	①-4	弥生後期-古墳前			3-4									S B 434			92
SX515	III P	①-1 A	弥生後期-古墳前			3									S B 602			17
NR3	IVV23	①-4	特殊不明													3		21

観察表 項目注

- * 時 期：第V章第1節に準ずる。特に弥生時代後期～古墳時代前期については、北部層年に合わせて紹介する。
- * 規 模・床面積：()内は残存部の数値 (m, m²) であり、面積計算の対象としない。
- * 形状形態：A正方形、B縦長方形 (厚またはカマドの中軸線が長軸)、C横長方形 (厚またはカマドの中軸線が短軸)
- * 材・カマド：1 地床型、2 土器敷材、3 カマド (地山もしくは粘土)、4 カマド (芯材に長割型)、5 カマド (芯材に π)、6 カマド (構造不明、周面に遺物・粘土散乱)、7 カマド (火床のみ)
- * 構 造：A 厚石あり、B 厚石なし、C 石支脚、D 粘土支脚、E 土器転用支脚
- * 焼失状況：1 で示す。
- * 合 成：複数の遺構を合成した場合に欠番となった遺構番号
- * 備 考：1 須志型、2 ミニチュア、3 石器、4 玉類、5 紡錘車、6 木製品、7 建築、8 土製品・土製支脚、9 鉄製品・銅製品、10 鍍金保資料、11 骨角器・鹿角切断品、12 人骨・獸骨
- * 図版番号：各時代の別遺構図で紹介した場合は別図版番号、全体図の場合は全体図の番号を示す。

報告書抄録

書名	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 12		
副書名	榎田遺跡	巻次	長野市内その10
シリーズ名・番号	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 37		
編・著者	土屋 積・古瀬長秀・広田和穂・賢田 明・山崎まゆみ・町田謙則・伊藤友久・侍田伊史・福島正樹		
編集・発行機関	財団法人 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター		
所在地	〒387-0007 長野県更埴市屋代清次260 6 TEL 026-274-3891 FAX 274-3892		
発行年月日	1999年3月31日		

所収遺跡名	榎田遺跡	長野県埋蔵文化財センター遺跡記号		BED	
遺跡所在地	長野県長野市若穂境内	長野県市町村コード	20201	遺跡番号	6348
遺跡位置	北緯 36° 37' 00" 東経 138° 16' 30" 標高 337.70～338.40m				
発掘調査期間	1989年 4月14日～同年8月12日、1990年 4月2日～1991年1月31日、 1991年 4月4日～7月31日、同年 10月21日～12月20日、1992年 4月 6日～12月17日				
発掘調査原因	上信越自動車道建設に伴う発掘調査	調査面積	44470㎡		
主な遺構と時代	弥生時代中期 住居址(44軒)・含む大型給石石斧製作関連資料を出土した住居址・竊土・溝址・環濠を持つ集落 弥生時代後期～古墳時代前期 住居址(約130軒)・周溝墓・墓址・溝址 古墳時代中期～後期 住居址(約520軒)・家屋基 大量の木製品と土器が出土した河川址(SG3) 奈良時代～平安時代 住居址(約36軒)・河川址・木棺墓 中世(15世紀中心) 掘立柱建物址・L字形の溝址・井戸址・墓址 時期不明 住居址(約290軒)・掘立柱建物址(約100軒)・土坑と溝址(多数)				
主な遺物	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・中世海磁器・玉類・ガラス玉・紡錘車石輪(弥生時代中期大津米磨製石器・大型給石石斧製作関連資料)・木製品・建築部材・ミニチュア土器・土製品・鉄製品・青銅製品・帯金具・古銭・羽目・骨角器・鹿角切新品・記録木簡・書簡木簡・墨書土器・人骨・獣骨・織物(弥生時代中期)				

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 37

上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12

—長野市内その10—

横田遺跡

第1分冊(本文編Ⅰ)

発行 平成 11 (1999) 年 3 月 31 日
発行者 日本道路公団
長野県教育委員会
長野県埋蔵文化財センター
TEL. 026-274-3891 FAX 274-3892
印刷 信毎書籍印刷株式会社
TEL 026-243 2105 FAX 243-3494

